

生命の科学

ジョージ・アダムスキー 著

篠 芳史 監訳

☆宇宙の意識：Cosmic Consciousness☆

宇宙の意識・英知・生命力

☆「生命の科学」研究講座

☆スペースブラザーズから G・アダムスキー氏を通じて私達に伝えられた真の科学的なメッセージです。

☆「哲学は科学である」 G・アダムスキー

第1課 生命の分析・因を知る

創造主
宇宙の意識
宇宙の生命力
原因と結果
人間とは・肉体とマインド（心）

第2課 マインド（心）とその構成成分

四つの感覚器官（視覚・聴覚・味覚・嗅覚）からなるマインド（心）
感覚器官同士の尊敬と奉仕
《感覚器官の訓練》
意識からの指令は印象により与えられる
《人体の創造》
英知の働き
マインド（心）と意識の融合
宇宙的マインド・世俗的マインド

第3課 宇宙の法則の応用

生命の呼吸
自然界の調和
宇宙の意識の完璧な調和と表現
自然の法則の理解・尊敬

第4課 万物の相互関係

元素類の化合・気体・液体・固体
エネルギーの存在・摩擦・静電気・運動
万物（フォーム）に表現されている英知
DNA・RNA・英知の働き
人体の英知の認識
万物の各段階の必要性

第5課 意識、英知、あらゆる生命力

意識による知覚
三次元（結果）と四次元（因）の相違
マインド（心）を意識の指導に従わせる

第6課 新鮮さ・マインド（心）を若返らせる

想念が人体を形成する
人体の細胞構造は宇宙の構造と同じ
過失の訂正

第7課 宇宙的記憶

意識とマインド（心）を融合する （融合：一体化）
宇宙の意識に従う
宇宙の意識を養う
宇宙の意識がマインド（心）の創造主

第8課 宇宙の一体性

あらゆるフォーム（万物）は生命の表現の場
細胞群は構成物の英知
フィーリング・バイブレーション・意識

第9課 宇宙細胞と世俗細胞の活動

マスターセルユニット・至上なる英知
(マスターユニット：送受信局)
世俗細胞を宇宙細胞に変化させる
テレパシー・無言で伝えられる印象の言語
細胞の科学的变化

第10課 意識による旅行

マインドの拡張
マインドと意識の融合
マインドは意識の指令を遂行する為に創造されている

第11課 宇宙空間を探索する

意識を通して見る方法
ディ・ドリーミング (白日夢・白昼夢)
意識による旅行 (土星・金星・火星)
トランス状態・テレパシー現象

第12課 要約 絶え間ない進歩のもたらすもの

☆スペースブラザーズの関与

☆要約

宇宙の意識に対する心からの尊敬・心からの感謝
宇宙の意識に対する心からの服従
宇宙の意識に対する心からの愛情

マインド (心) を宇宙の意識の法則に従う様になると (努力すると) 自分の身体
の細胞が宇宙のバイブレーションと共鳴 (共振) してその細胞が本来の宇宙
的な働きに目覚めます。

その結果、印象類は細胞からマインド（心）に伝えられます。
各種のテレパシー現象を体験しますが全て科学的（宇宙的）な働きです。
☆確実な実感を伴います。
☆人体はその様に創造されているのです。

練習は日常生活で行えます。
自分の関心の有る一項目で良いのです。実行する事です。
効果と副産物が現れます。

☆宇宙の意識：Cosmic Consciousness☆

創造主・神

☆本文中に出て来る《宇宙の意識・意識》の意味 （順不同）

万物の創造主

宇宙の英知

パワー・英知・生命力

因の領域

天国

神として知られる至上なる囁きの言語

フォーム・形態（万物・人体・身体）の創造者・製作者

万物に内在するもの

生命を維持する為に万物に内在する魂

砂一粒の生命

フォーム・形態（万物）から独立して存在するもの・表現体の生命

神の意思

あらゆる知識を所有するもの

真のあなた自身

神の部分

四次元

無限のパワーと英知

永遠なるもの

万物の父母

創造物の背後に存在する基本的なパワー・・・因（四次元）

目に見えない、耳に聞こえない真の英知

精神生活において最も重要な部分

養うべきあなたの半身

生命の基本的な状態にあり、全てを包括しているもの

自分の真の部分・半身

生命の海

父

個人の本体

第一課 生命の分析・因を知る

生命の科学に関する本講座は、研究を進めるに従い深遠なものとなるでしょう。ここで述べる生命とは、生命の、表現されるあらゆる状態を言います。つまり、我々は生命を探究するのです。宗教的・精神的分野を扱う際、信仰の有無に関わらず妨害されるべきではありません。何故なら神と呼ばれる創造主は、既知のもの・未知のものを問わずあらゆるものを創造したのです。そして、あらゆる創造物の父を知るには、父の創造物と創造された目的を研究しなくてはなりません。人間は創造主の最高の創造物としてその責任を委ねられています。この研究は、創作者が個人的には知られていない場合にその作品である有名な絵画を注意深く鑑賞する事と同じです。絵画を深く鑑賞する事によって絵の因である創作者のマインド（心）をより深く理解出来るからです。

我々は実物としての宇宙の神・創造主を見る事が出来ません。故に、その創造物を通じて創造主について学ばなくてはなりません。そして創造主はいわゆる自然の中に現われていますが、自然こそ至上なる英知が具体化したものです。前述の通り、創造主は全てを包含しているので、一人物としての創造主を我々は見る事は出来ません。しかし現象化された創造物は因なる英知が生み出した結果です。医師になる為に学ぶ時、人間の目・鼻だけを学ぶのではなく、人体の複雑な部分の全てを学びます。あらゆる神経・筋肉など、その目的と機能についても学びます。人体として表現されているフォーム（形態）を学ぶ時、意識を用いて深く観察する医師もいます。そして結果の内奥にある不可視なもの、すなわち因に気づきます。こうして、あらゆる動脈・筋肉・器官の目的、並びに各器官がいかに全身と関連しているのかを学びます。故に、人体に不調な部分がある場合に処置方法が分かるのです。

我々が自然を理解する為には、これと同じ研究方法に従わなければなりません。この方法によって、我々を取り囲み完全に創造主から分離させた神秘から解放され、我々は因と結果を理解する様になるでしょう。そして、我々の心から成る各感覚器官は、万物とその目的を理解するでしょう。そして、現象の内奥にある因を感じ・知覚するでしょう。従って、我々は意識の援助を受け、我々のマインドを進歩させるだけでなく、同時に意識による知覚も拡大させるのです。こうして、マインドと意識は一体化（融合）すると、我々は創造主に直面するでしょう。これが異星人、即ちスペース・ピープルが成長の為に用いている方法です。

人間のマインド、即ち感覚器官は結果に依存しています。しかし一方、意識は結果を生み出している事を、本講座を通して我々は常

に忘れてはなりません。意識は無言で印象（フィーリング）として我々に語りかけますが、印象とは神として知られる至上なる存在の囁きの言語です。一方、マインドは結果である言葉として音声で語りかけます。従って、第一課は本講座の中で最も重要です。本講座の全てを通して、あなたは結果のみならず因についても同時に学ばなくてはなりません。今後、本講座を読み進めるに当たり、必ずあなたのマインドと意識の双方を用いる様に十分に気づきながら研究を進めて下さい。それによって、結果の内奥には因と結果が一体となつて存在する事が分かります。因と結果は双方共に好ましい物事を生み出す為に必要です。最初これは簡単ではないでしょう。それはこれまで我々はマインドだけで学ぶ様に教えられて来た為、想念の奥にある意識・コズミック・インパルス、即ち宇宙のスパークを認める事が出来ないからです。意識の存在に気づき、あらゆる物事を行なう際に応用すると、理解力を急速に発達させる事が出来るでしょう。そして、十分に意識に気づき始めると、最初はまだで自分が二人存在する様に感じるでしょう。心として活動する自分と意識として指令を出す自分です。

過ちを恐れてはいけません。しかし、あなたが過ちを犯した事に気づいた場合は出来るだけ早く訂正しなくてはなりません。訂正を怠るとあなたの進歩の妨げとなるからです。しかし後悔してはいけません。後悔はあなたを必要以上に用心深くするからです。過ちとは法則の誤用が生んだ結果であり、その体験を通して我々は正しい方法を学ぶという事を常に忘れてはいけません。体験は知識を拡張する為に必要なのです。

我々が分類している善悪どちらであっても、行為は全て完全である事を忘れてはいけません。それは、何を行なうにしても、あなたのマインド・身体・意識が完全に調整される必要があるからです。つまり、行動し体験を積む事によって、あなたは完全な状態へと成長するのです。イエスでさえ多くの不快な体験をし、神殿から両替屋を追い出した時は過ちも犯しました。他人を裁いてはいけなと弟子達に教えていたからです。しかし過ちに気づくとイエスは神殿の前に臥（ひれふ）して父に許しを請いました。現代に生きる我々は更に重要な責任を負っています。古代の人々よりも多くの争いや誘惑にさらされているからです。従って、我々が生まれた目的を理解して成し遂げ様とするのであれば、より強く気づき決意する事が必要となります。

我々は理由、即ち目的があるからこそ生まれて来たという事実間違ひはなく、多くの目的と理由がある筈です。これが真実ではなければ人間は存在する必要がない事になるでしょう。人間にとつて最大の目的は―宇宙の英知を無限に表現する事―にあると思われまゝす。それは、他の創造物がそのような能力を持つとは考えられないからです。しかしその為には創造物のあらゆる段階を理解する必要があります。イエスが弟子達に語った―父の仕事―とはこうした生き方を述べたのです。しかしこの生き方をする為には、最低から最高に至る迄あらゆる現象を学ぶ必要があります。全てが完全に等しい二人の人間は存在しません。それは各人に授けられている異なる

才能が違いを生み出すからです。しかし才能はピアノの鍵盤と同じであり、鍵盤一つ一つの音色を学んで弾くと美しく調和したメロディが生まれ、学ばずに弾くと全く逆の結果になります。故に、我々が用いるべき資質を理解する事によって、自分を理解する為の努力をしましょう。

それでは先ず人間とは何でしょう。一つの結果として人体を見ると、肉・骨・血液により構成されている事が分かります。これは他の動物と同じです。人体は無数の細胞から構成されていますが、肉眼では決してフォームを構成しているものを見る事は出来ません。各細胞はそれぞれ独立し共通の利益とフォームとしての人体を維持する為に他の全ての細胞と調和しています。これは地球上の三十億以上の人間が（1965年当時）人類として一大家族を形成しているのと同じです。ところが、人間は人生における役割を教わっていない為に混乱しています。この混乱は世間全体の秩序からすれば僅かです。そうでなければ地球は大混乱状態に陥っている事でしよう。従って、ここで混乱の原因について調べてみる必要があります。

一般の人はエゴに支配されているメンタリストであり、エゴとは単に因から生じた結果の一つに過ぎません。そして、マインド（心）は学びの過程にいる為に他の具体的な結果に導かれる傾向があり、しかもマインドの理解していないものは沢山あります。マインドが理解しないものは恐れ嫌われますが、感覚器官、即ちエゴであるマインドが快く感じる物事は好まれます。しかし、好ましい物事が障害となり個人を進歩的な学びから妨げる場合があります。

自然を観察すると、生命は分裂する事なく万物に役立っている事が分かります。そして、人間の自由な意志が、生命の自然な表現から人間を引き離してしまったと考えられます。そこで、我々は第一に、感覚器官からなるマインドの調整をしなくてはなりません。今迄行なってきた様に、マインドの結果を最終的な結論とみなさない様にする必要があります。それには、ある結論に至る迄に結果の生じた理由について忍耐強く分析するのです。個人的な結果であれ、他人または他の生命あるフォームに関わる結果であつても同じです。

ここで、樹木として表現されているフォームを例に樹木の存在する目的を分析します。結果を観察すると、生命ある樹木として、また製品の原材料として多くの面で役立っている事が分かります。幹の部分から採られた木材で有益な製品が生産され、落葉により地面を肥沃にします。樹木から放出されるエネルギー、即ち生命力を見る事は出来ません。しかしそのエネルギーがなければ前人未到の森林地帯に見られる清涼な空気は存在しないでしょう。何故なら、樹木は炭酸ガスを酸素に変換しますが、この作用は生命に必要不可欠なものだからです。植物は全てこの分野で役立っています。フォームである結果を観察する際に、体液、つまり生命の血液を見る事は出来ませんが、これは樹液と呼ばれるもので、樹木の内部を循環し生命を与えています。又、地中深く存在する根も、地中から樹木へ

と養分を吸い上げる際の根の働きも目で見る事は出来ません。樹木を形成している細胞群が意志を伝達し合い目的を遂行する為に導き合う声を聞く事も出来ません。これらは結果の内奥に存在する因と言えるでしょう。結果を見る時には、一体となって表現されている因と結果を同時に見るように訓練しなくてはなりません。フォームとは単に結果を肉眼で認めたものに過ぎません。マインドは意識を通じて因に気づかなければなりません。あなたの目がフォームを見た瞬間に意識はフォームの内部に生命があるという印象をマインドに伝えるでしょう。すると、イエスがそうあるべきだと語った様に、マインドを統一する事になります。マインドでフォームを見る時、意識は因の存在を印象として伝えますが、こうして我々は目に見えるもの・見えないものを同時に見るのです。

例えば紙面に家の設計図を描く場合、あなたは意識からの印象によつてマインドに伝えられた最初の結果を描きます。この際あなたは意識とマインドを一体化させ働かせています。意識はデザインが如何にあるべきかマインドに注意を促します。設計図を描き終えてみると、かつての経験に基づく改良点が多く加えられているでしょう。この時でさえ、これまであなたが知る家にはない改良点を意識は示しているのです。これは英知におけるマインドの成長と言えるでしょう。物事の内奥に存在する意識なくしてあなたが成し得る事は何一つありません。

結果の善し悪しに関わらず、あなたのマインドは受けた印象を変更、又は修正する可能性があります。これは、マインドの持つ英知、つまり如何に的確にその印象を感受出来るかによります。好ましい結果を得るには、マインドが意識を完全に信頼し、意識の指令に従う事を認めなければなりません。

ところで、あなたは盲目的信念に従うのは嫌だとも思いますが、マインドの奥底から可能だと感じる事を成し遂げるには、盲目的信念に従わなくてはなりません。では盲目的信念とは何でしょう。家を設計している時、あなたは盲目的な信念を用いていたのです。なぜなら、家は未だコンクリートや壁土で仕上げられた建築物として存在しているわけではないからです。あなたが生活する上で行なう事は全て、盲目的な信念を持つて行なわれます。どんな行為でも結果がどうなるかは分かりません。歩くにしろ乗り物に乗るにしろ、何を行なうにしても順調に行き事を願つて行なわれますが、確実ではありません。生活の99パーセントを我々は盲目的な信念に依存しているのが現実です。残る1パーセントは過去の経験に頼っていますが、同じ事を繰り返しても結果が同じであるとは限りません。

信念はあらゆる現象の基盤です。信念を持たない人は羅針盤や船長の欠けた船の様なものです。ひとたびあなたのマインドが信念を信頼すると、意識の指導を信頼する事になって、意識とマインドを一体化させて働かせる事になります。そして、因、即ち神の意識と、結果、即ち人間のセンス・マインドは一体となります。そして生命に関する最大の神秘は解明されます。

では意識とは何でしょう。意識とは万物の創造主、即ち生命力であるという事以外解明されていませんが、意識がないと、人間は生命ある存在でなくなるでしょう。意識を最も分かりやすく言い換えるならば、人間においては目覚めている状態と言えます。そして目覚めている状態とは、フィーリングを感じている状態、即ち気づいている状態です。動物においては、音響に頼る必要のない本能として知られています。意識の言葉は創造主の言葉であり、未だ経験していない物事について感知（知覚）し始める時に感じるものです。イエスはこれを―見聞きせず信じる者は幸いである。彼らは天国に入るだろう―と表現しています。天国とは因の領域・意識、即ち永遠なる生命の海を表わします。何故なら意識はあらゆる現象を生み出すからです。

いうまでもなく我々は皆、加工前のダイヤモンドの様なものです。後にダイヤモンドになる原石を最初に見つけた時、視覚的には只の石に見えるだけでしたが、発見者の内部から何かがこの石は他の石とは違うと囁いたのです。マインドではなく発見者の意識が、この石をカットし研磨すると、かつて見たこともない様な最高に美しい石になるという事実を囁きました。その石は想像を絶するあらゆる色光を放ちます。しかしそれには忍耐と多くの試練が必要とされ、鋭利な刃で削られる時には苦痛さえ伴う場合があります。人間は皆いわばダイヤモンドの原石であり、自己の純度を見つけるには、削り取らなくてはならない多くの粗い面があります。削り取る作業は何れも楽なプロセスではなく、大抵何らかの苦痛が生じます。しかし多くの苦痛に耐える程、石の輝きは増します。磨き上げられたダイヤモンドは、表面に刻まれた各小面から純粋な輝きを反射するでしょう。そこに宇宙の周波数（Frequency）が十分に表現されるのであれば、不完全さは何一つ存在しません。

生活のあらゆる分野における人間の思考の習慣は、過去と現在の教訓に関連したものであり、削り取らなくてはならない粗い部分です。他の部分よりも削り取る事が困難な部分もありますが、目的を伴う決意が望ましい結果をもたらします。そして、初めは受け入れ難く不快であろう輝き、即ち新しい習慣が確立されます。しかし、新しい習慣全てが定着すると、それまで人間として知られていたフォームを通じて神の栄光が現れるのです。転がる石に苔は付かないと言われて来ました。しかし物を蓄積させる事を苔に例えますが、これは宇宙の英知の中における人の成長を妨げて来ました。しかし転がる石は諸問題に直面し、他の岩に衝突して磨かれ、不必要な破片が取り除かれます。人間の持つ素晴らしい能力の真の美は苔で覆い隠されています。苔の他には何も見えませんが、それは人間の真の姿ではなく、フォームである身体の上で生きる寄生植物の姿です。

苔は人間の持つ習慣に相当するもので、真の人間の姿を覆い隠しているのです。転がる岩は、多くの問題や大きさが倍もある岩に衝突し、苦痛に耐え、衝撃で欠けながらも転がり続けます。そして、精巧に磨かれ、遂に成分である無機物本来の姿と色光を現わします。親和の法則に基づき鉱物が互いに結合し、美しいデザインが形成される場合もあります。この状態に至るには長い年月が必要かもしれ

ませんが、忍耐と決意によって、人間は自分の美を絶え間なく増す純度の中に表現する事が出来ます。そして神の国の救世主となるのです。

生命を探究する人が最初に為すべき事は、因と結果について絶えず気づく様にマインドを習慣づける事です。すると、マインドはこれまでの様に単にフォームを視覚だけで見るのではなく、意識が明かすフォームを支える不可視の存在を認める様になります。これは視覚では見る事の出来ない車の動力発生部の働きを十分に気付いて運転する様なものです。

本講座をただ読むだけでは価値はなく、日々刻々の実行が結果を生み出すでしょう。講座に関する疑問があれば書き留め、今後の講座の中に答えが見つからない場合は私宛に質問を送ってください。

(ジョージ・アダムスキー氏は1965年に他界)

第二課 マインドとその構成成分

第一課では、部品の全てを十分知覚し気づきながら車を運転する考え方について述べました。それでは感覚器官から成り立つマインドの分析を進めます。センス・マインドは絶え間なく学びながら創造される過程にあります。そして結果を観察する事によって、まるで感光板の様に印象を受けます。そして多くの場合、センス・マインドの判断は自然の法則と一致しません。

マインドの働きを更に理解する為に、ちようど別々の人間の様にマインドを四つの部分に分けて考えてみましょう。最も優位を占める器官は視覚です。次は聴覚です。そして味覚・嗅覚の順になります。それでは触覚はどうかと言えば、刺激に対する神経の反応であり、感覚器官には属しません。しかし、マインドに感覚器官の反応を伝える役目を担っています。

感覚器官はそれぞれ独立して働いている為に、他の感覚器官と対立する場合もあります。例えば視覚は花が美しいと認めても、その香りを嗅覚が好まない為に拒絶する場合、マインドの統一は既に崩されています。他の感覚器官においても同様であり、ある感覚器官が好み、他の感覚器官が好まない場合があります。そして、こうした分裂状態が長く続くと痛みや不快な症状が現れます。イエスは二心ある者は何事もなし得ないと語りました。ある感覚器官が好み、他の感覚器官が好まない状態は二心ある状態です。故に常に心を統一せよと弟子達に諭したのです。言い換えれば、奉仕の為に四つの感覚器官の全てを統一させるのであって、裁く為ではないという事です。これは唯一意識の指令によって行なう事が出来ます。何故なら意識の中には好き嫌いという概念は存在せず、意識はあらゆる現象の目的を理解していますが、マインドはそうではないからです。

あらゆる現象は意識の中で受胎し結果の世界へ生み出されます。ちようどマインドが意識の中で受胎し、マインドとしての概念を持つ結果として生み出されるのと同じです。それ故、マインドは結果によって容易に左右される傾向があるのです。そして、マインドは知識を持たずあらゆる結果が生まれた理由も理解せず好き嫌いで判断します。快適な状態を望むのなら、いずれはこの様な好き嫌いによる考えをマインドは退けなくてはなりません。世の中のトラブルは全てこうして引き起こされてきました。そして、問題が手に負えなくなると人間は神の手に解決を委ねようとしています。

神は全てを包含する意識であり、目的を持って万物を生み出しました。それで偉大な英知が状態を修正してくれることを人はそれぞれ

に願います。しかし、修正方法が示されたとしても、マインドは拒絶する場合が殆んどですが、それは最初に過ちを犯したマインドが理解出来ないからです。マインドは無駄な抵抗の態度をとって怠惰な状態に陥り、全く機能しない時もあります。マインドは過ちを訂正して学ぼうとする代わりに責任を逃れ様とします。神は自ら助けるものを助けると言われてきました。従って個人が望ましくない結果を修正して良き現象を生み出すには自分で行動しなくてはなりません。センス・マインドのプライドは苦難の過程を経ますが、感覚器官に依存している人は体験を通して学ばなくてはなりません。そして、体験する事により感覚器官が互いに尊重し合う様に訓練する必要があります。何故なら、感覚器官が互いに尊敬感を持たない為に、人間は自分の存在に尊敬感を持つ事が出来ないからです。その為、感覚器官の何れかが好ましいと感じる人以外に対して尊敬感を持つ事が出来ません。センス・マインドが訓練しようとせず意識に従う事を拒むなら、今迄と変わらない状態が続くでしょう。

家族が幸せである為には、自分が尊敬して欲しい様に家族の各人は尊敬し合う必要があります。そして指導者としての両親を信頼し信じなくてはなりません。これは感覚器官についても同じです。何故なら各感覚器官は人間という住まいを作り上げている家族だからです。そして感覚器官は互いに尊敬し信頼し信じる様に指導を受けなくてはなりません。

特に、意識に相当する両親を信頼する事が必要です。マインドは沢山の習慣を養ってきた為、本来の状態に戻る事は簡単ではありませんが、天国の様な幸せな生活を望むのなら、意識を信頼しなくてはなりません。生命について、その理由を学び理解する以外に方法はありません。

《 感覚器官を訓練する 》

では如何に感覚器官を訓練する事が出来るでしょう。視覚は結果に支配されていますが、それは、視覚が意識から生まれた結果である為に目で見えるものの内奥に存在する因までを理解しようとしなからずです。そして、あなたがこれ迄に第一課を十分理解していれば、各フォームが創造された目的を知りたいと望む筈です。そしてこれは第二の視覚、すなわち意識の眼を通して結果を見る事によって、マインドに印象として伝えられます。前述の通り、マインドを統一させて見るのです。

教室で授業を受ける生徒が良い例ですが、優秀な生徒は教師の指導に従い、授業中は自分勝手な意見を持ちません。授業が終わった後に、与えられた内容の正しさや自分の生活のどんな部分に応用出来るかを試みます。別の生徒は、教師の話す内容を推測して話の内容を先走って解釈し、重要なポイントを聞き逃し、話された事柄について明確な知識を得る事が出来ません。優秀な生徒の方は指導を受

ける事によって進歩しますが、他方の生徒は進歩しないでしょう。注意深い生徒の場合は、授業中に聞こうとしてマインドを謙虚に保ちましたが、他方の生徒は攻撃的になって大切な要点を見失ったからです。

マインドが意識から学ぶ為には、謙虚になり、マインドをクリアな澄んだ状態に保ち、各要点を感じなくてはなりません。何故なら、指令は唯一印象によって与えられるからです。物を見、音を聞くとしても、印象はマインドとは全く別に伝えられるでしょう。意識はマインドの様に習慣に支配されません。

私が初めてスペース・パーソンとコンタクトした時、マインドは多くの事柄を知ろうとしましたが、私の生活習慣と一致するものについては尚更でした。私はマインドをコントロールし沈黙させる必要がありました。そうしなければ相手が伝えようとする印象の全てを感じ出来なかつたでしょう。もし伝えられる事柄を推測していれば、会心の意義を見失ったに違いありません。

その後のコンタクトで許可が与えられ質問した時も、与えられた知識をマインドが調整しない様に忍耐が要求されました。与えられた知識の多くは当時の自分の生活様式に合わないものでしたが、忍耐強く知識を与えてくれる相手を信じました。最初はまるでパズルのピースを与えられた様でしたが、最後に全てのピースが置かれるとあたかも絵の全体像が浮かび上がる様に話の全容が明らかにになりました。忍耐力に欠け、情報を与えてくれる人々を受け入れなければ、貴重な宝石の様な知識を失い混乱するだけで終わつたでしょう。

指導者に対して子供の様に素直になつた事で多くの恩恵を授かり、今まで住んでいた世界の代わりに、今は宇宙の王国に住んでいます。

意識は宇宙の教師ですが、仮にその生徒であれ、私が行なつた様にしない限り、混乱以外何も得る事は出来ません。

多くの人がコンタクトの際に何故詳細な質問をしなかつたのかと尋ねますが、そうした些細な事柄について質問していたならば、今持つ知識を得られなかつたと思います。イエスは―幼子のようにならなければ天国に入る事はできない―と語っています。天国とは因の国です。聖書には―隠されているものは必ず明かされる―と書かれています。忍耐と信念がこうした報いを受ける為の基礎となります。何故なら短気を起こすと失敗するからです。

聖書には更に―人間は多くの才能を持つ―と書かれています。そこで無限の可能性を持つ人間に与えられている多くの才能を観察してみます。そして、宇宙の計画の中でそれぞれが重要な役割を担っているが故に、人間は皆平等です。

以上の事を説明する為に大規模なビルの建設を例に挙げることが出来ますが、新しい設計様式で建築される場合は特に良い例になります。完成したビルは意識によりマインドのスクリーン上に画像として投影されます。ひとたびマインドがその画像を明確に見ると、構造物のデザインを保つ為に印象による青写真が描き出されます。家の設計図を描く場合と同様に、これは因から生じた最初の結果です。そして、青写真は具体化する為に才能ある責任者に手渡されます。手渡された人は手順に従い熟練工や建築の為の資材を調達しま

す。最初に仕事に従事する労働者は最もレベルの低い才能の持ち主と見なされるかもしれませんが、それは、ビルを建てる土台の排水溝工事を請け負うからです。しかし、土台がなければビルは建設出来ません。続いて建築物を完成させる為に多くの才能が発揮されます。歴史的な記録や装飾等の最終的な仕上げが入口の内壁の壁画に施されるでしょう。そして、その為、最高レベルの芸術家が仕事に従事します。しかし画家が持てる才能の全てを駆使しても、使用する塗料である顔料がなければ課せられた作品を製作出来ません。その顔料は、必要とされる様々な精練の行程を経て職人により製造されます。画家にとってなくてはならない絵筆や他の道具についても同じです。これらがなければ画家の才能も価値のないものとなります。

以上の例から、最も低いと思われる才能が最高とされる才能と対等である事が分かるでしょう。そして、平等と言う言葉が表わす真の意味を理解しなくてはなりません。しかし、これは世間の平等についての一般的な定義とは遥かに異なります。

更に明確に説明する為に他の例をあげます。ソロモン王は神殿が完成した時、最も貢献した人を探し、式典の際に名誉を与え王座の隣に席を設けると告げました。そこで様々な技能で貢献した沢山の人が祭典の為に着飾って出席しました。皆が名誉を望んでいたのです。

すると、一人の鍛冶職人が仕事着のまま入ってきました。鍛冶場での作業を終えて来たので、焦げたエプロンに汚れた手のまま、さつさと王座の隣席に座ったのです。この様子を見て参列者の間からどよめきが起こり不平の声が起りました。王は鍛冶職人の方を振り向き、ここに座る正当な理由は何かと尋ねました。すると鍛冶職人は席から立ち上がり、大衆に尋ねたのです。誰があなた達の使ったコテやコンパスを作ったのかと。それは鍛冶職人である君だと、皆は答えました。次にコテやコンパスを使わずにこの神殿を建てる事が出来ただろうかと尋ねました。出来ない、皆は答えたのです。それを聞いて彼はこう言ったのでした。それなら名誉は私のものだ。

この様な平等は金星や土星で活かされています。才能はそれぞれ創造主から創造物に授けられたものとして尊重されているからです。努力を要するスポーツ・芸術などの如何なる分野においてもそうです。地球上で見られる様な競争意識はありません。むしろ、授けられた目的を十分に遂行する為に、各個人の才能を最高の状態で表現しようとするフィードバック、すなわち要求を持つて行なわれます。成功に対する報酬を望むのはエゴのマインドだけです。イエスはこの真理について――この世の人達からの報酬を望んでも天国へ持ち運ぶ事は出来ない――と言っています。また――明日の事を思いわずらうな。鳥は種を撒く事も穂を刈る事もしないが父は養ってくださる――とも述べました。しかし、これには意識を完全に信頼する事が必要です。イエスは――あなたの方の身体は衣服に優るではないか――とも述べています。この法則に従い金星の人々は生活しているのです。

言うまでもなく、日々の生活で出会う人がみな重要です。お互いが重要であると知る事が大切であり、進化した惑星の人々はホーム

惑星でその様に過ごしています。この法則に従い、各個人の努力が直接・間接に関わりなく他人に奉仕を行なう事で報われるのです。それでは、犯罪者や傷害事件を起こした人についてはどうかと思われるかもしれませんが、これは行為者が結果で物事を判断する様に教えられて来た事による過ちと考えられます。そして、殆んどの人が結果に導かれる為に我々は過ちを犯すのです。しかし、我々が賢明であり理解を望むのであれば、過ちの理由を知って訂正しなければなりません。

体験によつて学べる事を我々はむしろ感謝してよいのです。なぜなら、過ちを体験しなければ、我々はより良い方法を見つける事は出来なからです。歴史は必ずしも繰り返される必要はありません。人の行為こそが歴史を作り出すのです。これについては今後の講座の中でより詳細に扱いますので、ここではマインドについて更に解説を続けます。

マインドが知識を持つ人間そのものであると我々は今まで教えられてきました。しかしこの概念は真実ではなく、マインドとは一つの結果であり、人間としてのフォームの内奥に知るものが存在しているのです。マインドを謙虚な状態に保ち、フォームを通して働いているマインドを観察すると、いかにマインドが無知であるか分かります。

世の中には素晴らしい人々が存在する事は間違いありません。近年における新しい発明の数々がそれを立証しています。エレクトロニクスの分野においても奇跡的な実績が挙げられています。宇宙空間の何マイルも彼方にある装置類を地球から修正し、地球を巡る起動上の宇宙船乗組員とメッセージを交換する等の業績でさえ、意識の指令に傾聴した場合の人間のマインドの可能性を現わしているに過ぎません。

しかし、現在我々の持つ知識を総動員しても、人間としてのフォームを創造し我々と同じ機能を与える事の出来る者はこの世に存在しません。

ところが、フォームの中にはこの知識が内在し、子供の誕生として日々現象化されています。無数に存在する他の動物達も同じです。従つて、マインドが学ぶ為にどこか遠くに行く必要は全くありません。何故なら、マインドが謙虚でさえあれば、マインドが働いている身体を通して、フォームの内部に既に存在している知識をマインドは学ぶ事が出来るからです。ここで―自分自身を知れ。そうすれば全てが分かるだろう―と言う諺がどこから生じたか分かります。創造物は皆この法則に支配されているのです。そして、今まで語られた真理でこの真理ほど偉大なものはありません。

《 人体の創造 》

妊婦は体内で妊娠状態が起きている事は知っています。しかし、妊婦のマインドはフォームの創造の過程で何が行なわれているかは知りません。妊婦は何が行なわれているのかと何度も気になります。胎児の成長に責任を負っているのは英知ですが、決してこの様なタイプの英知を正確に知るマインドはこの世に存在しません。受胎から誕生までの設計図が既に作られているのは確かです。ところが、刻一刻とフォームを形成する英知の姿は見えません。この英知は人間の、そして母親のマインドを超越した存在であり成長過程をマインドは知る事が出来ません。これは、マインドが自分よりも偉大な存在である英知に支配されている証拠です。そして、より高度な存在である英知の指令にマインドが従うのであれば、英知と同じレベルにまで到達する可能性をマインドは持っているのです。

では、より高度な英知とは何でしょう。それを探るには、再び定義の為に意識について述べなくてはなりません。

意識は、母親のマインドに、普段は食べる事のない食物を摂取する様に印象で伝える場合があります。その食物に含まれる成分が胎児の成長に必要なのです。そして、この英知が母体の内部に衝動を生み出します。音声による指令が聞こえるわけではありませんが、母親のマインドは確かに何らかの変化が起った事を感じます。これは意識から印象によってマインドに伝えられますが、意識は我々の知る様な音響を用いません。この意識こそ胎児としてのフォームの創造者・制作者と言えるでしょう。そして、この創造はすべてマインドとは無関係に行なわれます。それにも関わらず、マインドは妊婦にとつての食物同様、伝えられる印象に抵抗し邪魔をする場合もあります。しかし、その食物を摂取しないか又は出来ない場合は、不完全なフォームが創造されます。

以上妊婦を例に挙げましたが、我々は皆、日々の生活において意識からマインドに伝えられる印象を無視して避けられる筈の多くの不完全な行為を起しています。これは、マインドが長期間高慢な状態にあり、両親―意識について考え様としなかった為です。マインドは過去の行為によって保たれ、前進せず歴史を繰り返しています。繰り返しも多少の進歩にはなります。しかし、戦争における人々の不和と同様に、過去の体験を踏石として進歩する事なく、マインドの行為は未だに過去に根付いています。しかし、意識の指令に従う事によって日々新鮮さを生み出すチャンスがマインドにはあるのです。

マインドは知識と信念の欠如によって生まれる恐怖に動かされています。マインドが変化する時、次の瞬間何が起るか全く分からないうです。恐怖がマインドを操り、地球人の殆んどを様々な形で支配しています。恐怖が主要な要因である事に気づいている人は極めて稀です。

これは、人間が長期間いわば恐怖に支配されている一族の子孫であり、今やそれが当然の生き方とと思っている為です。しかも、我々は恐怖している事さえ気づいていません。恐怖とは生命を支配する法則に対する理解力の欠如です。そして、この法則は結果を研究しても学ぶ事は出来ません。人間の体験から得た結果については尚更です。これらは殆んど恐怖の指令から生じた結果なのです。

フランクリン・D・ルーズベルトはこれを―恐怖そのものの以外に恐怖すべきものは存在しない―と巧みに表現しています。恐怖が恐怖を更に増大させるのです。また故ケネディ大統領は次の様に述べています。国家があなたに何を為し得るかではなく、あなたが国家に何を為し得るかが問題だと。私であればこう述べるところです。神があなたに何を為すかではなく、あなたが神に何を為すかが問題である。また、神とは、すなわち人間の意識であり、次の様に言い換える事が出来ます。意識がマインドに何を為すかではなく、マインドが意識に何を為し得るかが問題であると。

我々は皆、人生を苦勞しながら過ごし、とくに困難な場合もあります。しかし、今こそ意識という永遠の本道の中央に落ち着く時が来たのです。心という側道は避けなければなりません。中央のバランスが人生をずっと容易なものに変えます。この本道の上であらゆる創造物は皆、創造主から授けられた英知を表現している事に気づくでしょう。何故なら、意識とは砂一粒の生命でもあるのです。意識はフォームとは独立して存在し、万物に生命を与えています。意識は声なき声・我々が印象と呼ぶ言葉で語りかけますが、それはどんな音響より遙かに大きな力で働きかけます。そして、我々は皆こうした意識が最高に表現されたものです。意識がなければマインドは存在しないと思われるからです。

マインドはテレビが放送する映像を室内で楽しむ事も、大気中の音や音楽をラジオという増幅器を通して聴く事も出来ます。他の感覚器官も同様です。しかし、身体から意識が取りあげられると、我々はそのフォームは死んだと考えます。一方、マインドの機能が失われ、全ての感覚器官が極めて不活発になっても、意識がある限り人間は生存しています。

これは、意識がマインドとは独立して存在出来る事を立証しています。一方、マインドは意識がなければ存在できません。

この人間の二つの状態を考える際に、一人が他方に依存した状態で共に住む二人の人間に例える事が出来ます。一人は心・一人は意識です。意識の部分は宇宙的・心は世俗的です。

創造主である意識を理解し一体化する迄に、世俗的な心は宇宙的な部分である意識と融合する様に学ぶ必要があります。マインドと意識を融合する為には、その行為が何であれ、マインドは行為の内奥にある因について考える習慣を持つことが必要です。そして、各行為を分析し、その行為が過去の経験に基づく習慣的なもので単に心の要求である自己中心的なものか、あるいは達成する為に努力する必要がある宇宙的な性質のものか観察するのです。

表現されるものが何であれ、表現体の生命、すなわち意識をマインドに認識させ尊重させなくてはなりません。しかし、意識はフォームや人間から尊敬される対象ではなく、あらゆる行為においてあらゆるものの為に差し出されるだけです。何故なら、意識そのものは

善悪の区別をしますが、意識の指令は常に我々が善と呼んでいるものに向けられています。

意識から伝えられる印象を我々が誤解すれば、好ましくない結果を生じます。マインドは度々指示されるのを嫌い、自分勝手に行動するからです。マインドは、熱いストーブに触ると火傷すると注意された子供のような状態の時もあります。それでも、子供は注意されることを嫌い、火傷して痛い思いをするのです。しかし、例えばこれが厳しい学び方であっても、子供は体験を得たのです。

神の意志とはよく用いられる言葉です。神、すなわち意識の指令によって学ぶ事が出来ないのであれば、神は苦痛を伴う結果をもたらすあなたの心の意志によって学ばせます。従って、あなたの体験に対して神に責任はありません。

第一課を学んだ方々から報告が届いていますが、真に熱心な人は素晴らしい成果を挙げています。これは驚くにあたりません。今まで発生した物事は全て意識の中に記録されて、マインドの注意力の増加に伴い意識から情報を引き出す事が出来るのです。

以上がブラザーズにより本講座が簡約された理由であり、従って今まで伝えられたいかなる講座とも異なります。この簡約された講座の中に研究者が応用しなければならぬ主要な部分が伝えられています。

創造主の法則は極めてシンプルです。そうでなければ、イエスが「幼子のご様であれ」と言う筈がありません。子供は疑いを持たず物事を真つすぐ見ようとします。今まで人間はマインドを用いた困難な方法で全ての物事を行なってきた。そして、神秘など何も無いところに神秘を重ねて来たのです。それどころか、不可能な物事も一つもありません。

第三課 宇宙の法則の応用

第二課では『神の意志』について述べました。そして、神はあなたの体験に対して責任がないことを説明しました。これを明確にする為に電気を例に挙げましょう。

電力会社の発電所の職員は電気を供給し、あなたはそれを役立てることが出来ます。職員は電気の作用と正しい使用方法を知っています。そして、我々は電気の使用方法について指導を受けますが、指示通りに使用すれば多くの事に役立ちます。法則に従えば安全に電気の実験を行なう事も出来ます。電気のソケットは電気が流れている時に指を差し込む為のものではなく、電球を固定する為のものです。たとえ差し込まなくても濡れた手で触ると感電します。従って、電気の法則を誤用して負傷し不快な体験をしたとしても、電力を善意で供給してくれた人を非難する事は出来ません。電気の法則に対して無知であった事・粗野な行為をした事で自分を責めるべきです。

創造主は生命力と意識という経路を通じて英知を私達に与えています。個人的なエゴのマインドは法則に従って英知を用いる事も、法則を犯して用いることも可能であり、電気の場合と同様に良い結果・悪い結果どちらでも導き出せます。各個人はその選択の自由な意志を与えられています。

適切な例として、ここで再びテレビを取りあげましょう。テレビ受像機そのものにはパワーも英知もありません。テレビには人間の脳やマインドに匹敵する機能が装備されていますが、電力が供給される迄は作動出来ません。電気が流されると知的な表現が映し出されます。テレビにとつて英知に当たるものはエーテル、すなわちメッセージを運ぶ電波という手段を通じてテレビ受像機に吸入されます。そして、電波がテレビ受像機に入ってくると映像が映し出され、メッセージのみならず、画面上に動く映像としてひとつひとつが表現されます。私を知る限り、米国では80の異なる周波数を持つチャンネルがあり、番組が放送されています(1965年当時)。各チャンネルは独立していますが、中には非常に周波数が近い為、他のチャンネルを妨害する場合があります。そこで、各チャンネルを区別する為に、性能の良いテレビが必要になります。チャンネルは皆同じ電力と同じ法則に基づいていますが、わずかなチャンネルのみ映るテレビもあります。しかし、どのテレビも、映像を映し出す為に電力と電波を必要とします。また、受像し続けるには電波の

吸入と放出が必要です。

従って、これは人間にも当てはまります。人間もテレビと同様、あらゆる表現の可能性を予め備えています。そして、人間も生命の息を役立たせる為に呼吸が必要です。呼吸を止めると人間は動かない、只の制止した道具となってしまう。又、吸入するだけで放出されなければ、表現し続ける事は出来ません。活動し続ける為には生命の呼吸がフォームに通されなくてはなりません。

この生命の息はテレビに注ぎ込まれる電波に匹敵するものです。生命の息もエーテル波も、どこにでも存在し、境界がない事に注目すべきです。しかし、生命の息もエーテル波も、表現の為に経路となる道具が必要です。

人間のマインドは電気が通じなければ機能しないテレビの真空管に例える事が出来るでしょう。そして、意識はパワーと英知であり、生命の息という経路を通じてマインドを導きます。この、空気と呼ばれる息がなければ、何物も生存出来ません。一粒の砂でさえもそうです。万物は空気に依存しているからです。そして、様々なフォームを通じてこの生命の息が表現される時、完全なメロディーが奏でられ、生命が完全に表現されます。

自然界を観察すると万物が調和し、融合している様子が分かります。しかし、人間にはこの様な融合状態は見られません。それは、人間が自由な意志を持ち、創造主の法則をいかに応用するかを学ばなくてはならないからです。人間が創造主を十分に表現する為の道具となれば、法則の正誤どちらの応用方法も理解するでしょう。そして、これが人間の目的です。

前課で述べた様に、人間は感覚器官の全てを統合する様に、エゴのセンス・マインドに学ばせる必要があります。これは、バイオリンの調弦に例える事が出来ます。美しいメロディーを奏する為には各弦を調弦し響かせる必要があります。そして、エゴは受けた印象をいかに応用するかを学ぶ必要があります。

その印象とは、マインドの意志の代わりに意識の意志である神の意志の指導によって感受する事が出来ます。調和した生活を楽しむには、マインドの意志は意識の意志に従う必要があります。すると、神の意志が為されるのです。

神の意志とマインドの意志・その相違点は―意識すなわち神の意志は強制しません。神の意志は表現において温和で柔軟です。一方、エゴの意志は攻撃的でおごっていて自己中心的です。意識は恐れを知りません。しかし、エゴは生活全般で恐れを抱き多くの過ちを犯します。

人間を除く自然界の万物は、宇宙の法則からなる意志に導かれています。率直に言えば、自然は宇宙の法則、つまり創造主の意志に役立っているのです。

ところが、人間としてのフォームは自然界と同じ法則の下で働いていながら、人間の自由な意志は宇宙の法則に反して働いています。

神の意志は常に完璧な調和の下に表現され、いかなる表現にも歪みを生じる事はありません。故に、この神の意志の下で人体がこの様に素晴らしく表現されるのです。それにも関わらず、人間は自由な意志、すなわちエゴの意志によって他のいかなるフォームよりも自分を乱用しています。

例えば、食事の時にマインド、すなわち人間の意志は摂取した食物に体内で何が起こっているのか知りません。もしエゴが幸せな調和した状態であれば、食物は人体に有益なものとなります。一方、エゴが邪魔をして混乱し緊張し、宇宙の法則、すなわち意識に従った調和した状態から逸脱すると、消化不良により胸の周辺にガスを生じ便秘を引き起こします。神の意志は人間の歪んだ意志に役立たない事は明らかです。従って、人間は歪みの代償を痛みや苦しみで支払う事になります。こうして学ぶ以外に方法のない人もいます。幸いな事に、マインドから独立して人体に作用して調和を保っている法則が存在します。さもなければ、人体は現在の様に長い間生きられないでしょう。

以上の事から、人体には二つの知性の段階が存在する事が分かります。一方は宇宙的で人体の機能を支配するもの、他方は人体に苦痛を生み出す心の抵抗です。ある牧師はこれについて人間は反神的になってしまったと適切な表現をしています。これは事実です。なぜなら、人間はすでに創造主に導かれようとせず、生命を与えてくれたものを信じません。その結果、自由な意志を働かせ恐怖に支配されて、非常に極端な行為に至ります。そして、貧欲に支配されたままこの状態を続けるならば、ちょうど人体を蝕むガン細胞の様に必ずこの文明を滅ぼします。人間の自由な意志がこの状態をもたらしたのであり、人間は他人を信頼しようとさえしません。

人間の意志が創造主、すなわち意識の意志を信じない場合にはどうなるでしょう。結果は言うまでもなく、全世界は恐怖の暗雲に覆われ、人は互いに敵対し合います。そして、誰も他人を信頼しません。これは絶望的に見えるかも知れませんが、エゴすなわち人間のマインドが作り出したのです。今やマインドが意識、すなわち創造主に導かれる事を認めない為です。

私が意識という言葉を多用し、重要視し過ぎるのではないかと疑問に思いかもしれません。しかし、マインドが高慢だった為に、むしろ長い間、意識は蔑まれてきたのです。イエスは「我々は生ける神の宮だ」と言っただけではありませんか。これは、人間自身が生ける意識の現れそのものであることを知らないのか・とも言えるではありませんか。生命の呼吸はこれを証明しています。そして、生命の呼吸は万物に自由に与えられているのです。

人間は創造主から鼻孔に吹き込まれた生命の呼吸により産声をあげ、生命体として活動し始めたものではありませんか。そして、活動する魂、すなわち意識を持つ存在となったのです。新生児はお尻を叩かれ、最初の呼吸をする様に仕向けられなければ生きられません。ここで注意すべき事は、新生児はマインドの一部が活動しているにも関わらず、意識を持って生きている点です。生まれたばかりのマ

インドは、教わるまでは恐怖というものを知りません。マインドを使い始めて精神的に傷つくと、恐怖に支配される様になるのです。このことから、意識は恐怖を知らない事が分かります。何故なら、意識はあらゆる知識を所有するからです。一方、マインドは知識を持たず恐怖の中で生きています。その結果、マインドは生命とマインドの永続性に関するあらゆる種類の神秘を生み出してきました。我々は既に第三課に入りましたが、他の精神世界の分野で教えられている様な精神集中や瞑想を少しも勧めませんでした。こうした古来の方法は、我々が実際に直面している様な不快な状態を引き起こします。

あなたに行なうて欲しい事は――真のあなたに気づく様になる事・神すなわち創造主である永遠の部分に気づく様になる事です。あなたが何を行なうにしても、あなたのマインドが指導者としての意識を知覚する様にするのです。すると――自分自身を知れ。そうすれば全てが分かるだろう――という教訓があなたの報いとなります。しかし、マインドは常に意識を信頼する事を学ばなくてはなりません。

更に普通の生活を過ごす事を禁じなかった点に注意して下さい。あなたに必要なのは――心だけで生活するのではなく意識による生活をする事です。そして、法則を応用し全てを適度に行なうのです。

以上が我々が生きる目的を達成する為に必要な全てであり、スペース・ブラザーズが知識を増し天国の様な素晴らしい生活を過ごしている方法です。そして、法則の両面を用いなければ、現象、すなわち良い結果を生み出せない事を忘れないことです。客観と主観・消極性と積極性――男性と女性です。一方だけを選択し他方を除外すると、好ましい結果は望めません。

ここで再び電気を例にあげましょう。電気はプラスとマイナス二つの極から一つの力が作り出されます。片方の極だけでは有効な力は生じません。しかし、プラスとマイナスが組合わされ、バランスが保たれると、完全に現象化する事が出来ます。従って、これは宇宙の法則に基づいたものです。言うまでもなく、積極的な考え方はむしろ多くの人々を傷つける場合が多いのです。神の目的は分割されるべきではなく、分割すると良い結果は得られません。宇宙の法則を批判または部分的に除外する事は誰にも出来ませんが、理解力の欠如や利己的な攻撃性により長い間その状態が続いてきました。人々は各人の担う役割の意味を理解せずに創造主の創造物を批判しています。そして、創造主を裁き英知よりもエゴのマインドを高く位置付けて高慢になっています。我々は創造主の部分である意識から離れ、創造し損なわれた状態へと墮落して来たのです。人間は知的な面では巨人化しながらも、感知するという観点から見ると、むしろ退化しています。

意識から成る海の中に万物を集める代わりに分割し区別して来た為に、我々は、スペース・ブラザーズが行なっている様に、自分や

あらゆる生命体を通して神の生命の表現を見る事が出来ないのです。スペース・ブラザーズは万物を観察する時、人間であれ他の表現であれ、フォームの外見だけを観察しているのではなく、そのフォームを支えている意識を見ているのです。マインドの意志ではなく神の意志で見る時、フォームを通して創造主の表現したものを見る事になるのです。スペース・ブラザーズの世界とそこに存在する生物は皆、創造主の意識ある現れであり、それ故に尊重されています。

人間、すなわちマインドは創造される過程にあり、完全な表現体を目指し学び続けています。そして時間は関係ありません。何故なら、永遠の中には時間という概念は存在しないからです。創造物の様々な状態を学ぶ事は人間に与えられた義務であり、学ぶ事によって創造物の存在する理由を知る場合があります。そして、今迄の様に知識の欠乏により創造主を裁く事もなくなります。事実、人間が自分の創造主やその創造物を裁く事は出来ません。生命の目的を詳細に研究する事によって、批判は理解へと変化します。何故なら、最高の表現体としての人間は創造主と一体化するからです。そして、人間の英知も創造主の英知と同じレベルに達します。

行動の結果や表現の結果によって分類される知性を私がいかに分類するか、あなたは疑問に感じるかも知れません。同じ分類方法を用いるのであれば、我々は英知からなる海の中に生きている事を認める必要があります。生命を有し表現される万物は、英知の海の各分野で役立ち、創造された目的を十分達成しています。レベルが低いとされるフォームでさえも、自然の指令のもとで自動的に活動しています。これは、創造主の直接の導きによるとも言えます。

ここで述べる自然とは、神性に属する母性原理を象徴したものです。神性の一方、すなわち母性原理を通じてフォームが生み出されます。母性原理は生命の女性に相当する部分です。一方、至上なる英知は男性に相当する部分です。この二つが多く目の現象を生じる為に一体となつて働いています。生命の90パーセントは英知に直接導かれる法則に支配されています。人間が支配しているのは残りの10パーセントであり、自由な意志を使う事によって法則から自分を切り離しているのです。

ここで、最初に地上に現れた人間が存在するとしましょう。生活の手本となる教師は存在しない為、自然を教師として学ばなくてはなりません。風が木々の間を通り抜けて様々な形をした葉の隙間をぬう音色を聴き、それぞれに異なる音色が生まれている事に気づきます。又、鳥たちのさえずりや小川や河のせせらぎに耳を傾け、他にも様々な自然界の音を聴き、人間は同じ音色を再生したいと願う様になります。そこで、フルートの様な笛を作り、他の楽器も作り出しました。人間は生まれながらにして自分の創造主の様になりたいと願っているのです。この様に、自然は常に人間の偉大なる教師でした。こんにちでさえ、自然から学ぶ為に、我々は深海や宇宙空間へと進出しています。

人間が学ぶべき事柄で最も不幸な部分は、エゴが忍耐に欠け、指導者である創造主より地位を高めようとしているところです。これ

こそ最大の過ちです。何故なら、神の意志の代わりに自らの意志を働かせ、シンプルな物事をむしろ複雑にしているからです。人は生徒であるべき自己のマインドに従います。しかし、意識こそ指導者であり万物の生命なのです。そして、人間が救われるには自然の指令の下へ戻る以外方法はありません。如何に多くを学び年令を重ねても、人間が自然から独立する事は不可能です。従って、自己の知識を評価するには自然において為されるべきです。

こんにち努力が要求される様々な分野で学者や研究者が活躍していますが、皆、自然に頼っています。自然界に存在する物質や生命あるフォームが生じるさまを研究する事で知識を得ているのです。人間は生命を自然に依存せざるを得ず、エゴに導かれるよりも自然に導かれる必要があります。つまり、人間はマインドの代わりに意識に導かれる様にするべきなのです。自然は至上なる英知に支配されている事が、我々は体験から理解出来ると思います。

そこで、英知について再び考えましょう。ある人を観察し、立派に英知を表現している様に見えても、実際にその人の言動を見ると自分の判断が全くの誤りだったと気づく場合があります。一方、謙虚で控え目な人を見ると、その人の表現からとても知的な人だと分かります。つまり、その表現や行動によって、我々は人間の知性の段階を区別しているのです。自然は全て様々な段階において英知を表現しています。たとえ砂一粒でも、創造された目的を表現しないものは無く、むしろ人間よりもよく表現しています。

後に柔らかい若木に育つ一枚の草の葉が、堅い地表を割って出るとします。この時、草の葉は宇宙の力を応用し指令を与える英知に従います。人間の力では堅い地表を割って芽を出す事は難しいでしょう。

現在我々の知識を総動員しても、リング等の果実が如何にして花から実を結ぶのか正確に答える事の出来る人はいません。これは、人間の知性が如何に高いとはいえ、自然の中に表現されるもの、すなわち創造主の表現したものには及ばない事を表わしています。

ルーサー・パーバンクはこれを的確に表現しています。―植物の成長を如何に向上させるか、その知識を与えてくれたのは自然である―と。パーバンクはまた―創造主と共に働く事で創造物を通して創造主に直面した―と述べています。

真の指導者、すなわち万物に内在する意識による指令の下に戻るまでは、人間は、現在耐えながら続けている労働や混乱の中から解放される事はありません。人間は意識の中に生き、意識の現れの一部なのです。

祈禱師や呪文・瞑想が我々を解放してくれる事はないでしょう。しかし、心という結果の代わりに因からなる完全な意識ある存在へ再生する事で達成出来るのです。言い換えれば、学びの過程を我々は逆転させる必要があります。マインドのエゴを用いて心で物事を理解するのではなく―過去においてそうであった様にマインドからなるエゴが意識を気づく必要があるのです。何故なら、意識により気づく事がマインドに知恵の宝庫の扉を開かせる為の鍵となり、創造主とその創造物を結ぶ経路となるからです。

以上の事を理解し日常の習慣にすると、これ以上物事を複雑にする事もなくなり創造主と一体であるとあなたは感じる様になります。金星・及び他の惑星の人々は、こうして現在の様に進歩しました。金星の人々は自然に逆らわず、自然の法則を理解し自然と融合しています。自分のホーム惑星を含むあらゆる現象を神の創造物として尊敬しています。そして、創造主は創造主自身よりも劣るものは何一つ創造する事はないという信念を彼らは持っています。そして、万物に対するこのフィーリングによってあらゆる場所に現れている神性を見ます。ルーサー・バーバンクが述べた様に、金星の人々も創造主と直面し、互いに奉仕し合っているあらゆる現象の相互関係と目的を学び、それによって創造主に奉仕しています。

次の第四課では万物の相互関係について明らかにしましょう。混乱しない為には理解しなくてはなりません。唯一望む事は、あらゆる行為や想念の内奥にある真の自分を更に意識する事です。つまり、あなたが何を見、何を行なおうとも、今までエゴのマインドに与えていた認識する役割を意識に与えるのです。行為や言葉の内奥に必ず存在する不可視の英知に気づきなさい。これによって、最終的には英知の存在をあなたは自動的に認識出来るようになります。

あなたがより広く生命界を楽しみ理解し始めると、進歩している事が分かります。すると、アイディアや考えが以前より早く湧く様になります。信じられないという観点から何でも疑わずにあらゆる想念や行為を分析し、習慣に基づいた心の反応か・意識によるものを観察しなくてはなりません。そして、他人との関わりにおいてあなたの生活のどこにあてはまるのか観察するのです。より良質な音楽に心を向ける様に、より優れた生命の特質を現わしているものにあなたのマインドを留める様にしなさい。日々これを行なえば必ずあなたは進歩します。

第四課 万物の相互關係

前課では、万物の相互關係について混乱を避ける為に、出来るだけ簡潔に説明しようと述べました。そこで、人間に役立っている多くの領域を扱います。そのうちのどれが欠けても人間は生存する事が出来ず、宇宙の計画も完全ではなくなります。英知が最高に表現されたものとしてあらゆる分野における生命を理解する事は人間の義務です。

それでは、我々の理解力では何も存在しない様に見える不可視の気体から分析を始めましょう。しかし、この不可視の気体領域内において、気体は密度と目的によつて様々に分類され、気体が固体化する時は沢山のフォームを生み出します。気体状態においては非常に激しい活動が起こっています。気体は絶えず間なく融合・分解し、気体の領域の中で異なる化合状態を生み出します。化合状態によつては活動が緩やかに保たれた後、あるフォームが生まれます。

活動が緩やかな第一段階では、我々が化学元素として分類している液体が現われます。この液体の段階では一つの化学元素が他の元素と化合し、オリジナルの元素と異なる新しい形態が生み出されます。こうした化合の過程を経て活動を続けるに伴い、極度の高温・低温など様々な変化が生じます。そして、気体と液体の化合状態によつて穏やかな或いは激しい燃焼が起きます。次に液体は凝固した状態に変化しますが、その固体は気体と多少の物質で構成されています。ところが、非常に希薄な状態である為、顕微鏡その他の装置類による検出は不可能です。しかし、確かに存在しているのです。そしてこの地球上で存在が確認されている物質を作り出す為には存在せざるを得ません。従つて、あらゆる惑星やフォームが非常に類似した成分で構成されているのは当然の事と考えられます。単に大きさの違いや構造的な精妙さ・粗雑さの違いがあるだけです。

自己再生の為に必要なあらゆる構成分子を組み入れたフォームを作り出すにはどの様な段階があるか、再び分析・推論しましょう。それには、我々の太陽系内の一惑星から始める事がよいでしょう。何故なら、惑星のひとつは無数に存在する惑星を代表するものであり、その惑星上には多くのフォームが次々と生み出されているからです。

それでは、フォームが形作られる過程を思い浮かべて下さい。つまり、気体類が液体化した時と同様に、液体領域で活動が緩やかになると凝固が始まる過程を想像して下さい。

ひとたび液体が凝固し始めると液体は消滅しますが、これは、気体が液体に変化した時と同様です。しかし、創造という行動様式の中では絶えず活動しています。

この現象の説明に適した例をあげましょう。我々が美しく澄んだ空を見ると、空の他には何も見えません。しかし、青い空と見つけている自分との間には、不可視の酸素や水素等による気体が何層にも重なって存在する事が分かります。ひとたび気体が活動を緩めると、雲が現れます。更に活動を緩めると、再び元の状態に戻る為に、不可視な気体に戻ります。しかし、この状態においてさえも、オリジナルな気体状態に多少の変化が生じている事が推測されます。更に、雲は活動を緩め続ける事によって濃密になり、大気は湿気を帯び始め、気体類は液体状態に変化して水が地上に落ち始めます。これが活動における第二の領域です。

論点を明確にする為に、液体が固体に変化する際フォームが形成される実例をあげます。塵の上に落ちた水滴が塵を吸収するとしみましょう。そして、水滴が塵の上をゆっくり転がる事が出来るほど少量である場合、水滴は完全に吸収されて消滅し、泥のボールが現れます。これは既に液体ではなく、塵と共に球体を形成する為に塵のつなぎとなる水分です。仮に塵を全て吸収する程に充分な量の液体がある場合には、いかに大きな球体を形成する事が出来るか言うまでもありません。

塵の粒子は皆、様々な気体で構成され、胚芽や種子のみではなく無機物を生み出す事もあります。又、適当な状況が得られる場合は、他のフォームを生み出す事もあります。第一の領域からここに至るまで、活動は段階的に継続され変化します。

いかなる源から生じたとしても、活動している所には必ずエネルギーが存在する事は言うまでもありません。我々はこれを摩擦・静電気・運動エネルギーと分類しています。そして、雲が形成されて適度なスピードで移動し静電気を帯びる時、このエネルギーを現象として捉える事が出来ます。そして、十分に充電がなされると、このエネルギーを雷光の形で放電します。幾つかの雲が互いに放電し、二本の電線の様にエネルギーの線を交差させると、交点で閃光と爆発を生じます。この交点で雷光が生じる場合もあります。雷光には地球上で知られている無機物の殆んどが含まれています。放電する前は雲と雲の間には明らかに何も無い空間が存在しただけでした。しかし、雷光を生じる為には、交点に何かが存在したに違いありません。従って、必要な要素は既にそこに存在したのです。雷光というフォームへ結束させる為に適した状況が必要だけでした。

この例一つを見ても、空間は多くの元素で構成されている事、その元素から我々が知る多くのフォームが構成されている事、又フォームとは元素の組み合わせによって決定されるに過ぎない事が分かります。前述の通り、フォームの生じる場合は宇宙空間であると言えます。そして、驚異的な事に、崩壊として知られる法則は同時に誕生の法則でもあります。崩壊が起こる場合フォームの如何に関わらず、それを構成している元素はオリジナルの状態に戻ります。気体類は全て循環を何度も繰り返す可能性を持っています。自然界の中では万物がその様に活動していると思われれます。

すなわち、気体類はオリジナルな状態においては不変に見えますが、一方、フォームは移り変わる事を表しているのです。以上の事は様々な段階における活動が継続する場合に起こります。これを速度あるいは周波数と言います事が出来るでしょう。

創造の根源の力・因、すなわち創造の目的は継続します。一方、現象、すなわち因から生じる結果は一時的で変化します。あらゆる現象は様々なバイブレ

ーション・スピード、すなわち周波数によって支配され、変化しながら絶えず新しい結果を生み出しています。現象のいずれもが互いに重要な存在であり、いかなる部分も他の部分が存在しなければ各々の役割を果たせません。

以上の事から、第一の領域について、多少のヒントが得られたと思います。そして、無と思われる所から如何にフォームが現れるかを理解出来たと思います。それでは、気体はどこから最初に生まれたのでしょうか。一体誰が何故、気体に変化する時に互いに化合し或いは反発するという、活動における引力と斥力の法則を定めたのでしょうか。

最初の二つの段階において、我々はある種の英知の存在に気づきました。そして、その英知が現象の内奥に存在する指令者でした。ところで、我々は知性の段階を表現、すなわち現象に基づいて分類しているではありませんか。いかに的確に自己表現し、巧みに物を作り、行動するかによって人の知性を判断しているのではありませんか。従って、社会的な水準に達していないと、その人は知能が低いと言われます。結果においてより整然と現れるこうした現象は、知性を表現する人々の向上心を損ねるのではないのでしょうか。これは当然の事で、しかも努力を続ける程この現象は明確に感じられます。しかし、これこそあらゆる創造物を支配している宇宙の法則、すなわち全包的な宇宙の英知の存在を示しているのです。そして、英知は様々な目的の為に万物の中に具体的に表現されるのであり、一つのフォームだけが必要とするものではありません。そして、気体や無機物の領域を通して、人間以外のあらゆる現象はこの英知に従おうとしています。

英知に従っている物質は全て不変の状態で存在するという証拠があります。そして、表現のより高度な状態へと洗練されて、万物に役立ちながら永久不変に存在し、宇宙の目的を達成します。物質で作られている地球は数十億年もの間存在し、多くの変化を経てきた事が事実として知られています。一方、文明は興亡を繰り返しています。ある文明は創造主の意志のもとに継続し、一方、マインドの意志によって滅びた文明もあります。人間が文明を滅ぼしたわけではなく、意識が滅びたのでもないのです。エゴのマインドが宇宙の英知から離れて行動する事を強いた時に滅びたのです。何故なら、継続する唯一のものは宇宙の意識とフォームを作る原料であり、絶え間ない活動のプロセスと新鮮さを通して存在し続けているからです。

人体を形成する原料そのものが宇宙の意志に従い進化を続けている故に、人体さえも進化しています。そして、人体を創造している原料はマインド、すなわちエゴにいくらかの影響を与えています。従って、マインドも僅かながら進歩しています。しかし、マインドの意志により進歩するものではありません。人体の英知がマインドに影響を与えている部分がある為に進歩するのです。

科学者の最近の発見によると、生命体の体験に基づく記憶は、個体内の細胞の中の各分子内に記録されているという事です。そして、人体は無数の細胞で作られています。また、個々の細胞は、それぞれに数千の分子から構成され、その分子は過去・現在・未来の活動のための記憶のパターンを伝達します。この分子群は、人体の各部分の機能に従い人体の多くの部分に役立つために結束し、互いに密接に関連しています。分子群は、単に個々のフォームやマインド

が作り上げた進化の記憶を運ぶのみでなく、考え得る限りの最低の段階から現在に至るまでのあらゆる物質の進歩の記憶を伝達します。これは、意識、すなわち記憶を運ぶ分子群によって指導を受けてフォームが成長する為の基盤と言えるでしょう。

この事は我々にヒントを与えてくれます。すなわち、印象を感じし覚醒している人—分子群から確かに伝えられている意識からの印象に対して通常は批判的なマインドを意識に従わせる訓練をした人ほど、より多くの情報を得ることが出来るのです。

サイコメトリーに関しては多少知られていますが、これは他人の所有物である指輪や時計を手にして所有者に対しリーディングを行なう能力を人間に与えるパワーの事です。こうした能力を持つ人は、疑惑の気持ちを起こさずに伝えられる印象を受ける訓練を続けて来たのです。そして、この印象は体験を記憶している分子からバイブレーションで伝えられます。この微小な記憶を運ぶ分子群が意識の実在する姿であり、エゴが受け入れさえすればフォームを維持しマインドを導くものだと言えるでしょう。この記憶を伝達する分子群が過去・現在・未来の全てを知る存在です。

以上の事から、人間のマインドが、事前に訓練を受ける事によって自然界のあらゆるフォームと親しく交わる事が可能であると分かります。そして、生命に関わる神秘は威力を失い、神秘・憶測も消えるでしょう。何故なら、この微小な記憶を運ぶ分子群があらゆる行為を記録して来たのです。これが真の宇宙的な自己です。

この発見は、遙か昔、スペース・ブラザーズの援助により行なわれて来ましたが、未だに地球の科学者は分子群の価値と潜在能力について全く理解していません。地球の科学者はこの分子群をDNA・RNAと名づけました。しかし、スペース・ブラザーズはこの知識を数千年の間、用いて来ました。そして記憶を伝える分子群からやってくる印象に従う様にマインドを訓練し、日常生活に応用しています。

科学者によると、DNAとは詳細な設計原図であり、生命からの指令を運ぶものだということです。人、昆虫など、形ある生命の創造に関心ある人は誰でも、フォームの構造を指示している、ある種の英知の存在を認めるに違いありません。又、完全に同じフォームは二つとないところから、各フォームには僅かな違いがあると考えられます。更に、フォームを創造する為に用いられる原料は、指令を受ける目的の為にある種の英知を持たなくてはならない事も分かります。

生命を研究するに当り、他の惑星では、DNAの半分は女性の部分で、残りの半分は男性の部分と考えられています。そして、二つの部分は常に関連し合っている、RNAと呼ばれる伝達物質を生み出します。これがフォームの形に応じて遺伝情報、すなわち種固有の指令を運ぶのです。ここにいわゆる三位一体が存在します。DNAの二面とRNAの一面です。また、DNAの二面が種のメッセージを保有するRNAを作り出しています。

フォーム内の陽子群はメッセージの伝達物質を作り出す為に大変重要です。科学的には大腸菌と呼ばれる細菌、すなわち腸内細菌は、あらゆるフォームの腸管に繁殖しますが、これがリボソームと関係しています。フォームは皆、何らかの栄養を摂取する必要があり、食物は陽子群や他の必要物に変化する必要が

あります。全ての手順が化学的に行われ、リボソームが普遍的な翻訳者として活動している事は科学的に明らかです。

フォームを形成している細胞は種固有の目的の為に集団化しています。心臓を形成する為に用いられる細胞は脳やその他のものを作る為に用いられる事はありません。しかし、細胞の集合体は、それぞれ種固有の目的を持つ完全なるフォームを表現する為に、互いに調和しています。科学的な発見のこの部分について記憶と遺伝に関連させて引用したのは、この様な英知がマインドとは独立して働いている事を示すためです。しかし、マインドが英知と共に働く為にはこれを理解する必要があります。この様に、マインドは過去のそして現在起りつつある出来事を知る事が出来ます。

スペース・プラザーズがこのテーマを研究する為に用いる計器類や図表上に表現されたものを記憶していますので、それについて述べましょう。スペース・ビープルの用いている方法はシンプルです。従って、地球の科学者達が発見した表示方法よりも分かり易いものです。説明するに当り、ここで白と黒の二本の平行線を用います。ひとつは男性を、もう一方は女性を表し、一定の間隔を保ちながら互いに8の字の形に交叉しながら活動を続けます。そして、目的に応じて7種類ないし9種類の異なる組み合わせを8の字の形で生み出します。こうして、9つ目の輪を作ると、種固有の伝達物質が生み出されます。この伝達物質は次の段階の進行方法に関する詳細な設計図を伝達しますが、過去を切り離しません。これこそ、記憶の伝達される場なのです。そして、記憶は人間やあらゆるフォームの部分で唯一永続する部分です。何故なら、言うまでもなく、記憶がなければ人間として存在出来ないからです。過去の記憶が絶え間なく現在の体験へと続いている事が分かります。そして、これらは皆、人間界とは無関係に起こっています。これこそが、人間の意志がこれまで述べてきた(意識の)意志に従わなくてはならない理由です。人間の意志が自分と何なる存在かを知る為には、この(意識の)意志に従わなくてはなりません。

以上、我々の現代科学に関連して述べましたが、現代科学はこの知識のからうじて入り口に到達しているに過ぎません。前述の通り、スペース・ビープルは何千年もの間この知識を理解し応用して来ました。人間が真の自分を知る為にこの知識は不可欠です。この英知の中にこそ、生命にとって不可欠なエッセンスが含まれています。

我々はメンタリストとして肉体の中で起きている事に全く無知である事を認めなくてはなりません。しかし、ある種の英知が人体を通して働いている事は我々も理解しています。そしてマインドが理解していない場合にも、人体は為すべき事を知っているのです。従って、マインドはこれを盲目的信念により既成事実として認めて来ました。しかし、マインドが平安な存在であろうとするのなら、フォームの内部で起こる全てを学ぶのはマインドの権利であり義務でもあります。そして、この学びを通して創造された目的を果たし、不安により引き起こされる恐怖と混乱がもたらす状態をマインドは排除する事が出来ます。そして、今までの様な過失を繰り返す事はなくなるでしょう。

言うまでもなく、マインドはフォームの中に存在する意識ある英知の働きに殆んど気づいていません。何故なら睡眠中も意識は人体を働かせているのですが、マインドは何も知らないからです。この事は、人体には休みなく働く英知が存在している事を実証しています。そして、マインドが知るものとなる為に

は、この英知と一体化しなくてはなりません。ひとたびこれが為されると、現在耐えている生活における不快な状態は全て消滅するでしょう。そして、万物の内部で起こっている事や万物の存在する目的を理解し、これ以上差別が神秘を生む事もなくなるでしょう。

この方法は、スペース・ピープルがこの偉大なる英知と共に働く際に用いる方法であり、マインドの代わりに意識を用いて万物を観察する方法です。つまり、観察するフォームが自分であるかの様にフォームに対し気づくのです。確かに相手は自分なのです。何故なら、全体から切り離されているものは何一つないからです。このようにして、一つのマインドである人間は万物と融合します。

行なうべき模範となる固有のパターンは存在しません。全く同じ人はいないからです。従って、他の教義と異なり、この講座では一つの信条も設けません。只、気づく様になる事・あなたの内部で働いている意識ある英知に気づく事だけが必要です。すると、これは遂にあなたのマインドが思考する際の習慣となります。そして、マインドと英知は現在の様に分割される代わりに一体化し始めます。この方法を用いて、言葉を交わす事なく万物と意志の伝達が出るほどに、スペース・ピープルは成長しているのです。自分が一体、如何なる存在なのかを知るには、彼らと同じ方法を用いなければなりません。

好き嫌いによる裁き・差別・恨みの感情を抱いては、この知識を持つ事は出来ない事を忘れてはなりません。何故なら、ひとたびいわゆる記憶の芽から来る印象を受容すると、あらゆる種類の印象を受容するからです。そして、その中には、不快なものや恐怖を感じるものもあるかもしれないからです。この地球では、エゴが嫌うような極めて低次の段階で生命を表現しているものもある事を忘れてはいけません。しかし、こうした低次の現象もなければ生命界は完全にはなりません。あらゆる進歩の段階が必要なのです。しかし、ひとたびこの事が理解されると非難は消滅します。残酷な場面が演じられる舞台上の演劇の様に残酷な場面もなければ、生命の各分野を真に表現出来ません。我々は大きな魚が他の魚を飲み込むのを見ると残酷に思いますが、これは人間が人參を食べるところを見ると残酷に思う事と同じです。生命あるものは、魚であろうと人間であろうと、分子により構成された生命体であるからです。そして、記憶を伝達する分子群は、いわゆる最も残酷なものから最高度なもの迄、生命のあらゆる分野の記録を保っています。

そこで矛盾が生じる場合が有ります。あなたはある人を深く愛しているにも関わらず、その人を傷つける場合があるかもしれません。この葛藤は、低次の性質を記憶する細胞と高次の性質を記憶する細胞によって生じるものです。我々が自分についていくらかでも理解しているなら、どちらか一方を支持するような極端な態度ではなく、高次・低次双方の記憶を関連させ併用するでしょう。ところが、これを十分に理解していない為に、神秘と誤解が生まれます。我々は皆、同じ存在ですから、他人を傷つける時は自分を傷つける事になります。この様な行為に及ぶのは、マインドが他と接触する際、適切に反応する訓練を受けてこなかった為です。生命の存在理由を知る時に、マインドは正しく反応する事が出来るのです。

我々が創造主の様になろうと決意するなら、毅然と生命のあらゆる段階に直面しなければなりません。創造主は差別する事なく創造物に対峙しています。なぜなら、創造主が偏愛するならば、自分を分割する事になり、それでは人間以上に優れた物事を為し得ないからです。創造主は、創造物の存在する目的を知る故に、創造物のあらゆる面を愛しています。差別するのは人間の特質であり、エゴのマインドが全体から自分を切り離している為に、多くの苦痛を生み

出しています。

リングは物質で構成され、人間と同様に、意識からなる生命に支えられています。しかし、我々が囁んでもリングは悲鳴をあげません。なぜでしょう。

それは、人間が持つようなマインドをリングは持たない為であり、人間は自由意志を授けられたが故に宇宙の法則に反して来たのです。人間も苦痛を感じない様になれるでしょうか。なれます。苦痛を感じずに焼けた石炭の上を歩く人がいる事は知られています。このような人はマインドを訓練する方法を学ぶ必要があり、故に、訓練に従う意志をマインドは持つ必要がありました。

この例からも、マインドが如何に不快な状況に直面しようとも、それは法則の誤用によってマインドが作り出した状況である事が分かります。従って、生命から与えられる様々な祝福を享受するには、宇宙の原理（法則）を自発的に学ぶ事がマインドの義務です。こうしてこそ、過去の体験から得た価値を思い出す時に過去の記憶が役立つのです。

第五課 意識・英知・あらゆる生命力

我々は生命の満ちた不可視の海の中で生きています。そして、前述の通り、目に見える物・見えない物を同時に気付く様に訓練する必要があります。何故なら、目で見える事の出来るフォームだけを我々は心で気付いているに過ぎないからです。しかし、万物は、最低の段階から生じながらも、高い方へ、言わば不可視の空間を覗き込んでいるかの様です。では、何故その必要があるのでしょうか。それは、子供が母親に導いて欲しいと願う様に、あらゆる創造物は創造主に導かれる事を願うからではありませんか。そして、空間こそ万物の生じる場であり、創造主に導かれる事を願いながら生を受けた場である空間の中で万物は生きています。しかし、生きているとはいえ、我々は自分と大差のない他の結果に導かれ、地球上の生命体に密着したままです。そして、この生命体は、単に気付きの低い段階における一表現に過ぎません。

海中に住む生物でさえも、海上の光を見ようとするものがいます。又、海水である液体も目に見えないエッセンスとしての水素と酸素がなくては存在出来ないでしょう。この不可視の段階の中にある生命本来の姿は、人間のマインド（心）に属する視覚器官では見る事が出来ません。しかし、マインド（心）は意識を通じて理解する事が出来ます。何故なら、意識とは英知とパワーでありフォームとは別の独立した存在ですが、万物を通して働く時に万物に生命を与えるからです。意識は、人間が周波数（波長）で分類する様な、光と闇とを区別しません。また、善悪の区別もしません。何故なら、善悪とはマインド（心）が法則の誤用により分類したものだからです。意識から独立して存在する事が出来るフォーム、即ちマインド（心）はありません。意識から離れると、それが何であれ完全に無の状態となるでしょう。従って、人間は教師、即ち万物の両親である意識の囁きにマインド（心）が耳を傾ける様に努力する義務があります。

ここで、意識の働きを観察する為に、マインドを意識と関連させる事にします。そこで、海岸を例にあげましょう。それは、我々は海面の広大さに驚異を感じ観察すると、海中には無数の生命が存在する事を知るからです。

そこで、センス・マインドでは見る事が出来ない深海で起きている活動を感じ知る事にしましょう。我々は、多くの活動するフォーム

から来る印象を感知する様に、また海底で餌を探し廻る砂一粒ほどの微小な生物さえも見る様にすべきです。また、海底から海面に至る迄に存在する活動する無数の様々な生命体に関しても感知しなくてはなりません。海上近く迄、光を見ようと底から浮かび上がってくる生物もまれに存在しますが、クジラもその一種です。クジラは海の水圧と環境を自在に操り、深海へ潜水する事も、海面で泳ぐ事も、又、地球を覆っている空間から不可視の気体を吸い込む事も出来ます。又、トビウオなども海面上の気体領域を体験する為に、液体の領域である海中から飛び上がります。この様に、クジラもトビウオも、二つの異なる領域を体験しています。海水としての液体領域とその液体が蒸発して作られた気体領域です。

人間も、同時に二つの異なる体験をしながら生きている事に気付く必要があります。何故なら、人間は三次元の地上に生きながら四次元にも依存して生きているからです。

地表から空に向かって不可視の空間と呼ばれる四次元が存在しています。この空間の外では人間は生きる事が出来ません。水の外で魚が生きられないのと同じです。四次元の支えがなくなるといかなるフォームも生存出来ません。不可視である大気と呼ばれる空気の中で、フォームはそれぞれに生き呼吸しているからです。空気が無ければいかなるフォームも、地球さえも存在出来ません。

人間のトラブルは四次元で起こります。何故なら、センス・マインドとしての人間は、三次元、つまり因から生じた結果の世界で生きているからです。従って、人は結果の世界に多くの時間を費やし、三次元の事はおおよそ理解しているにもかかわらず、自分を取り巻いている不可視の世界と住んでいる三次元の世界を関連付けることに苦勞しています。そして、四次元を理解する為に意識の代わりにマインドを使い混乱を生じています。不可視である四次元世界、即ち因の世界は、三次元世界と明らかな違いがあり、理解する事は困難です。それは長い間三次元世界で物事を学んで来た為です。古代人でさえも四次元世界を理解しませんでした。万一理解していれば、天国と地上、即ち因と結果という様に分割する事はなかったはずで、人類が地上に現れて以来、人は自分と同じ三次元世界の具体的な事柄を知る為に学んで来ました。四次元世界は神秘と推測の領域に放置されたままでした。そして、ごく稀(まれ)にあらゆる次元の関連性を理解する人が現れましたが、その分析結果が表明されてもほとんど支持される事はありませんでした。イエスも四次元世界について説明を試みましたが、こんにちでさえその教えは理解されていません。ついに、四次元世界は将来理解されるであろうという期待のうちに、観念的な領域に置き去られてきました。しかし、今ここで我々が四次元世界を理解しなければ、これから先どうやって理解する事が出来るでしょう。先ず進むべき次の段階を理解して初めて、その論拠を理解出来るのです。時間がいかに貴重でも、永遠の生命が保証されるまでに学ばなくてはならない理解力ほど貴重ではありません。理解力がなければスペース・ブラザーズが持つ様な知識を我々が望む事は出来ないのです。

人間は三次元世界については十分学んだので、今こそ自分の周りを取り囲んでいる不可視である四次元世界と三次元から得た知識とを融合させなくてはなりません。

それには、今まであらゆる物を支配してきた神秘を取り除きさえすれば良いのです。そして、これは、唯一結果であるマインドを因―即ち意識に対し謙虚にさせる事によって可能になります。こうして両者の関連性を、意識はマインドに解明する事になるのです。唯一意識のみがこれをなし得ます。意識は四次元であり無限であるからです。

三次元である結果の世界は、進化の途上にある部分を表現しています。それは、例えば構成分子間の摩擦や衝突等の低い段階で生じる音響の様なものです。しかし、四次元世界に存在する意識は人間の知る様な音響は生じません。そのコミュニケーションの手段とは、フーリングを気付く事によって印象の形で与えられるものです。故に、人間の中で分割されているものを統一するには、マインドは意識の指令に従わなくてはなりません。記憶すべき事は、意識とは生命を維持する為に万物に内在する魂だという事です。

さらに明確に理解する為に、海岸について気付いた時の様に、地球の周囲に注目してみましよう。そして、意識からの伝達者に、四次元世界が始まる空間に存在するものを、マインドに伝えてもらう事にします。まず、不可視の段階に何かが存在するというアイディアをここで示しますが、前述の通り地表から始めます。

科学者は様々な種類の気体が宇宙空間へ進行している事を認めています。気体という言葉はそれほど重要ではありませんが、気体を構成する成分はとても重要です。それは、三次元の世界が生命を維持する為に必要とする栄養素が気体中に存在するからです。これについて、本課で度々例にあげた現象を説明します。

真つ青に晴れた空を見ても視覚では何も見えませんが、適当な条件下では空間に雷光が生じます。雷光は地球上で良く知られている無機物から構成され、気体を構成する成分には個体を生み出す物質が含まれている事を示しています。

雷光が唯一の証拠ではなく、他にも証明出来るものがあります。例えば、大小様々な多数の隕石が地上に落下して来ますが、それらを調べると、地球で知られている無機物を含んでいる事が分かります。しかし、この隕石が地球から放出されその後戻って来たとは考えられません。隕石は月や他の惑星にも落下しているからです。したがって、隕石も雷光と同様に宇宙空間で作られたに違いないと考えられます。以上の事から、地球上で知られているあらゆる要素は進化の途上にあるフオームの中に存在し、その原形は宇宙空間に精製された状態で存在している事が分かります。前述のように、宇宙空間はフオームの孵卵器であり、ここで惑星等のあらゆるものが生まれ存在しています。地球上に存在する万物を地球が生み出したのであり、地球が宇宙空間に存在する構成分子から生じたのであれば、あらゆる惑星が様々な段階の進化を遂げている生命で賑わっている良い証拠となります。

いかに莫大な距離が惑星間に存在し互いの間にコミュニケーションが確立されていなくても、互いの惑星上で起きている物事を知る妨げにはなりません。それには、意識からの伝達者の囁きを聞いて、それに従うようにマインドは訓練されなくてはなりません。

印象が伝えられている間は疑問を抱いてはいけません。印象は信念として感受される場合や信念に映像を伴う場合もあります。これらを考える際には、海を観察した時と同様にマインドを注意深く保つのです。そして、海には限界がありますが宇宙空間は無限です。

宇宙船で旅を始める時にもこの方面のマインドの発達はとても重要です。それは、ある程度この線に沿って進歩していなければ、私たちが実際に乗船して行われた宇宙船の旅は全く価値のないものとなったでしょう。宇宙船内及び宇宙空間にはマインドでは理解出来ない物が数多く存在したからです。しかし、意識がそれらを解明してくれました。そして、後に私の理解した事は正しいと証明されました。場合によってはスペース・ブラザーズと意識を通じて（テレパシー）アイデアを交換したので、言葉の障壁はありませんでした。マインドを用いたのでは不可能だったでしょう。

マインドを訓練する事は簡単ではありません。しかし、たとえ私の様に成し遂げるのに多年を要したとしても、努力する価値はあります。

地球及び地球人・宇宙及び他の惑星から来る印象を受感しない人はいません。しかし、人間からの印象と宇宙的な印象には違いがあります。何故なら、地球や他のいかなる場所においても、マインドに変わりはなく、印象を混乱させ個人的な要求に合わせる為に印象を誤用する傾向があるのです。マインドは、逃避の為に想像力を駆使させる場合があります。想像とは、スクリーンやパネルの上に絵が描かれている様なもので、人間はそれを歪める傾向があります。想像ではパネル上に大をつれたノミを描く事が出来ませんが、これは宇宙の法則の中ではあり得ないことです。絵は法則の誤用を表し、これこそ真実を得ようとする場合に十分注意しなければならない点です。しかし、現在こうした事が頻繁に起こっている為に、スペース・ブラザーズに関する理解について大混乱を生じているのです。これは、個人的なエゴを満足させる為に真の法則を誤用する事によって起こっています。そして、スペース・ピープルに関して不自然な話を生じる要因となっています。

こうした誤った印象を避けるには、人体というものは他の太陽系においても常に同じ姿である事を忘れてはなりません。人間のパターンは宇宙的なのです。違いは、人体の洗練の度合いと、表現の異なる分野における知識の広さです。一方、最低から最高に至る段階が存在するという類似点があります。宇宙の計画に空白は存在しないのです。

奉仕の分野において宇宙の意識が伝える印象に従う人は、分割する事なく他の全てのものとの関連において表現されるもののあらゆる

る段階を融合させます。理解力のある人は差別や非難をしません。法則の誤用を理解し、訂正する為に常に分析を行ないます。マインドが自分勝手に誤った想像や批判をしなければ、意識を通して受ける印象の中に必ず正しいものが存在している筈です。印象を受けてもすぐに理解出来ない事もありますが、これは、忍耐が要求される場合があるからです。しかし、意識が伝える印象が存在するという事実は、適当な時期が来ると、与えられた印象はふさわしい場に当てはまるものであるという確信をあなたに与えます。

与えられた印象を他言したいと思うほどにマインドが影響を受けて感情的になってはいけません。印象がもたらされる時はそつと囁く様にやって来るからです。マインドが育て蓄えてきたトリックが次々に現れて、仲間に対し自分は如何に知識があるかを誇示しようとするかも知れません。しかし、これは完全に誤りであり、この様な場合には―自分がして欲しいと思う事を他人にせよ―と言う言葉を思い出す必要があります。長い間マインドは偽りの物事の中に安住してきた為、真実が与えられても受け入れる事を嫌います。マインドは過ちを基盤としている為に、真実を受け入れる事によって妨害される事を嫌うのです。

前述の通り、過ちに価値がないわけではありません。過ちを体験する事によって私たちは正しい方法を学ぶ事が出来ます。しかし、過ちを他の過ちで覆い隠そうとしてはいけません。過ちを犯した時は即座に訂正しなくてはなりません。過ちを犯したかどうか分からない場合は慎重に結果を分析しなさい。そうすれば、訂正の方法が示されるでしょう。

そして、行動が他人と対立した場合、その人の立場に立ってみるのです。そうすれば、時間を浪費する事なくすべき事が分かります。何故なら、過ちは皆、人を宇宙的印象から切り離し、二点間に空白の状態を生じるからです。これは、通話中に電話線が切れる事と同じです。電話線の切断による場合は話し手が気付かなければそのまま話し続けるでしょう。一方、聞き手は印象を受けられず、故障が修理されるまでずっとその状態が続くでしょう。そして、故障中に話された内容を聞き逃した為に、聞き手はすっかり困惑して故障中に一体何が話されたのかと迷います。こうして、受けられるはずの印象は歪められてしまいます。

他人に対する過ちが訂正されない場合は、謎が生じて二度と解決されないかもしれません。時間が中断された後に謎が生じると、フーリングは二度と以前と同じものにはなりません。訂正を軽視した事で欠損部分が生じる為です。しかし、この様な状況にあっても、訂正はフーリングを継続させる為にとっても重要です。この線に沿った何処かで失われた言葉、即ちフーリングが繰り返されるからです。この知識を持つ人は、他の目的であっても隙間を埋める為に、それらの言葉や印象を用いる事が出来ます。これは、一枚の窓ガラスが多く場所に埋め込む事が出来るのと同じです。

過ちを避けようと過度に用心深くなるべきではありません。そうすると、何も出来なくなり、これでは何にもなりません。重要な事は、過ちをよく理解し、出来る限り速やかに訂正する事です。重要なものを失うと、それが言葉・関連性のどちらにしても、それを見

つける為に膨大な時間を要するからです。今生の全てを費やすに値するものを探し続けた人々があります。探しているものを理解している場合もあれば理解していない場合もあります。しかし、探しているものを見出す時期を知っています。その為、不確かで不安定な感情は持たず、温和で喜びに満ちた感情を持ち、行なう事全てを楽しんでいる様に見えます。こうした人々は、未来に関心がなく、日々の生活に満足し幸せである様に見えます。そして、学び得る全ての事に情熱を持ち自分の望むものを持っていると思われる人々との交際を求めます。これは通常は良い徴候です。彼らは人生の何処かで失った何か―つまり欠損部分を埋めているのです。

ところが、探しているものを見つけた後にも迷う人がいます。そうした人は無数にいます。しかし、迷いが生じると欠損部分は更に拡大し、人間のマインドでは埋める事が出来ない場合もあります。そして、マインドはたいてい怠惰で最も抵抗の少ない安易な道を探します。こうして、その人生の中に多くの欠損部分が生じます。

この様な状態にある大多数の人々は真の幸福・平和・満足を知りません。その証拠に、宇宙的な生活を理解していません。すぐにイライラして満足せず、他人のあら探しをし、貧弱なスポーツマンシップを示します。そして、いつも同じ様な気質の浮ついた新しい友人を探します。これは、ちょうど木々が生い茂った森林で道に迷った人に例える事が出来ます。そこでは、密集して茂った木々が正しい方向へ導いてくれるはずの太陽や天空の景色を隠しています。木々はちょうど個人的な意見の様に道を示してくれる光に満ちた光景を遮ります。この状況では命を落とす人もいて生命の真の目的を知る事は出来ません。また、世の中で獲得出来るものの全てを所有し、必要以上の身の安定までも得ながら、自分がとても不幸だという人がいます。それを得た後にも、切望していた幸せは見つかりません。個人的な意見という森林地帯を決して離れようとしなかったからです。そして、この様な人達の人生に対する価値観は宇宙の目的から外れています。

自分の探し求めているものを理解している人はほとんどいませんでした。何故なら、それは自分の半身であり、個人的意見という暗闇の中では決して見つけられなかったものだからです。自分の半身とは、今まで全く受け入れた事のない意識の光の中でこそ見つかるものです。意識の光は常に存在していました。何故なら、その光は絶えず森林地帯の暗闇を貫いていたのです。しかし、道に迷った人は意識の光を見つけ理解する事ができませんでした。一方、意識の光に従って迷路から抜け出し、広々とした田園の開放感を感じ楽しむ人もいました。そして、かつて知る事のなかった永久不変の身の保障を体験しました。ところが、見つけた物事を理解できなかった人は、暗闇の世界へ戻り再び迷路で迷う事になりました。そして、暗闇である森林を更に作り続け、時間が経つにつれ進むべき道を見つける事が困難になるでしょう。

以上の事から、亡き妻メリーの身に起きたある事件が思い出されます。

ある夜、メリーは高く茂った野生のライラックの茂みの中で迷いそうになりました。その茂みはわずか半エーカー（約2023・4㎡）ほどの広さでしたが、メリーは恐くなり大声で助けを呼びました。それは家からわずか500ヤード（約457m）ほど離れた場所での事です。これも、宇宙の目的に反する個人的な意見というジャングルの中で、我々は如何に迷い易いものであるかを示す例です。不幸な事に、人間の99%はこの様なマインドのジャングルの中で生きています。こうした人々が意識を楽しむ事が出来るとき必要なもの全てを彼らの半身は持つことになるのです。何故なら、マインドは拘束されていた恐怖から解放され人生を楽しむ事が出来るからです。

高尚なスペース・ピープルについていえる事は次の一言に尽きます。彼等のマインドは宇宙の意識に従っているのです。たとえ完全には実行出来なくても、スペース・ピープルは意識の指令に従っているのです、いつか完全に行なえるようになるでしょう。次の課では、若々しい身体を保つ為に、新鮮さの重要性について述べる事にします。

第六課 新鮮さ・マインドを若返らせる

第五課では、個人的な意見というジャングルの中でマインドが如何に迷い易いかにについて述べました。

言うまでもなく、人体はマインドから独立した存在である一方、人体にはマインドに関連しマインドに従って作用する細胞集団が存在します。この細胞集団が日々人間の起こす不調和の原因となっています。マインドは習慣に従い易く怠惰な傾向にあります。段階を踏む必要があります、しかも、全く未知な進歩の為の道を選択するよりも、出来るだけ楽な道を進もうとします。これが、古代からの伝統や風習に私達が苦しめられる原因となっています。それは、こうした古い考え方が現代の生活に適さないからです。しかし、適さないとはいえ、好き嫌いに関わらずマインドは物事を受け入れなくてはならない場合もあります。

世の中にごく僅かながら存在する人々―常に新鮮さを探究し古い教義にしたがって生きる事に満足しない人々に我々は感謝してよいでしょう。こうした人々が暴力的手段を用いず理解力を持つて、より良い方向へ大衆を先導し続けるのです。大衆は極めてゆっくりと変化します。そして、新たな領域に注意を促すこうした人々がいなければ、遙か昔に大衆は絶滅していたでしょう。単調な慣習に従うことでマインドは衰退したに違いありません。しかし、この少数の人々によって、大衆は新鮮さに注意を促されました。その新鮮さが大衆の活力を保っているのです。ゆっくりと、しかし着実に。

新鮮さは進歩であり若さです。そして、こんにち新鮮さが社会に影響を与えている証拠を多少見ることが出来ます。昔と違い、実年齢には見えないほど若い人達が急増していますが、最近の科学的な発見によつて新しいものが毎日のように人々の注意を惹くからです。人間が理解するか否かに関わらず、新鮮さは確かに影響を及ぼしています。人間とは活動する想念以外の何者でもなく、新鮮な想念は、いかなるものであっても、とくに宇宙的性質を帯びた想念であればなおさら人体に影響を及ぼします。

それでは、想念体としての人間に焦点をあて解明する事にします。人間や他のいかなるフォームを創造する為にも、創造に対する責任を誰が持つにしても、創造者は創造に先がけてフォームについての想念の原形を持つ必要があります。人間とは思考する存在である為、思考しなければ存在出来ない事になります。そして、この想念とは、存在する為の動機となるパワーです。歩くにしても食べるにしても、初めに想念が必要であり、何を行なうにしても、マインドを指導するものとして先ず想念を持つ必要があります。そして、これらの想念は過去の体験を組み合わせたものや他人との関わり、あるいは宇宙的印象としてもたらされます。

さて、異なるタイプの想念がいかにか表現されるか観察しましょう。怒りの想念がマインドに入ると、顔の表情は怒りを表現する為に変化します。また、幸福な想念が起ると、そのように表現され、他の想念でも同様です。ちょうどこれは、彫刻家が心に抱いている想念を粘土で形作り表現する事と同じです。従って、想念が異なる種類のものではあっても、言わば彫刻家のような存在です。想念は表現する為に表情を形作るのです。従って、知的な存在としての我々は、若さ・健康・均整のとれた身体を望むのであれば、常にそうした想念を抱く必要があります。人体は想念の鑄型に従って形成されるからです。新鮮な想念は、とくにそれが宇宙的な線に沿ったものであれば、人体が若さを保とうとする場合に重要です。

各時代の指導者達は宇宙の原理の一つ——人は自分が考える通りのものになる——と言う原理を説きました。金星に住む人々は常に新鮮さに基づいて思考していますので、いかに長く有意義な人生を過ごすか分かるでしょう。地球の時間の概念では500歳に相当する人が若々しく見え、元氣盛りです。一方地球では40歳の人が金星人の700歳の人よりも老いて見えます。しかし地球人は年令に基づいて考え、何千年も昔からの習慣に支配されています。古いコートを着ると、その影響受け、若々しい気分にはなれません。古いドレスやスーツは、いくら上質な布地で作られていても、身に着ける度に古めかしい気分になります。従って、古い想念も同じなのです。新しい洋服を着ると若々しい気分になる事と同様に、新鮮な想念を維持すると人体を若く保つことが出来るのです。しかし、新鮮な想念によって望ましい結果を得るには、新鮮な想念を最優先にして相対する古い想念と混同しない様にしなくてはなりません。混同すると人体に混乱を生じ結果は決して良いものにはならないからです。初めは新しい想念を保つ事は簡単ではありませんが、決意する事が望ましい結果をもたらすでしょう。

本講座のはじめに、マインドに関連し、マインドから指令を受ける細胞群について述べました。残り90%の細胞は意識から指令を受けています。しかし、全細胞を意識の指令に従わせる事は可能であり、利己的なマインドを救う為には最終的にそうしなくてはなりません。

ではここで、細胞群を例にあげます。まず、マインドに関係する細胞群について考察しましょう。マインドは、人体に必要なエネルギー補給の為に過去の習慣に基づき、食物を摂取するのに余念がありません。しかし、前述の通り、食物を体内に取り入れると何が起るのかをマインドは知りません。ところが、人体内には行なうべき任務を知る細胞群が存在し、マインドが他の事に興じている間にもその任務を遂行しています。

以前から講義等に取り上げた分りやすい例を再びあげますが、ひとたび体内に食物が摂取されると、マインドとは独立した存在である英知が食物に働きかけます。この英知ある働き手を四つのグループに分ける事にしますが、これらは相互に関連し合い他のグループの為に働いています。第一のグループは発酵を行ないます。第二のグループは抽出された化学物質を完全に融合します。次のグループは発酵の際に生じたガスを排除します。最後に排出を担当するグループが残された排泄物を排出します。この過程が自然に機能していれば、あなたは決して病気になる事はないでしょう。しかし、マインドに関連する細胞群が怒りの想念によって働いている細胞群に干渉すると、いかに不快な結果が生じるか分かるでしょう。これは、宇宙の計画は整然としている一方、心は不安定で指導が必要である事を示しています。

前述の通り、人体は無数の細胞から構成され、各細胞は人体を完全に維持し働かせる為に集合しています。これは、宇宙の構造と全く同じであり、人体には支えとなる宇宙のパワーの全てがあるのです。また、人間のマインドが自己の為ではなく宇宙の計画の為に働くなら、決して不快な結果が生じる事はありません。何故なら、マインドは分裂・批判・好き嫌いやから解放されるからです。

足の指を形成する細胞群は手の指を形成する細胞群とは異なりますが、各グループは人体を完全に表現する為に共に働いています。そして、同じパワーと指令が全てに等しく与えられています。これは、地球を形成している細胞組織における宇宙的な表現と同じです。何故なら、無機質の領域における最も低次の表現から無数に存在する自然界の現象に至るまで、同じパワーと英知が様々な段階で表現されているからです。この宇宙の法則は不変であり特定のフォームや惑星を優位に立たせる為に変化する事はありません。

人間と自然の違いは次の事に集約されます。即ち―自然は自らの意志を持たず、前述の通り、あらゆるものを包括する英知の指導下にあります。一方英知の最高の表現である人間は、自由な意志を持つマインドを授けられた故に、人間は悩みを持ちます。何故なら、宇宙の意志に従う代わりに一結果であるマインドは他の結果に導かれようとするからです。自由な意志を持つマインドが人間に授けられた理由は、至上なる英知から生き方と目的を学ぶ可能性を人間が持つからです。人間には創造主の様になる可能性が授けられています。イエスが述べた様に―私は父と一体である―のです。そして、私を見る時、あなたは父を見ているのです。金星及び他の惑星の人々は、マインドを意識の指令に従わせる事により、日々これを表現するように努力しています。そして、我々も生きる目的を達成する為にはこの様にしなくてはなりません。

数千年も続けてきた生き方の末に習慣に染まり、マインドに関連する習慣的な細胞を地球人は作り続けてきました。又、習慣はとても食欲になっています。例えば、アルコール中毒者のマインドは、飲み過ぎが体に悪いと分かっているにもかかわらず、習慣に支配されています。マインドは意志の強さと習慣に立ち向かうとする決断力を失い、習慣の奴隷となっているのです。これはあらゆる習慣に当てはまります。習慣のほとんどが極端に作用するからです。とはいえ、禁酒・禁欲をしなくてはならないのではなく、あらゆる物事を適度に行なうと良いのです。むしろ、習慣に支配されずに、あなたが自分の生活を支配する事を決意するのです。そうするには、あなたの居所を整える為に、無限のパワーと英知である意識に従う以外方法はありません。

ひとたびマインドが生活の中で多くの不快な事を起こしてきた弱さに気づいたならば、たとえ最初は苦痛に感じようとも、意識の指令に従う事を決心しなければなりません。しかし、これを行おうとすると次のような障害が起こるかもしれません。それは、個性と権威を失う事を恐れる想念です。マインドは意識よりも優位に立ち、その個性と権威を固持して来ましたが、それらは、勝手な意志の行使によって多くの過ちや不確実な物事に逢うにも関わらず、マインドが手放さなかったものです。これは、知識の欠乏によって過ちを繰り返しているマインドと同程度の知識しか持たない結果にマインドが依存した為に生じた事です。そして、マインドは過ちを訂正しようとせずに、意識の上位に立とうと自らを正当化してきました。

これは、母親が自分の子供は悪い事をしないと信じて過ちを正そうとしない場合と同じです。母親が子供に現れていた弱さを克服させるのに失敗した為に最

最終的に子供は母親共々苦しむ事になります。これは、子供の中にある弱さを認める事を恐れた母親に責任があります。母親は弱さを正すどころか、むしろ弱さを助長してしまったのです。最終的に母親は現実と直面しなくてはなりません、その時はすでに現状を回避出来ず最初よりずっと困難な状態にあるでしょう。

イエスは「自分の生命を守ろうとするものは生命を失う事になるだろう」と言っているではありませんか。これは、利己的なマインドが意識に従う時に感じる恐怖について述べているのではないのでしょうか。これは神と呼ばれている創造主に対する信頼の欠如も表わしているのです。イエスは「自分の生命を捨てるものは永遠の生命を得るだろう」とも述べています。これは、エゴの意志を意識の意志に従わせる者は永遠の生命を得ることを示しています。

意識は永遠であり、万物を生み出すのです。そして意識なしには如何なるフォームも存在しないでしょう。意識のないフォームは死んだフォームです。

人が心の奥底にあると感じ追求する幸福というものは、マインドの意志を意識の意志に融合させない限り見つかる事は出来ません。一滴の水の雫も本来の水に帰する事によって大海の広大さを知る事が出来るのです。この事を理解出来てはじめて自己の眞の正体が分かるでしょう。そうなれば、眞の自分の影の中に生きることも、風が吹く度に動揺する事ありません。すると、放蕩息子が家に戻る時には天に喜びの音が響くでしょう。しかし、これには各人が確固たる決意を持ち揺るぎない信念を持たなくてはなりません。エゴのプライドを捨てて、自分に与えられるものが何であつても、それと直面しなくてはならないからです。

聖書に書かれている放蕩息子の話は、起こるべき事について我々に洞察力を与えてくれます。放蕩息子のマインドは、あらゆる人のマインドを描写したものです。何故なら、放蕩息子は家に戻る事を決心したのち謙虚になり、自尊心を捨て何が起ろうとも対峙する必要があつたのです。家族の誰かが自分の過ちを指摘し、悪い行為を思い出させる事はよく分かつていました。家族の生活は自分の生活と異なる事も知っていました。しかも、家族は似たような経験はしたとしても、自分が経てきた様な体験はしていません。これを全て承知した上で尚、マインドの意志を征服し眞の自己の意志―意識―万物の父のもとに帰る決心をしました。ところが、家に着いて放蕩息子のエゴは驚く事になりました。父が放蕩息子の為に宴席を設け、何事もなかったかのように彼を暖かく歓待してくれたからです。何故なら、エゴのマインドを征服する事は多大な勝利はなく、その努力の末に得る報いは無限なのです。そして、人はそれぞれ生活に必要なものを全てに与えられています。足りないものは何一つありません。

放蕩息子の心中に自分の過ちを非難する思いが僅かにありました、それは家から離れた事のない兄弟により象徴的に描かれています。それは各個人の中に最初の生命のスパークが残っているからです。この生命のスパークは、迷える人にとって本来自分があるべき場所へ引き戻してくれる唯一の希望の光です。従つて、わずかに存在するこの生命のスパークが放蕩息子に自分の行為を思い出させたのです。しかし、宇宙の意識は批判も分割も知らない故に、これは即座に宇宙の意識によって克服されました。

しかし、試験に打ち勝ち、エゴである自分を意識からなる宇宙の海の中に融合させ消し去るには確固たる決意が必要です。

イエスの述べた様にこれは―マインドの蘇生であり再生―です。何故なら、エゴのプライドからなる意志を実際に死滅させる事によって宇宙の意識と栄光の中に生まれる事になるからです。ちょうど水の一雫が大海と一体化(融合)する事により海水になるのと同じであり、この時雫はすでに雫ではなくなります。

如何に多くの書物を読み多くの宗教を遍歴しても、如何に多くの講義を受け多くの教師から学んだとしても、あなたが放蕩息子様に行なわない限り、この真実がもたらされる事はありません。マインドの意志のプライドとエゴを消し去り、謙虚さと意識の意志の中に生まれ変わらなさい。

しかし、現在あなたが生活の中で楽しんでる事の全てを諦める必要はありません。むしろ、意のままに過度に耽つていた事を適度に行なう様にするのです。そして、万物とフォームを形成している全ての細胞に神の現れを見る様にマインドを導くのです。何故なら、万物の生命とそれを形成する細胞は、あらゆるフォームを通して様々な段階で表現されている神の生命そのものであるからです。

こうする事によって、あなたは金星や他の惑星の人々と同じ生き方を始める事になり、差別という概念は生活の中から消えます。この生き方が出来るなら、誰でも今まで知る事のなかった遙かに偉大な美と平安に満ちた物事を実証するでしょう。そしてあなたの身体は完全さの証拠を表現するでしょう。これらは全て、今あなたの中に存在しています。これはちょうど、他人からどのように扱かわれたいとあなたが感じるかそのフィードバックと同じで事であり、ただ同じフィードバックを万物に返せば良いのです。しかし、何度か試み失敗したからといって諦めてはいけません。その状態をマスターする決心を更に強めなさい。そして、決心を強めるほど、結果はより良いものとなります。最初これは不可能に見えるかもしれませんが、しかし、何事も一時は不可能に見えるものであり、歩く事を学ぶ時でさえそうです。しかし絶えまない努力は成功への道です。地表に金を見つける事はなく、この事も同様なのです。そして、真実を見つけ出すには深く掘り下げなくてはなりません。

あなたがどんな才能を持っても、活かされなければいっただい何の価値があるでしょう。例えば、偉大な芸術家としての才能を持つ事にあなたが気づいているとしても、その才能についてただ考え夢見ているだけだとしましょう。行動しなければあなたは何も実現出来ず、持てる才能が役立つことは絶対ありません。あなたは夢を表現し実現出来る事を証明する事さえ出来ません。従って、才能に関わるあなたの夢の全てと願望は依然として未知であり、夢の状態に留まっています。あなたが自分の隠れた能力を現わそうと決意するまで、この状態は続きます。従って、唯一、決意する時、それが真実で価値あるものだ証明する事が出来るのです。そして、これこそ自己の成長であり、今まで述べてきた潜在能力は全てあなたの中にあるのです。しかし、行動しない限り、自分にもまた他人に対しても何の価値もないでしょう。

あなたは日々の生活において能力を表す事によってあなたの能力を再建する必要があります。それによって、あなたが感知する物事は実行出来るものと分かります。これは自分を救うばかりでなく、あなたの実例により他人もまた恩恵を授かるのです。

実例は様々な方法で示されてきました。ある独裁者は人民を支配する目的の為に敵対する人々を殺して他の人々への見せしめとします。このような方法でさえ実例を示す事が出来るのなら、世の中の人達に模範として良い実例を示せないはずはないでしょう。

実例は行動で示す事が出来るのです。単に言葉や夢で示すことは出来ません。そして、理解している物事を活かす事によつてのみ示す事が出来るのです。他人に対して正直で誠実である前に、先ずあなたの良き自己に対して正直で誠実でなければなりません。他の意識ある存在に信頼される事を望むのなら、まず自分の意識を信頼しなくてはならないのです。

異なる生き方をしている多くの人々の中でこの様な新しい生き方をするには、確固たる信念と忍耐力を持つて努力する事が必要です。それは、誰もがすぐにこうした考え方を把握する事はなく、人類は極めてゆっくりと変化するからです。しかし、生存し続けようとするのであれば、変化しなければなりません。そして、良い結果を得るには、如何なる分野の改革者も確信を持ち毅然とあるべきです。我々は岩盤の上に基礎を築くべきであり不安定な砂地に築いてはなりません。そうすれば、変化と抵抗が生活の中に嵐を起こす時もあなたは断固として立つ事が出来、弱い基盤の上にいるが為に吹き飛ばされる事もありません。到達するゴールこそ重要です。従つて、如何なる障害物にもゴールへの道を妨げさせてはなりません。

第七課 宇宙的記憶

記憶を持たない人はいません。記憶とは、生活を続ける為に不可欠なものです。しかし、ほとんどの人が様々な人生から得た過去の体験を思い出さないのは、獲得した重要な価値ある物事を記憶する方法を、マインドが全く学ばなかった為です。マインドは結果に依存して来ましたが、結果とは瞬間的であり変化するものです。特に、エゴが感じるいわゆる重要でない事柄は少しも価値はありません。日常の仕事は習慣化され、エゴを支配していますが、これを記憶とは言いません。人間は宇宙的な記憶を養わない限り何もしないのです。

以上の事を説明する為に、一般的に知られている記憶喪失を例にあげましょう。ある人が順調に暮らしていて、地位も得て家族も有るとします。しかし、記憶を喪失し、同じ国の別の場所で人生を新たにやり直し、家族を得て、一般労働者として働いているとしましょう。そこへ以前の知人が現われて彼を知っていると言っても、何一つ記憶していない為に、当人は否定するでしょう。この事は、肉体はいまだに以前の個性を保っている一方、以前の自我はマインドに無関係である事を表しています。これこそ宇宙の、そしてエゴの本体に取り組む際、多くの人に共通して起こる事であり、過去世の記憶を持つ人がほとんど存在しない理由です。この事は、現在同様、過去世において、意識である真の自分と個性、即ちエゴのマインドが分離していた事を示しています。何故なら、前述の通り、意識は唯一の、真にあなたの永遠なる部分であるからです。そして、意識の中にこそあらゆる行動が記録されているのです。意識の中に自己のマインドを融合させない限り、人は本体を失います。しかし、宇宙の意識と同調して現在のエゴのマインドに埋没していた個人の本体を見つける事が出来る人もいます。これは、私も他の人々と共に何度も体験しています。しかし、個人的なエゴのマインドに過去の体験や過去に関連した事柄を伝えるのは困難な場合もあります。これには、真の自己である万物を包括する意識と、個人的なマインドを融合する以外方法はありません。これは簡単ではありません。具体的な事実という結果の世界に大抵の人は止まっているからです。しかし、結果の内奥には結果ほど明白ではないけれども、それぞれ因が潜んでいる事は分かっています。従って、マインドが意識と融合しない限り、マインドは生命の海の中に紛れてしまう場合がある事が分かります。それ故、イエスの様な偉大な教師が―肉体を斬る者を恐れず魂を斬る者を恐れよ―と力説したのです。

この言葉の意味を考えてみましょう。人間は二つの魂を持ちます。センス・マインドの魂と意識の魂の二つです。センス・マインドは具体的な結果だけに固執する事によって記憶を失い消滅する場合がある為、記憶は生命を永続させる為に不可欠なものであると分かります。イエスはセンス・マインドを意識と融合させたからこそ―私はこの世に在るがこの世の者ではない―と語り、イエスの過去に関する多くの事を述べたのです。記憶を運び記録の書を包括する意識と融合しなければ、イエスでさえもこれらの記憶を保つ事は出来なかったでしょう。意識とマインドを融合する為

には、センス・マインドは神を信頼する様に意識を信頼しなくてはなりません。そして、それには時に盲目的というほど強い信念が必要です。

そこで、盲目的信念とは何かを更に明確に説明しましょう。人間には物を見る為に目があります。しかし、窓ガラスの向こうに見える景色を窓ガラス自体が見る事が出来ない様に、目自体が見る事は出来ません。目を通して見ているのはあなた、即ちあなたの意識が見ているのです。故に、あなたが意識を失えば、視覚器官は存在するにも関わらず、見る事は出来ません。他の感覚器官も同様です。従って、生命の宇宙的記憶を保とうとするならば、意識を通して見る重要性を理解する事、即ちセンス・マインドを意識と共に働かせる事を知る必要があります。それによって、記憶のページから伝えられる印象を通して、永久不変である自分を知る事が出来るのです。以上が、永遠の生命を得たいと望む場合に、個人の生命において重要な段階です。これこそイエスが語った——自分の生命を失う者は永遠の生命を得る事になる——という事の真意です。

日常生活において、ある程度宇宙的な生命をマインドが認識する様に訓練する必要があります。これには二つの状態を通して行なう事が出来ます。第一に宇宙の記憶を読み取る事が巧みな人による場合。第二に意識を認める事によってあなたのセンス・マインドに意識がもたらす印象を伝える様になる場合です。しかし、それにはマインドが意識を信頼する必要がある、この二つが融合した時に印象が伝えられます。そうすれば、あなたは宇宙の因とそれに関連した結果に十分に気づいて生きる事になるでしょう。

ブラザーズとの体験を経てからは、私は生活の二つの異なる状態に生きています。一方では、以前と同じ様に、通常の方法で日常の仕事をこなし、以前にも増して生活を楽しんでいます。更に、他の世界での体験や他の惑星で出会った友人達について同時に感知しています。これらの体験は、日々の活動と同様に、記憶の上で消す事の出来ないものです。

生命の宇宙的な概念を得る為に必要な事は、心が意識を通して気づく能力を拡大する事に尽きます。これによって、マインドと意識の両面で、行動においてより覚醒した状態になるのです。これは、飛行機の中や高いビルディングの上にいる場合に例える事が出来ます。何故なら、あなたは頭上に存在するもの・眼下に存在するものを同様に気づく様になるからです。あなたは同じセンス・マインドを用いているのです。只、マインドの気づく領域が拡大したに過ぎません。どこにいてもこれが行なえる様になると、あなたは多くの過去の経験を伝えてくれる宇宙的な記憶に関連して無限に探求する事が出来ます。この様に、あなたは真の自己を見つけて永遠の海に住むのです。

この生命の特殊な段階は研究しなくてはならない主要な部分です。しかし、今まで行なってきた方法に代えて、センス・マインドが意識と共に生き始めると、それほど困難な事ではありません。意識とマインドが融合（一体化）して働くと、結果は優れたものとなります。以上は前に述べた事の繰り返しと思われるかも知れませんが、反復は記憶になります。

ここで、生活を共にする二人を適切な例として取りあげます。二人は各々の生き方と習慣を持つ個別の存在です。しかし、共に生活し、何年か経過すると、

互いの習慣を取り入れるのみならず、互いに似てきます。それは、二人があたかも一体であるかの様に感じ始めるからです。犬やネコの様なペットでさえ、飼い主の人格を真似る場合があります。従って、常に思い出す人・物がある場合はそれが自動的な現象となり、フォーム（形態）は記憶のパターンに基づいて行動する故に、思い出す為の努力は必要なくなります。理解すべき最も重要な事は、パターンとはフォームの個性に似せて作り直される点です。元の人物は既に以前の人物とは別人であり、他の人物に入れ変わったと言えるでしょう。何故なら、一方が他の一人を吸収し、二人は一体化したからです。以上は、互いに親しい関係にある二人を例に述べました。

一方、これは、大勢が同じパターンを用いる場合、一人が代表となる時にも起こる現象です。これは神、即ち意識が万物を包括している事を表わしています。そして、二人の人物が親しく交わり、融合（一体化）し互いに似てくると同様に、エゴの代わりに神の言語で思考すると、人は神と一体化し神に似てくるのです。しかし、本人の個性は保たれたままです。以前との違いは、いわゆる神、即ち知覚状態にある意識とセンス・マインドが融合（一体化）している点です。

センス・マインドは通常の仕事を以前と同様に遂行する事が出来ませんが、意識の存在に常に気づいています。そして、この意識は結果の世界で賢明に働く為にマインドにパワーと英知を与えているのです。この状態に至ると「私が成すのではなく父が私を通して全てのことを行なうのだ」とイエスが言った時に感じた様にマインドは感じるでしょう。これが宇宙の意識です。

意識は万物の父母であり、様々なフォーム（形態）を孕み（はらみ）誕生させます。この意識の中に未だ現象化していないものの青写真、即ち記憶が常に存在し、必要な場合には常にその形態を再調整する事が出来ます。しかし、それにはセンス・マインドだけでは不可能であり、意識とマインドの二つを組み合わせなくてはなりません。何故なら、いうまでもなく、センス・マインドは結果から学んでいます。今こそマインドは因が結果を生じる事を理解しなければならぬのです。結果とは因が結実したものであり、コース・マインドが意図する通りにセンス・マインドは正確に遂行しないかもしれません。その為、誤解から過ちを犯す事もあります。そして、これが恩恵の法則の入口となり、この法則を通してセンス・マインドは理解し過ちを訂正する為のチャンスを得ます。進歩する前に過ちを訂正しなくてはなりません。そして、意識の為に進歩しなくてはならないのであり、センス・マインドの為ではありません。こうして進歩する事によって、センス・マインドはより良い自己が望む様に遂行する事が出来ます。訂正が行われない場合も、多少の記憶は残るかも知れませんがその記憶は歪曲されたものとなるでしょう。

宇宙的な記憶を養う為に性急になつてはいけません。短気は法則の誤用を生むからです。意識は永久不変である事を常に忘れてはなりません。意識は何処にも移動する事はないので急ぎません。意識の中に全てを包括しているからです。これを思い起こすならば、多くの過ちを避ける事が出来ます。

永遠の記憶を養い、神、即ち至上なる意識に酷似した存在となるには、人生のパートナーと共に生きる様に、意識と共に生きなくてはなりません。自分の事を考えるのみならず、相手の事も同様に考える必要があります。そうしてこそ調和した一組となり、二人は融合するのです。つまり、これがセンス・マインド

を意識に融合させる為に成すべき事なのです。そして、これが成される時に、最初に神が意図した様に、人間は神を表現するのです。これは、夫と妻が互いを表現し合い、最初の出会いと以後の全行動の記憶をいつまでも記憶として保ち、共に人生を楽しむのと同じです。

センス・マインドと意識の結婚は、ライオンと羊が共に横たわっている姿として描かれてきました。この状態が起こると、永遠の道に足を踏み入れることになり、聖書で約束されている通り、記憶の書があなたの目前に開かれるでしょう。

《 神の目・すなわち意識 》

これまで我々は宗教的な真理として、神は全ての行為を知ると教えられてきました。しかしセンス・マインドはあらゆる結果の内奥にある不可視の因までも見る事は出来ません。これは、我々が見えるもののわずか半分だけを見ているに過ぎないことを表わしています。しかし、神の創造した一結果である我々は、神の見るものを見る可能性を持っています。神の様に見える事が出来ないのは、我々が生命を理解していない為です。イエスは―あなたがたは目があるのに見えない。盲人が盲人の手を引いているかのようだ―と言いました。

家に窓がある様に、我々は確かに目を持っています。もし窓が話せるなら、自分を通して森が映し出されるのだというかもしれません。そして、例えば私が鏡になったとしても、森を映す事は出来てもその生命までも映す事は出来ません。視覚の結果を映しますが、結果の生命までも映す事は出来ません。窓や鏡と同じです。しかし、映す為には因が存在しなければなりません。従って、ある意味では人間は半分死んでいるか、または生命の半分のみで生きている様なものです。それ故、イエスは―死人を死人に葬らせよ―と言ったのです。これは、死体を運ぶ埋葬人は死体と同様に死んでいるという意味です。棺の中の人体は生命を気づく事なく横たわっています。一方、死体を運ぶ人々も、生命、すなわち宇宙の生命を十分に気づいていません。死体も、生前は自分を運んでいる人々と同様に精神生活を営んでいましたが、ひとたび意識が人体から回収されると心は沈黙しました。何故なら、死体のマインドは真の自分とは意識であることを全く理解しなかったからです。

私が意識と言う語を頻繁に使うと思うかもしれませんが、しかし、この意識こそ真のあなたなのです。意識はまた創造物全ての内奥に存在する―基本的なパワーです。そして、精神生活において最も重要な部分です。センス・マインドは生命を継続する為に体験を記憶しなければなりません。しかし、意識が生活における全行動を記録するものである為、センス・マインドが意識と無関係であると記憶は永遠ではなく短いものとなります。しかし、前述の通り、意識と融合する事によって永遠になるのです。自分にも意識はあるとあなたは言うかもしれませんが、意識がなければ生きる事が出来ないのです、部分的にそれは真実です。しかし、あなたは神、即ち創造主として宇宙の意識に気づいていますか。

何故なら、この意識ある英知は宇宙のみならず創造された結果全てを知っているのです。言い換えるならば、意識の記憶は因と結果から成り立っています。そして、我々が創造された目的を成し遂げるのであれば、宇宙の意識である我々の生命の半身を養う必要があります。何故なら、宇宙の意識が養われると、その記憶の全てと共に永遠の生命がもたらされるからです。

それでは、いかにして宇宙の意識を養う事が出来るのでしょうか。その方法は学校で何かを記憶する場合と同じであり、センス・マインドに十分に印象づけたとあなたが確信するまで反復するのです。

これを行えば、あなたは決して忘れることはないでしょう。しかし、これは宇宙の全体性の中で行なう必要があります、宇宙の視覚、即ち神の目で見る事によって可能となります。

あなたを混乱させる様な固定観念に心を囚われてはいけません。今まで心で世俗的（習慣的）に受けていた反応と同じものを期待してはいけません。何故なら、あなたは一輪の花の生命に気づく様になると、同時に結果である花を生じた英知の存在にも気づく様になるでしょう。花は音声という形では話しません、英知に語りかける英知として反応するでしょう。あなたは万物に対してこれと同じ方法で話しかける事が出来ます。何故なら、この時あなたは、単にフォーム（形態・万物）をフォームとして認識するのみでなく、フォームを通して表現されている英知を認めているからです。美しい花は誰もが好むのでここで例にあげましたが、花に感じる愛が自分に対するものと同じであり、人間の英知を認めるように確かなフィーリングを持って花の英知を認めるのなら、花は応じてくれます。顔を左右に動かす様、花に話しかけると、その様に反応する事が観察出来ます。それは、太陽に従う様に、花はあなたの指示に従うからです。それには、常にあなたは英知あるフォームに意識によって話しかけている事を忘れてはなりません。ひとたびこれを成し得ると、センス・マインドと意識を融合させるのみならず、記憶も養う事になります。この時点から、あなたは拡大し続け、万物の中にある宇宙の意識を認識する事によって、生命を持つあらゆるフォームを包括するのです。そして、これまで知らなかった生命の半分を体験するでしょう。

あらゆる行為は皆、宇宙の資料室に記録されています。そして、あなたが必要な場合には、いつでも創造主と同じ様に知識を入手する事が出来ます。あなたが覚醒したこの部分は常に存在し、今後も存在し続けるでしょう。そして、生命の神秘は理解へと置き換えられるでしょう。

フォームのタイプに関わらず、あなたは人間に対する場合と同じ様に確信を持って行動すべきです。そして、あなたのフィーリングや行為に疑惑を抱いてはいけません。フィーリングとは覚醒を気づいている状態であり、意識からもたらされる印象としてのフィーリングは明確なはずで、

言うまでもなく、動物は言葉話しません。動物を調教する人は動物に対するのと同様に、自分に対しても確信を持って行動する必要があります。調教師は、自分の表情から伝わるフィーリングを通して動物たちが命令に従う事を知っています。つまり、調教師と動物達は互いに感じ合っているのです。調教師が動物と行なう事を、あなたはいかなるフォームとも行なう事が出来ますが、これには調教師が動物達に向けるのと同じフィーリングを持つ必要があります。

ひとたびあなたのこの部分を発達させると、どんな制約も受けず、分割する事なく、宇宙の意識との融合（一体化）を確信します。何故なら、この時あなたは生命の満ちた宇宙の海を扱っているのです。聡明な事に、あなたは元素類を支配するマスターです。これはあなたの生得権であり、聖書に書かれている様に一人は死をも含めたあらゆるものを支配する権利を与えられているのです。この様に、人間は新しい生命の中に生まれるのです。しかし、これも訓練しなければ不可能であり、訓練とは出来る限り日々これを実行する事です。

最初は花を対象に練習する事が出来るでしょう。しかし、最初の試みで失敗しても失望せず、むしろ技術をマスターする決意をさらに強めれば良いのです。古い習慣というものは良き習慣の中に吸収されるまで、常にあなたの行く手にある事を忘れないで下さい。そして、あなたがどこに行き何を見、何を行なうと、万物の内奥に存在する宇宙の生命と英知に気づく様にしなさい。あなたと同様に、宇宙の生命と英知から逃れられるものは何一つありません。何故なら、宇宙の中で最小の分子でさえも、あらゆる他のフォーム同じ様に英知ある存在であり、活動し創造された目的を果しているからです。肉眼では分子を見る事は出来ませんが、あなたの意識の目を見る事が出来ます。そして、ひとたびこれを生活の一部にすると、あなたが患っていた病気がいかなる種類であっても、精神生活を修正する事により消滅するでしょう。

マインドの創造者はマインドではなく、宇宙の意識がマインドの創造主です。故に、センス・マインドが意識と融合（一体化）すると、創造したマインドを意識は訂正する事も完全に機能させる事も出来ます。老化はセンス・マインドの概念であり、払拭できます。年令は人が重ねるものであり、若さも人によって得られると言えるでしょう。聖書には―死は人間により得られる―と書かれています。従って、生命も人間、即ちセンス・マインドにより得られるに違いありません。そして、これは宇宙の意識と融合（一体化）する事によって成されます。何故なら、宇宙の意識は年令・時間・場所に関わらず常に生命の基本的な状態にあり、全てを包括しているからです。

ここで少し土星旅行における経験を述べてみましょう。それによって、あなたがいかにかに的確に私と共に意識の中へ自分を置く事が出来るかが分かります。またそれによって、私と同様に、あなたにとってもリアルに感じる事が出来るかどうかも分かるでしょう。

カリフォルニアを出発した後、私はスカウトシップと呼ばれる小型円盤に乗船しました。このスカウトシップで運ばれた母船は、以前に見たいかなる母船とも異なるタイプのものでした。そこには、私のマインドを旅の目的からそらして注意散漫にさせる物事が沢山ありました。本来の心で見ると、目にするもの全てが見慣れない機械装置類であり、興味を惹かれたのです。しかし、間もなく旅の目的を思い出し、自分が気分散漫の状態であると気づき、各感覚器官の機能を統合しました。しかし、これは簡単な事ではありませんでした。マインドは自己中心的で理解できる限度以上に要求するので、様々な方向へ分散してしまうのです。

しかし、私の意識が旅の帰路にはこれら全てを観察する時間があるとマインドに囁く様に伝えてきました。そうしているうちに、マインドを意識と融合（一

体化)した状態に置く事が出来、与えられた重要なレッスンを吸収する事が出来ました。この時、私の感覚は、好奇心と旅の宇宙的な目的の間で混乱していました。従って、心に翻弄(ほんろう)されている自分をコントロールし、自分が重要なのではなく、学ぼうとしている内容こそ意味があると知る義務がありました。つまり、私は良き自己、即ち意識という教師に従う必要があったのです。そして、この意識は個人的な好奇心を満たすものは必要な時期に与えられる事を知っていたのです。

これに成功すると、無限の視野を開く広大なドアが開かれている事を私のマインドは感じました。そして、今までマインドが聞いた事もない様な物事を全て理解する体験をしました。それは無限の感じであり、母船も含め全てがまるで自分の一部である様に感じました。母船をまるで生き物の様に感じ、大型船の船長は自分の船が沈む時にどんな気持ちになるかを初めて理解出来ました。通常は、全乗組員を避難させながらも船長は船に留まります。いよいよ船を去らなくてはならない時には、船が沈んで見えなくなるまで見続け、あたかも船と共に自分の一部が沈んでしまった様に感じるのです。確かに、彼の一部は、忘れる事の出来ない船と共に海に沈んだのです。何故なら、それほど船の印象は船長にとって強烈だったからです。船の生命は船長の生命でもありました。船と船長は大変親しく、共に過ごし、まるで人間同士の様に互いにフィードバックを与え合いました。一方は船長の英知であり船は従者でした。こうして二者は融合(一体化)していったのです。

この事は、ひとたび生命の融合(一体化)のもとに生きるならば、宇宙の英知に関わる万物の生命に当てはまります。以上が母船に乗船した際に私が感じた事です。

次の課では、これに関して更に詳細に述べる事にします。

第八課 宇宙の一体性

第七課では、土星の宇宙船内における体験を述べました。前述の通り、初めて巨大な船内に足を踏み入れた時、私は装置類に大変興味を惹かれました。しかし、この旅の本来の目的にふさわしい様に湧いてくる好奇心を静めて、意識によって気づき理解する状態が必要でした。マインドはまるで答えを聞こうとせずに、矢継ぎ早に質問する子供の様な状態でした。従って、センス・マインドに聞く体勢を取らせ、好奇心を起こさない様にマインドをコントロールする必要があったのです。ところが、これが大変役に立ちました。船内で行なわれた会議に聞く姿勢で臨む準備が出来たからです。それでもまだ、マインドは疑問を持ちましたが、敢えて説明を与えず保留にしました。会議が終わってみると、心中の疑問は消えていました。私の疑問の全てに解答が与えられたからです。

帰路においても、同じ様に装置類に興味を湧きましたが、マインドの忍耐力が増し、意識から伝えられる説明を受ける準備が出来ていました。初めの様な好奇心に満ちた状態とは違い、授業中に疑問を挟まず理解しようとする生徒の様に、知識を得たいという要求だけがありました。この様なマインドの状態で、装置類の複雑な部分とその目的を十分に気づく様になりました。又、自分が各装置の一部であるというフィリングを持ち、私の目的は他との協力であると感じたのです。これは極めてはつきりしたものでしたが、私のフィリングをどう表現すれば良いか、言葉が見つかりません。しかし、非常に鮮明な印象を受けたので、その体験を忘れる事が出来ません。今この様に話していても、その感覚がよみがえり楽しく感じます。

これは私が体験した旅の思い出のほんの一部に過ぎず、宇宙船内に存在したあらゆるものとの交流も一体感があり、忘れる事が出来ません。そして、センス・マインドと意識との一体感は、我々を運んでいる宇宙船を包んでいました。それは分子群、即ち私であるフォームの意識が、船体であるフォームの意識を持つ分子群と一体化し始めたからです。各フォームの幾何学的パターンは異なり、結果の世界では異なる目的を持っています。しかし、因は同じであり、互いに宇宙における目的を遂行しているのです。言い換えれば、私が意識によって理解を望んだものの一部分となる事が出来たのは、それが意識によって作られたことを認識したからです。

いかなるフォームの分子群・細胞群にも、その物質の生命である意識が授けられています。生命の支えなしに存在する分子はありません。即ち、支えが無ければ存在出来ないのです。

ちようと他人の靴を履いてその人の気持ち分かる様に、あなたは万物に対しても同様に感じる事が出来ます。これは効果的な方法です。この方法を用い

ると、多くの誤解や心痛を除く事が出来るでしょう。意識を通して関連出来ないものは何ひとつないのです。しかし、それにはセンス・マインドは意識から積極的に学ばなくてはなりません。何故なら、意識こそ知るものであり、意識の海の中で万物が生きているからです。この意識の海の中で全宇宙を完全に表現する為にあらゆる段階のものが一つに融合（一体化）しています。

万物は英知の表現の場です。最初、これを認めるのは簡単ではないかも知れません。フォームの90%は人間の持つ様なタイプのマインドを持たないからです。しかし、そうしたフォームも意識—フォームの生命力を持ち創造された目的を果たしています。従って、ひとたび人間のマインドが他のセンス・マインドに関連するこの段階を認識すると、一体化が起きます。

第七課では、二人の人間が一定の間、親密に関わりを持つと、外見や行動が似てくる現象について述べました。この調和し一体化した状態は万物との間にも同様に養う事が出来ます。これを理解する為に、別の方法で説明しましょう。

最近、神とはどのようなものかと質問を受けました。神を説明するのは簡単ではありません。神とはこの様なものと分かっていますが、それを表現する言葉が見つからないからです。しかし、あらゆる現象は創造主の意識から生み出され、創造主の意識の中で生きているゆえに、我々は創造主の創造物を研究する事が出来ます。誤って伝えられている様に、創造主は老人ではありません。何故なら、意識とは、常に生命の基本的な状態にあり、我々が知る限りでは始まりも終わりもないからです。言うまでもなく、他の惑星の人々はこの知識を活かし、長く若々しい人生を楽しんでいます。

自然、即ち自然の法則を語る時、そこには二つの状態が見られます。一つは自然の生み出したフォームであり、そこには老化現象が見られます。そして、老化とは言わばフォームが目的を達成した姿であり、新しいフォームへと置き換えられる状態であると言えるでしょう。しかし、生命の法則、即ち、自然は常にそうであった様に、現在も同じであり、根本的な状態にあります。絶えまなく役立つ為に、古いフォームを新しいフォームに置き換えながら、それぞれが表現において、より良質である為に自然は進化するのです。自然は常に前進し、決して後退する事はありません。この様に、我々はまさに活動の中に創造主の意識を見ることができます。新鮮さだけがこの意識から生まれるのであり、老化は存在せず、従って、創造主は常に根本的な状態で活動している事が分かります。この意識が創造した万物は、根本的な因の現れです。

差別や批判は人間の習慣となっていますが、創造の世界には存在しません。太陽は正しい者にも不正な者にも等しく光を降り注ぐと言われています。人間のマインドには多くの違いがあるとはいえ、創造主の意識においては、全てが宇宙を構成する不可欠なパーツです。そして各パーツが無ければ宇宙は完全にならないでしょう。

人間と創造主の間にある主な違いとは、創造主は創造物の目的を理解し何の欠点も見出しませんが、一方、感覚器官に左右される人間は、宇宙の意識、即ち自分の真の部分を理解せず、生命の半分である心で生きています。その為、人間は創造主の創造物に欠点を見出し、不快な状態を引き寄せています。しかし、意識とマインドを融合（一体化）させ、全生命を生きる様になれば、我々は創造物の目的を知り、不快な状況を生み出してきた差別の習慣に浸る事はなくなるでしょう。故に、人間が創造主の完全な表現体であろうとする場合は、今まで以上に自然を研究する必要があります。何故なら、自然こそ神の意識による表現であるからです。そして、我々が互いの習慣を取り入れ外見まで似てくると同じ方法を用いて、自然の一体性の法則を観察して取り入れるべきです。

あなたが自然の観点から行なうのが困難な場合は、今まで行なってきたよりも効果的な方法が他にあります。クリスチャンであればイエスの教えを活かし、日々の生活の一部にしましょう。あるいは、他にどんな救世主を信じていても、その教えがあなたの習慣となる様に教えを実践するのです。ちょうど親しい人の習慣があなたの習慣の一部になるのと同じです。この様にすると、多くの不快な物事が理解に置き換えられる為に、あなたの生活に驚くほどの変化が起きます。

しかし、それにはあなたのセンス・マインドは全てを知る意識の指令に従う決意を持たなくてはなりません。すると、あなたは―自分、即ちセンス・マインドが行なうのではなく、自分が経路となつて、意識が全てを行なうのだ―と言える状態に至ります。

以上は是非我々が行わなくてはならない事です。これが出来る様になると、生命の新鮮さが自分を通して表現されます。すると、老化は若さに、病氣は健康に置き換えられるでしょう。そして、この方法に従えば、我々は地球を天国のような状態にするでしょう。

しかし、この講座を読むだけでは達成出来ません。これを活用する事によって為し得るでしょう。そして、活用する事によってあなたは自分を支配します。すると、今ここに存在する諸要素があなたの役に立つでしょう。何故なら、人間は父の可能性を有する唯一のフォームであるからです。しかし、それにはまず人間は意識を父と認めて、創造された目的を果たそうとするのであれば、自分が生み出されたところへ戻らなくてはなりません。我々は決して自分の為だけにマインドを役立たせる事は出来ません。それは他の人のマインドも同様であり、この様にしなくては生活を実際に素晴らしい状態にして楽しむ事は望めません。

我々は皆、意識ある存在であり、意識はマインドが勧めるよりも良い方法があるという印象を静かに囁く様に伝え続けています。

教師や伝道師が方法を教えてくれるものではありません。各人の内部に存在する意識が我々に教えるのです。何故なら、長い間この意識こそがより良い生き方

を人間に気づかせてきたからです。人間のセンス・マインドが支配権を意識に譲り渡すまで、意識は囁き続けるでしょう。そして、この囁きを聞いた時に初めて、人は理解するでしょう。何故なら、二度と分裂を感じる事も創造主からの分離感を起こす事もなくなくなるからです。

スペース・ピープルはこの生命に関する理解力を応用していますが、応用に至るまでには長い時間を費やしました。しかし、彼らは正しい道に足を置いていますから、いずれ目的を遂げるでしょう。一方、我々地球人は種々の本道を進んだり脇道にそれたりしてきました。しかし、その道は創造主の住まいだけを除いたあらゆる場へ通じる事になりました。地球人はスペース・ブラザーズに感謝して良いでしょう。それは、彼らが意識というキーワードを伝えてくれたからです。この意識があらゆる創造物を創造主と融合（一体化）させるのです。

我々地球人が横道にそれたとは云え、意識とは生命の海であり、万物は意識の中で生きています。そして、宇宙には初めも終わりもありません。従って、我々は興味深いものが沢山ある巨大な建造物に囲まれて生きている様なものであり、我々の興味の対象は次々と移り変わります。これは、高い塔の上に立っている状態に例える事が出来ます。東を向けば東の物が、西を向けば西の物が見渡せます。従って、センス・マインドが意識による知覚に関心を向ける時には、意識の住みかの中にある全ての物を見たいと望むでしょう。これは、ある種の危険を伴うかもしれませんが。知識に対する渴望は短気を助長し、結果的には混乱を生じる可能性があるからです。

従って、マインドは自制を学ばなければなりません。また、学ぶ事に限りはなく永遠である事を忘れてはいけません。この覚醒により、物事が連続する中で徐々に知識を得る事が出来ます。そして、差別や神秘を生み出すギャップや分裂もなくなるでしょう。マインドの好奇心は時間に影響されない性質のものへ興味を向けるべきであり、只、各段階で提示されている課題を学びさえすれば良いのです。

すると、次の段階に進む時にマインドが生み出す可能性のある異質な要素の影響を全く受けず、意識とマインドとの融合（一体化）が起きます。

完全に全てが明かされる迄は、意識が伝え様としているものに疑問を抱いてはいけません。そして、何物も恐れるべきではありません。そうしなければ、学習の連続性を見失う事になるからです。何故なら、言うまでもなく、マインドは理解していないものを恐れ、不快なものを拒絶する傾向がありますが、これは、今まで与えられてきた間違った教えに従ってきた為です。現象はいずれも皆、他のものと調和している事が分かっていますが、宇宙が完全である為にはそうあるべきなのです。そして、マインドがこれを理解すると、知恵の花が美しく開花し、絵画を完成させる為にパズルの各パーツが適所に填め込まれます。拒絶されるパーツは一つもありません。

あなたはセンス・マインドの妨害に気づく様になるべきで、マインドが忍耐力の欠如や利己的な事を通じて妨害する時は、子供をなだめる様にマインドをなだめる事が必要です。これはすぐ行なわなくてはなりません。さもなければ、パズルのピースの教枚を見失い、マインドは混乱するからです。

講座のこの部分は確実に把握するべきです。それは、今後の講座で意識からなる宇宙の海を探究するからです。そして、この探求は多くの個人的な印象を

伝える事になり、しかもマインドは見るものを嫌う傾向があります。

例えば、過去における無数の異なる表現をする自分を見る場合、マインドに都合の良いものもあり、差別するかも知れません。言い換えれば、マインドは現実には直面する事を学ばなくてはならないのです。人生には楽しい事だけではなく、計画の中には苦難もあります。しかし、苦楽両方があってこそ快い組み合わせが出来ます。人間のマインドと人体がより優れたものへ進歩し発達する為には、これ以外に方法はありません。人間が十分な知識を得るには何一つ省いてはならないのです。

マインドを用いて意識による探究を進めるに当り、再び次の事を思い出さなくてはなりません。それは、センス・マインドには限界があるが、意識には限界がないという事です。そして、探究を行おうとしているのはセンス・マインドなのです。

センス・マインドとは、エゴ、即ち個性・人間の第二の部分・意識が生み出す結果です。言うまでもなく、意識は真のあなたであり、あなたの意識が個人として知られる結果であるあなたを作り出すのです。そして、あなたは宇宙的な人間としての可能性とそのイメージを既に持っているのです。宇宙的な人は全てを包括しています。宇宙的な人はどこにも行きません。どこにも存在するからです。あなたの宇宙的な半身は、宇宙というあなたの居所の中にある部屋から部屋へ行為から行為へ導き旅へと誘います。そして、あなたは自分の継承しているものを理解し、全体と融合（一体化）するのです。

あらゆる信仰や宗教は、元来、オカルトや超自然現象と呼ばれるものに基づいています。何故なら、超自然現象とは、あらゆる創造物の内奥にある因——即ち、我々が神と呼んでいる意識そのものであるからです。そして、神秘とは理解力の不足から生じたものです。実際には神秘というものは存在しません。神秘を理解すると神秘を消す事が出来ます。

スペース・ブラザーズは神秘というものは適切な探究方法によって理解出来ることを知り、これがある程度立証しています。言うまでもなく、我々は神秘主義やオカルト主義がもたらす物事との関係を敢えて望みません。何故なら、そこには分裂があり、両極端な二つのものを扱うからです。それは物質面と霊的な面との二つであり、神秘主義とオカルト主義は恐怖と理解力の欠如からこの二つを大きく切り離してきたのです。一方、我々は結果が生じる為には必ず因が存在するという事実を扱っています。

ひとたびあなたがマインドを意識の胎内へ拡大し始めると、神秘的な分野に属するもので見聞きした事のある物事を体験するでしょう。しかし、今までの課題を十分にあなたが学んでいるならば、この現象の内奥にあるものを理解し、そして、時々、神秘主義団体や宗教団体を通して引き起こされる異なる結果を生み出すものが何かを理解するでしょう。あなたが理解に至っていれば、このような人々が陥る混乱に巻き込まれる事はないでしょう。

あなたは様々なフィーリングを体験するかもしれませんが、惑わされてはいけません。何故なら、人体や脳を構成する無数の細胞は、今まで全く活動せず休止した状態のままで使用されるのを待っていたのです。あなたの心が宇宙的な半身に興味を持つと、人体や脳細胞に活動の機会を与える事になります。そして、活動が始まると、フィーリングの違いに気づくでしょう。そのフィーリングは今まで感じた事のなかった意識による覚醒です。未使用の脳細胞を働かせようとすると、奇妙な微かな脈動を頭の中で感じる場合もありますが、間もなく他の細胞と融合して脈動に気づかなくなります。

この現象は、未使用の細胞を働かせる必要がある場合にたまに起こる事があります。これは、今までにあなたが脳細胞の半分も働かせていなかった為に起こる現象です。あなたが自分に何か悪い状態が起こったと思ひ、助けを求める事のない様にここで述べておきます。この現象は以前の様に結果である半身だけを活動させるのではなく、完全な人間を表現する方向に向かい、センス・マインドの活動範囲を拡大させる為に起こります。人によってはこの脈動現象を頭の中でノックする音やトン・ツー式のモルス信号の様だと言う人もいますが、いずれも違います。神秘主義においては、これを死者あるいは他の惑星や異次元からのメッセージと考えますが、これは現象を理解せず、神秘的な力の存在を信じている為です。実はこの脈動現象は、関心を持つより広い分野においてマインドの細胞を拡大する事によって起こるのです。

神秘主義者の多くは未知のものを知る為に種々の刺激物を用います。しかし、これは一時的なものであり、単なる幻覚または本人の希望を反映したものに過ぎません。当然、これは不自然な事であり、本人にとつて有益な知識がもたらされることはありません。唯一自然の法則を理解し自然の法則に従う事によつて、永遠の知識を得る事が出来ます。自分を知るものは全てを知る——と言ふ諺があり、長い間語り継がれていますが、昔と変わらず、今日でもこの言葉は真実です。以上の教訓を生かすならば、多くの人々の様に暗中模索する事なく、意識の指令によつて知識の宝庫・宇宙の資料室へと迷わず進む事が出来ます。論理的に考える人は皆、各人が正当に継承したものである知識の源に迷わず進む事が有益であると分かれます。何故なら、知識の源こそ宇宙の居所であり、我々の故郷であるからです。スペース・プラザーズはこの認識にもっと速やかに到達する事が重要だと我々に教えてくれました。今こそ、この知識を自分の生活の一部にする事は我々の急務です。真の自分を表現する為に永遠に努力し続けながら、理解力の様々な異なった段階において、様々なフォームを通して、我々は永遠に学び進歩し続けます。

これはちょうど、ある家を建てて住み、その中で学んだ後、もっと良い家へ引越すのと同じ事です。理解力が進歩すれば、その理解力に相応しいフォームになるに違いありません。ひとたびこれを理解すると、死の苦しみは取り除かれるでしょう。そして、常に神聖なる父の子供であり続けて、遂に父と同じになるのです。

意識は只一つです。多数存在するものではありません。一つの意識が様々な目的・段階で表現され、各フォームを通して宇宙のメロディーを完成させています。しかし、我々がこの大いなる報いを得る為には、今の住まいを改良し、万物の父を迎え入れなくてはなりません。そうした後に、父とは全知識であり、

永遠に我々の意識である事を悟り父に従うのです。何故なら、我々が人体と呼ぶ今の住まいや宇宙に存在する多くの惑星でさえ、感覚器官に支配されている人間に属するものは何一つないからです。当面、人間は無知と意識からの分離ゆえに所有権を主張するかもしれませんが、しかし、これらは全て人間の手から去って行くもので、それを阻止する事は出来ません。以上の事からも、人間は何物も所有しない事が分かります。

所有権を主張する事は全く愚かな行為に過ぎず、一時的に自分のエゴを満足させるだけです。しかし、神がフォームから決して取り去らない物が一つだけあります。それは、センス・マインドが認めようとしなかった意識です。何故なら、この意識こそあらゆる創造物の内奥に存在する宇宙の英知であるからです。

この講座では、今後宇宙の中へ探究に入ります。そして、一般的な方法、即ち何を行なっているかを理解していない人々に応用されてきた神秘主義的な方法を用いる事なく、宇宙を旅する方法を説明します。細胞の働きについても学びます。細胞は、単に人体を形成するのみならず、宇宙全体を形成しています。そして、宇宙探険の際に如何に細胞を応用するか考えましょう。

最近の科学者は万物を構成する細胞群も構成物の英知そのものである事を遂に認めました。細胞群は常にフォームとして存在する為の基盤であり、今後もそれは変わらないでしょう。そして、細胞群はあるフォームを形成する目的の為に集合しています。

ここで科学的な実験の一つ述べますが、これは誰にとっても練習に最適と思われれます。1964年6月12日発行のライフ誌に、色の周波数が科学者によって認められたと記載されました。これは発達の為の二つの状態を扱うのに最適であり、人間の成長の為に極めて本質的なものです。それはフィーリングと記憶です。この実験は目隠しをした状態で異なる色の上に三本の指を置いて行ないます。そして、色から放たれるバイブレーション、即ち周波数を感じて色の名前を当てるのです。この実験はフィーリング、即ち接触の感度を発達させるのに役立ちます。

周波数、即ちバイブレーションとは、センス・マインドに印象として伝えられるフィーリングそのものです。この実験は十分注意して行なわれるべきであり、ひとたび正しい色を感じ出来たなら、様々な色から受けたフィーリングを記憶として保つ様に努力しなさい。これは確実な進歩となり、あなたの記憶として留まって多くの分野で役立つでしょう。

そして、実はフィーリング、即ちバイブレーションとは、感覚器官に覚醒を促す意識である事を忘れてはいけません。次の課ではこれについての研究を進めていきたいと思えます。

第九課 宇宙的な細胞と世俗的な細胞の活動

第八課では、細胞や色彩について科学者が認めている事柄について述べました。今や科学者は宇宙には活動する細胞が存在している事を認めています。これは、プラザーズの観点からすると、宇宙空間は活動する細胞の集合体であると言えるでしょう。

前述の通り、人体は無数の細胞によって形成され、各細胞は種固有の任務を担い、集合体の中でその任務を果たしています。しかし、各細胞は構成物として存在する為に配列的な目的を遂行しています。そして、この活動は全てセンス・マインドとは無関係に行なわれている事を忘れてはなりません。何故なら、細胞こそがセンス・マインド、即ち視覚・聴覚等を作り出しているからです。ひとたびマインドがこれを理解すると、細胞を英知ある導き手として注意を向ける様になります。そして、地球上・宇宙空間、或は他の惑星であれ、生命のいかなる段階のものとも意志の疎通が出来る様になります。現在は科学者さえもこれを認めています。

以上の事に興味がある人は、1964年6月号のリーダーズダイジェスト195ページを読むと良いでしょう。科学者はここで次の様に述べていますが、これは私の前述の諸説を裏付けるものです。

『これらの移動する酵素は、細胞間に存在する空間を往来して情報を交換し他の細胞に語りかける声である。この声によって人体の各部分を構成する為に集合した無数の細胞が分裂・増殖する際には調和して働き、適宜な場を得て独自の形態を構成するのである』

この事実が今日の様に知られる迄は、この特殊な状態が世の中に神秘現象を引き起こしていました。神秘主義者達はセンス・マインドが細胞の持つ英知と接触する時に何が起こるか理解していない為に、感受した情報を死者から来るものとみなして来たのです。更に詳しく説明しますと、宇宙的な細胞は、各々、より小さな分子群を伴うマスター・ユニット（宇宙の意識との送受信局・送受信機能）を持っています。初期の学者達はこの事を知らず、マスター・セル・ユニットに接触した際に受ける情報を高度に進化した指導霊から来るものと考えました。しかし、実際は自分の内部から来る印象を感受したに過ぎないのです。人体は無数の細胞で形成されているので、その内部には無数のマスター・セル・ユニットが存在します。ちょうど女王蜂が数百匹の働き蜂を従える様に無数の小さな分子群が存在します。このマスター・ユニットが宇宙的な細胞であり、各フォームとしての人体内に存在して宇宙的活動の全てを指令しています。これをあえて名付けるとすれば、至上なる英知、即ち万物の父と言えるでしょう。

より小さな働き手達は細胞を形成し、宇宙の原理において同等であり、ユニットの指令に従順です。従って、センス・マインドが宇宙的な印象に

従う（委ねる）ならば、分子群、即ち小さな働き手達から印象をより簡単に感受する様になるのです。神秘主義者はこの知識がない為、印象を死んだものから来ると考えますが、それは、各細胞そのものが（宇宙的に）独立した存在である為です。そして、マスター・ユニットからの印象を感受すると、高レベルの霊的進化を遂げた存在から伝えられた印象とみなす事は前述の通りです。

人体を形成する細胞群の中には宇宙の原理に反して働くものがあります。これはセンス・マインドによって作られた世俗的（習慣的）な細胞であり、自分勝手な法則で人体を支配しようとしています。宇宙の秩序の中に恐怖は存在しません。万人が知る恐怖とはセンス・マインドが作った異質な細胞が生み出したものだからです。また、羨望・嫉妬・疑惑などを起こす多くの異質な細胞も存在し、宇宙の目的と一体化しようとする際に個人の成長を妨げます。これらは長い間この世を支配して来た為、非常に強力です。そして、この異質な細胞群は、先ず従わせる為にセンス・マインドを掌握します。しかし、この事実を理解しマインドが宇宙の意識と共に働き始めると、異質な細胞は宇宙的な線に沿って化学変化を起こし始めます。異質な細胞群は恐怖や他人に対する不快な想念等によってセンス・マインドが培養してきたものです。これは人体内に増殖するガン細胞として知られている異質な細胞と変わりありません。そして、増殖をそのまま放置すると、ガン細胞と同様、増殖し、言うまでもなく、遂には人体を完全に支配するでしょう。

心霊的な指導霊に心酔し、自分を見失った神秘主義者についての記録が存在しますが、その想像上の指導霊とは、それを望んだマインドが作り出した異質な細胞に他なりません。センス・マインドが物を作り出せるのだろうかとあなたは疑問を持つかもしれませんが、出来るのです。何故なら、マインドは一つの因から生じた一結果であり、因と同じ潜在能力を受け継ぐからです。嫉妬・憎悪などの感情は全て人間が作り出したものです。宇宙にはその様なものは一切存在しません。

そして、正常な細胞・異常な細胞共にあらゆる活動を記録しているので、センス・マインドが必要とする場合には情報を得る事が出来ます。

正常な細胞は個々の正しい情報を、一方、異常な細胞は過去の体験に基づく誤った情報を伝えるでしょう。両者とも増殖によって生きています。これは生存する為の法則ですから、異常な細胞は増殖しようと奮闘し、いかなる干渉も嫌悪しますが、一方、正常な細胞は決して干渉を嫌悪または拒絶しません。そこで、世俗的な、即ち異常な細胞を、正常な、即ち宇宙的な細胞に変化させる為には、宇宙的な細胞の援助を受けてセンス・マインドが化学変化をしなくてはなりません。

しかし、習慣に基づき、主導権を失いたくない世俗的な細胞にとって、これは簡単な事ではありません。環境というものは進歩に大きな影響を与えますから、時には高度に進歩した人との交友が個人的には必要です。これに関する実例を我々は社会生活の中でよく目にします。人は各々環境によって作られるからです。

今や科学者はあらゆる正常な細胞の活動を指令するDNAの存在を明らかにしています。また、細胞は、次々と指令を運び移動する際に、必ず指令を伝えているのです。宇宙的な細胞は常に世俗的な細胞を援助する準備を整えています。しかし、はじめにセンス・マインドを矯正しなければなりません。

このプロセスは凶暴な動物を調教し、従わせる為に訓練する事と同じです。つまり、こうした訓練によって凶暴な傾向が化学的变化を経て柔和さへと変化するのです。精神安定剤にも同じ効果がありますが一時的なものに過ぎません。永続的な効果を得るには、センス・マインドはこの様な変化に従順である必要があります。世俗的な細胞は簡単には変化しようとしないうちに、変化が生じている間は当然葛藤が起こるでしょう。しかし個人的な存在から脱却し、宇宙的な生命を生きようとするなら、堅固な意志を持ち変化の過程を経る間に起る不快な感情に一切囚われない様にしなければなりません。

ひとたびあなたがこれを成し遂げると、自由というものが分かります。何故ならその時、人はこの方法で旅する事を知らない人々の為に、知識を伝達する道具として自分の身体を用いて、宇宙を旅する事が出来るからです。これは人類に役立っているラジオ・テレビ・無線通信に匹敵します。何故なら、センス・マインドは知識を送受信する受信機として働くからです。これが真の霊的能力の発達です。

しかし、この「霊的」と一般に言われている状態は今まで全く理解されませんでした。言うまでもなく、この真の霊的な状態は全くあなた自身にかかっているものであり、霊的指導者による古来の解釈などとは無関係です。

本講座を通して強調して来た様に、これまであなたは残りの半身を探しながら、一方の半身であるセンス・マインドの領域の中だけで生きて来たのです。言い換えれば、あなたは意識として知られる宇宙的な部分を探し求めて来たのです。何故なら、宇宙的な半身こそが感覚器官に依存している人間に知るべき物事が沢山あるという印象を伝えるからです。人間は半身を探し出すまでは安心する事も満足する事もないでしょう。

聖書には「天になる如く地にもならしめ給え」という言葉があります。これは即ち、意識になる如くセンス・マインドにもならしめ給え、という事になります。正常な細胞は皆こうした可能性を持つセンス・マインドに印象を伝える意識として作用しています。

宇宙的な細胞は公平な存在ですから、感覚器官に依存している人が過ちを犯した場合にも従順に従います。印象に従って実行する正しい方法を人は過ちから学ぶのです。そして、細胞は皆テレパシーとして知られる言語を用います。―テレパシーとは即ち無言で伝えられる印象からなる言語です。

こうした印象を感受するには二つの経路があります。一つは世間で良く知られる歪んだ性質を持つマインドが作り出すもので、異常で世俗的(習

慣的)な細胞が伝える印象です。もう一方は、宇宙的な性質を帯びた正常な細胞から伝えられる印象で絶えず高揚したフィーリングを伝えて来ます。二つの経路に通じるドアは、現象化する為に開かれています。そして、伝えられる印象は、双方共にラジオやテレビの電波の様に全空間に行き渡っています。我々は印象の海の中に生きているのです。

そして、いかなる印象を望んで選択するかは個人に任されています。悲惨な光景を描いた戦争の場面を望めば、その様なタイプの印象に同調し、そうした環境の中で生きる事が出来ます。反対に、美しいメロディーや親切な行為を表現したものを選び、その様な環境を楽しむ事も出来ます。一方は異常な生き方であり他方は高潔な生き方です。そして、これらは皆、生命の海の中で起きている事を忘れてはなりません。又、我々にはどちらの環境で生きる事を望むのか、それを選択する自由な意志が与えられているのです。

しかし、あらゆる分野における異常な活動を無視せよというのではありません。それは、生命を知る為には生命の低次な表現からその高度な可能性迄、あらゆる活動を観察しなくてはならないからです。そうした後、我々は作用・反作用の法則、即ち因(四次元)と結果(三次元)を観察して、生命の内幕にある因を理解するでしょう。

しかし、我々がそれを演じる必要はありません。我々はプロボクシングの試合を観戦しますが自分がボクサーになるわけではありません。しかし、試合中に人間のマインドが働く様子を観察する事が出来ます。この様な観察方法を行なうと、更に知識が身に付き、伝えられる印象によって自分が影響される可能性のある印象のタイプが分かります。これが知恵の始まりです

イエスは監獄で囚人達と話したと伝えられています。環境や囚人達から受ける印象に影響されませんでした。これは次のように説明出来るでしょう。高いビルの上に立つと眼下で起っている事を全て観察出来る。混乱した状態を見ても影響を受け巻き込まれる事もない。これこそセンス・マインドを観察する際にあなたの意識を通して行う事です。

この講座の冒頭で、宇宙空間は宇宙的な細胞で満ちていると述べました。細胞は皆、意識ある存在であり、マインドの他にも未知・既知を問わず万物を形成しています。我々は今や科学的にこれを認識し、宇宙飛行士として宇宙空間で活動する細胞からの印象を感受する方法について学んでいるのです。これらの細胞はセンス・マインドの個人的な意見に従いません。しかし、マインドが宇宙的な源泉から印象を受けない時は一瞬たりともありません。マインドが異常な状態に囚われている為、印象に気付かない場合がありますが、印象は変わらずそこに存在しています。唯一、自分に対する(エゴの)関心を捨てた時に、センス・マインドは印象に気付く(知覚する)様になるのです。この状態は瞑想あるいは黙考とも言われる場合がありますが、想念、即ち印象センス・マインドの前を凄まじいスピードで通り過ぎる為です。ここで注意すべき事はどの様な印象を認めるかという事です。それは異常な細胞から造られた印象が正常な印象と混流し、その速さも同様に凄まじいものだからです。ちやうど濁った水が清澄な水

と混ざって流れる様なものです。センス・マインドが個人的意見を持たずに伝えられる印象に充分な注意を払う時には、二つの印象の違いを見抜く事が出来ます。それは、一方は個人的な色合いを持ち、他方は宇宙的な色合いを留めている為です。ちょうど清澄な水と濁った水に色合いの違いがあるのと同じです。そして、センス・マインドは自由意志を持ちその何れも選択出来ます。宇宙飛行士としてはセンス・マインドの希望的観測と、宇宙的な現実とを区別する為に印象の違いを研究しなくてはなりません。

前述の通り、一瞬たりともセンス・マインドが宇宙の意識から印象を受けない瞬間はありません。宇宙の意識は全知者であり、創造主であるからこそ創造したものに関心を寄せるのであり、宇宙の意識を通して意識の全てを表現出来るセンス・マインドに対しては特に面倒を見るのです。そして、恩恵の法則が働き、センス・マインドは宇宙の意識と融合（一体化）し意識の現れのひとつとなるチャンスが与えられます。我々は再生（生まれ変わり）によってこのチャンスを得るのです。

では一定期間を過ぎても進歩しない場合はどうなるかとあなたは疑問を持つかも知れません。このような状況においてセンス・マインドはオリジナル（初期）の状態に戻ると思われますが、その個性は失われていきます。正常な細胞は他の宇宙的な細胞と一体化し、世俗的な細胞は徐々に宇宙的な細胞に吸収されます。ひとたび自分の半身（四次元・宇宙の意識）を知れば、いつでも宇宙を意のままに眺める事が出来ます。その時、人間は宇宙的な存在になっているからです。

地球も宇宙空間も宇宙的性質を持つ故に、人間が宇宙空間に生きている間は、宇宙のいかなる部分も宇宙全体でさえも眺める事を禁じられてはいません。宇宙飛行士達が十分に印象を感じる事を学んでいると、宇宙空間に探険に出ると直ぐにこの様な体験をするでしょう。宇宙飛行士達は生活の二つの状態で同時に生きるチャンスを得ます。一方は地球の環境の中で育まれたセンス・マインドの状態、他方は活動する宇宙を意識によって気付く状態です。従って、宇宙空間からの印象を感じながら、他方ではセンス・マインドは地球上で起っている物事に思いを巡らす事も出来るでしょう。宇宙飛行士は地球的な知識と宇宙的な知識の二つを比較する稀なチャンスに恵まれ、更に両者を融合（一体化）する立場に立つ事になります。何故なら、可視のもの・不可視のもの両方を見る事になるからです。そして、宇宙に満ちている細胞は印象で語りかけるので、本物と偽物の違いを宇宙飛行士は認識するでしょう。そして、宇宙飛行士が他者に語る時には、彼のセンス・マインドはその情報を音声の形に変換するでしょう。しかし、宇宙飛行士が宇宙旅行から戻った時に伝える知識を世間は受け入れるでしょうか。宇宙飛行士としての体験がなくても、同じ段階まで進歩した人も同様な疑惑に直面しています。人類に深い関心を持ちその知識と体験を他人に分け与える希望を持つ仲間や体験者を信頼しない限り、人類全体が体験者の知識から利益を授かる事はないでしょう。大衆がスペース・ピープルの伝える知識から恩恵を授かる事は尚更有り得ません。

信念は人生において最も大切な要素です。誰もが自分で努力する訳ではないにしろ多くの人が人間の改善に興味を持っているからです。人は他人

を信じるべきであり、人間の改善に興味があり特に宇宙的な分野に興味を持つ人を信じなくてはなりません。そして絶えず可能性を思い起こさせ意識によるフィードバックに従う（委ねる）事を学ぶべきです。これまで宇宙的な細胞と世俗的な細胞について、また宇宙的な細胞とはあらゆる創造物の根本的なパワーである事について述べました。

ところで、この宇宙的な細胞は増殖によつて第二の細胞を生み出します。この第二の細胞はオリジナル細胞が持つ潜在能力全てを持つ子孫です。故に二種類の人間、即ち世俗的（習慣的）な人間と宇宙的な人間が現れるのです。従つて、世俗的（習慣的）な人間もオリジナルである宇宙的な細胞の子孫です。そして、ここから人間は自分勝手な考えを増殖し始め、それによつて異質な細胞という自分の想像物の中で宇宙的な正体を見失うのです。この為に自分と創造主との間に分離感を抱き、実際には存在しないにも関わらず創造主との間に距離を感じるのです。

こうした結果は世俗的（習慣的）な人間、即ちエゴとして知られ、そのエゴは攻撃性によつて異質な細胞を助長させ、身体を健康で完全な状態から遠ざける事もあります。そして、前述の通り、様々な病気が多くの不快な表現によつて引き起こされます。言うまでもなく、人間は自分が思う通りの者になるのです。

人が唯一行なうべき事は、現在自分が抱いている想念を観察し、それが宇宙の原理から如何にかけ離れているか観察する事です。そして、宇宙の原理と人間の間に大きな違いを知れば、宇宙の原理を受け入れる事が如何に困難か分かります。故に、我々は完全さを探し求めている自分を感じるのです。何故なら、穏やかな意識によるフィードバックが完全な表現として依然として存在しているからです。そして、宇宙の原理に対し人は異質な存在に変化し始めながらもどこかに完全なものが存在すると感じているのです。そして、このフィードバックが人間を完全さの方向へと導くのです。しかし、障害のない安全な道を通つてこの状態に到達する事は出来ません。どの時代においてもこの事は証明されてきました。大衆の意見に同調せず自分の意志で正しい道を歩んで来た人はごく僅かです。

正しい道に足を踏み入れると、直ぐに身体中の細胞の化学的構成がゴールに向かい変化し始めます。痛みや病気は消滅し始めます。今までの様な半身（三次元・結果）だけの代わりに完全な生命力を使い始めるからです。すると、身体中の全細胞は新しい生命を獲得し始めます。そして知識のドアが徐々に広く開き始めます。紆余曲折を経て初めてここで、人間は創造主に親密感を感じる事になります。

我々は皆、宇宙の意識の中においては一つの細胞に過ぎない事、そしてひとたびこの意識と融合（一体化）し始めると、得る知識には限界が無い事を忘れてはいけません。これはブラザーズが努力し、適切に応用している方法です。彼らも初めは大変な苦勞をしたのです。そして、我々は一歩

を踏み出すのに苦勞しています。しかし、断固たる決意を持ちブラザーズが私たちに伝えてくれた知識を活かすならば、我々も近いうちに彼らの後ろから正しい道を歩むチャンスを得ます。

何を望み、如何に自分でその知識を応用するか、それは我々個人に委ねられています。宇宙の中にあつては、その一部となり得ないもの・知る事の出来ないものは何一つ存在しません。

第十課では、如何に宇宙の家の中に存在する物事に気付くかを説明しましょう。本課の冒頭で靈的な存在を崇拜する事について説明したのはこの為です。これには心霊に関連して知らされていない部分、また人との関連における真の意味を含んでいます。従つて、第十課を学ぶとあなたの体験における相違点が分かるでしょう。そして、現在の心霊体験の様な神秘の中に巻き込まれずに進歩する方法が分かります。

第十課 意識による旅行

第九課では、宇宙空間のあらゆる場所へ意識による旅をして存在するものを知る方法について説明すると述べました。しかし、一般に知られている如何なる神秘主義的な方法も、心靈的なサークルで行なわれている様な指導靈に従う方法も用いられません。死者・生存者を問わず、自分の目的の為にあなたを奴隷にする権利を持つ人は、誰一人存在しません。唯一その権利を持っているのはあなたです。事実を認識し、あなたと共に活動する権利を持つのは、創作主、即ち神のイメージを持ち、神に酷似した存在であるあなたの半身（宇宙の意識・四次元）なのです。

聖書には「私の前に偽りの神を持つな」と書かれています。何故なら神に酷似し、そのイメージを持つものとは、宇宙の意識と同一の純粋な意識そのものです。宇宙の意識こそが身体を作りセンス・マインドを作りました。従って、センス・マインドが創造された目的を達成し、両親と同様に永遠の生命を得るには、両親を探し出す努力が必要です。これこそ、唯一、人間が永遠の状態である住まいに戻り一体化出来る方法です。その時こそ、万物との一体感を感じ、今日の様な分離感を抱く事も無くなるでしょう。永遠なるものと自分との間に感じている距離感は消滅するのです。

既に前課で学んだ様に、宇宙では絶え間なく化学的な変化が続き、一つの段階にある本体は次の段階の本体に吸収されます。従って、永遠に個々の本体を保つには絶え間なく起る変化に従わなくてはなりません。何故なら、個人のエゴは宇宙の計画の中で存在する場がないものの、個々の本体は存在する場があり、個々のものが宇宙を構成しているからです。そして個人のエゴがその個々の本体に吸収される事を認めるのであれば、これは時には己を捨てて永遠の生命を得る事を表わす際に引用されますが、ちょうど大洋の海水に吸収される一滴の水の雫（しずく）と同じ状態になります。水の雫は確かに海水になりますが、個々の本体はその分子構造において保たれています。

ここで再びジグソーパズルを例に挙げます。ピースを一個人に見立てると、他のピースの間に置かれて遂に絵が完成されます。その結果全体からの分離という個人的なフィーリングは消え、絵の一部分でありながら絵全体の感覚を得ます。今生においてもあなたは

個として様々な体験からなる一構成部分・ユニット（単位）です。個としてのあなたは以前のあなたを吸収し化学的变化を繰り返してきました。従って、あなたの宇宙的な本体は、全く分割される事なく継続（進歩）して来たのです。あなたの生命は各段階において連続し、誕生から今日に至る迄、以前の段階を包含したものです。一肉体に受胎された日から今日に至る迄、存在に関する脈動は全て宇宙の記録に残されています。どんな脈動も行為も除外される事は一切ありません。あなたの身体は今生では二十歳ないし九十歳の間の記録があるとしても、永遠の中ではわずか一秒の一〇〇〇分の一にも満たないのです。しかし、今生において、あなたはその中の何かをカウントし毎秒ごとに新しいフォームを生みだしています。一個体として毎秒ごとに吸収・再生を繰り返してあなたは生命の今の段階に導かれて来たのです。

しかし、センス・マインドはこの様な判断をしません。けれども、マインドが意識と融和（一体化）すると、生命を得て以来何年もの間に起った変化の全てを顧みる事が出来ます。それにも関わらず、一瞬たりともその個体は本体を失う事はありません。しかし、センス・マインド即ち個性は自分が何であるか気づかずに何度も自己を見失っています。

個性というものは僅かな時間で変化します。例えば、異なる年令の時に撮った写真が現在の自分とは全く別人に見える事からも分かります。一方、本体の意識は変わらず存在しています。結果であるマインド、即ち個性は常に最も抵抗の少ない習慣に従おうとし、社会的環境の中に自分を押し込めようとしています。これが社会という同じ型の中に組み込まれていても他人に対し違和感を持つ理由です。これこそエゴ、即ちセンス・マインドが宇宙の原理と自分に対して無知である証拠です。個人の本体とエゴを分離させるとこの様な状態が生じます。（※自分の行為に責任を持ちなさい）

本体（意識）は、センス・マインドにとって可視・不可視どちらであっても、全てを同時に認めますが、センス・マインドは目に見えるもの（三次元）だけを認めます。しかし、マインドが見たものに疑問を感じる時、目に見える現象の内奥に何かが存在する（意識・四次元・因）かもしれないと気づきます。ところが、マインドはそれをはっきり認めようとしません。隣人や世間の目を恐れるからです。これは、個人の本体（意識）はマインドに覚醒を促しているにも関わらず、マインドは世間の常識から外れる事を恐れるという事実を表しています。

世の中には本当の意味での個人主義者はほとんどいません。稀（まれ）にいても世間と馴染（なじ）まず、一般社会に不適応な人と見なされて大変苦勞します。歴史的に見ても偉大な人物は皆一般社会の規範に従わない異端者でした。彼らは本当の意味の個人主義者で、先天的に生命の深い意味を理解する能力を与えられていたのです。

講座を進める前に、いわゆる物質界とは靈的、即ち生命の不可視（宇宙の意識・四次元）の部分から生じた結果である事を思い出して下さい。ちょうどあるアイデアを言葉にし、形として現わすまでは目に見えないのと同じです。全てのものが支えとなる不可視（宇宙の意識・四次元）な存在があつてこそ存在するのです。最近科学者達は不可視（宇宙の意識・四次元）の宇宙空間からある程度の物質を引き出す方法についての知識を得ました。今日では数年前に知られていたよりも更に多くの元素が存在しています。又、高価な貴金属が数種存在しますが、大量生産するにはコストが高く生産出来ません。しかし、この物質も不可視の宇宙空間から取り出されたのです。これは不可視の状態から可視（三次元）の状態が生じ、再び不可視の状態に戻る事を証明するものの一つです。そして、このプロセス（手順）は何度も繰返されます。これは次のステップにおいて神秘的な手段を用いずに宇宙を観察し旅する為の支えとなるでしょう。しかし、これは生命からなる意識の海の中にセンス・マインドを拡張する事で可能になるのです。

では、マインドを拡張するとは何を意味するのでしょうか。それには真の知識を得たいという要求がその基盤とならなくてはなりません。ここで機械装置を一つ例に挙げましょう。

天文学の初期に、小型光学機械が宇宙空間に輝く星を観察する為に作られました。これは、ちょうど一つの輝く光として見えるものを更に観察・研究する為に、機械装置を用いて行なう一種の視覚の拡張でした。そして、人間はその光が固体か否か・固体であれば表面に何が存在するのか知ろうとしました。月は地球に最も近く大きな物体である為、最初に観察の対象となり、山脈やクレイターが月面上に発見されました。肉眼で山脈やクレイターを見る事は不可能であり、従つて天体望遠鏡は知識の拡張を助ける為、機械で作られた目と言えるでしょう。これらは全て知識を得たいという要求があり現実化したのです。つまり、人間のマインドの内奥にある何か（意識・フィリング）、地球以外にも生きる場所は沢山あると伝えていたのです。

時の経過に伴い光学機械を用いて視野を拡張する技術は進歩し続けました。今日ではパロマー山上の200インチ天体望遠鏡（※1964年当時）が、かつては未知であつた不可視の宇宙空間に存在する天体に関する知識を伝えてくれます。しかし、これも序の口に過ぎません。更に電波天体望遠鏡が多く、ものを明らかにするでしょう。顕微鏡に関しても同様です。

人間の感覚器官が自分だけに関心を持ち、意識を用いなければ、果してこうした技術的進歩をなし得たでしょうか。しかし、この意識・人間の不可視の部分は、フォーの持つ生命である因の中へと更に深く探求する様に人間を駆り立てます。実際の人間、即ち感覚器官（心・マインド・三次元）に依存している人間は、その半身である因（意識・四次元）から離れてしまいました。故に、宇宙の中では点一つ程の微小な存在であつても不可欠な存在であると知る為に、不可視なものの奥に焦点を定める装置が必要になったのです。そして、宇宙に存在する物事を知る事は人間の義務です。こうした装置を用いて宇宙空間を探索する様にマインドは意識に駆り立てられ

るので、この文明において、今まで決して知る事のなかった宇宙空間に関する知識を次々に発見しているのです。この事から、人間のマインドが意識の指令を受け入れるならば、意識は決して過った指令を出さない事が分かります。その際、印象はマインドに都合良く変更される事なく感受されます。これこそ、唯一、意識がマインドに与える印象は正しいものであるとマインドに証明出来る方法です。

しかし、宇宙の全てを人間に解明してくれる機械が作られる事はないでしょう。人間のマインドと対をなす意識を用いる事こそ、唯一、人間が全宇宙について学ぶ方法です。従って、今まで使用された機械装置類は意識の指令に対する信頼・信念・確信をマインドに抱かせる事になるでしょう。かつては存在しないと思われたものが実在すると判明した過去の観測や体験を通して我々は学ぶべきです。それは、意識により印象としてもたらされるものは皆、どこかに存在しているからです。従って、マインドは今までの様に自分勝手な判断ではなく、意識による指令を受けるべきです。宇宙の意識によって与えられるものを現実のものとして受け入れなければなりません。即ち、この事はセンス・マインドが半身（意識）を発見し、全宇宙の一部となる唯一の方法です。

イエスは――見なくても信じるものは幸いだ――と述べています。視覚では宇宙の遙か遠方を見る事は出来ませんが、意識の目は見る事が出来ます。そこで機械装置を使って行なった事をセンス・マインドに行なわせる事にします。それまで不可視であったものを機械装置によって見る事をマインドが受け入れた場合と同じ様に、今度は機械の代わりに意識を用いる事をマインドに認めさせるのです。そして、望遠鏡で見たものを信じた様に意識によって見たものを信じるのです。

一度に多くを見ようとしてはいけません。望遠鏡を使用する時と同じ様に、あなたのマインドを意識の中に少しずつ拡張（浸透）しなさい。無理に行なうてはいけません。自然のままに行なうて下さい。我々は生命の満ちた永久不滅の海へ入るのであれば時間は充分にあります。ゆっくり進歩する方が早く進歩しようとして過ちを犯して混乱するよりも良いのです。忍耐をあなたの基盤としてマインドを意識の中に徐々に拡張（浸透）させましょう。意識は印象をマインドに伝えますが、初めは違和感を持つ事を忘れてはいけません。新しい物事は全てそうです。マインドを幼い子供の様に素直にさせて印象に耳を傾け、映像を観察させる様にすると良いのです。この時マインドが疑問を起こし、与えられた印象から都合の良いものを作り出さない様にしなければなりません。

一度に感受される印象は常に全体像からするとほんの一部分にすぎない事を忘れてはいけません。ジグソーパズルの様に、ピースの全てを見る事も、どこにピースが当てはまるかも知る事は出来ません。絵を完成するにはピースが順々に置かれる必要があります。要なのです。その絵の余白を世間で蓄積した勝手な考えで埋めてはなりません。それは個人的な好みによるものです。受けた印象を少しでも疑ってはいけません。それは神を疑う事と同じです。以上の様にすると、何れがこの世の中に蓄積された知識か又は宇宙的な印象が見分けられます。

世俗的（習慣的）な印象を感受する場合がありますので惑わされてはいけません。マインドが馴染んでいるこれらの印象の多くは、それが宇宙的性質を帯びたものであり所定の場所に置かれるなら、絵の一部として適合する場合があります。

しかし、受けた瞬間には恐らく適合しないでしょう。これらのアイディアは世俗的（習慣的）な体験がある為に、置かれるべき場所に落ち着く前に無理やり適当な場所に入り込もうとする場合があります。ちょうど画家が黄色を使うべき時に赤の印象が続いてやって来た為に、赤の濃淡をつける印象の方を選択する様なものです。

印象がそつと囁く声のように伝えられる場合には、誰かがあなたに話しかけている様に感じますが、これはあなたの意識があなたのマインドが慣れている言葉という形を用いて表しているのです。又、印象を言葉では表現出来ない時もあります。映像の形で印象が伝えられて、特にそれがカラーの場合、前頭部の中にあるマインドのスクリーン上に意識によって焦点が定められます。少なくとも私の経験ではそうです。恐らくこれらの事が理解されていない為に第三の目、又は千里眼などと言い表されているのです。仏像の前頭部に宝石が埋め込まれていますが、これは視覚の拡張を意味し実際の両眼と三角形を成します。イエスはこれを―視覚を統一し、マインドを統一せよ―と言っています。ここで、イエスはマインドの再生について述べているのです。我々はこの講座でマインドと意識を融合し一体化させて一構成部分となる努力をしています。イエスはまさにその事を言おうとしたのでした。これによって意識とマインドの分離は消滅します。何故なら、人間は完全な人間となるからです。

マインドが促進する傾向にある、願望に基づいた考えを出来る限り避けなければなりません。つまり、マインドは好みに従い空想を描く傾向があるのです。印象には二つの状態が存在するという心象を空想は促進させます。マインドは空想する傾向が強く、二つの顔を持つ人間など風変わりなものを創る時もあります。顔の一つは後ろに、もう一つは前にありますが、自然はこの様な頭部を創る事はありません。私が空想について述べるのは、印象や映像は意識を通じて伝えられますが、空想と大変密接に関わっている為です。

マインドは空想力に長（た）けている為に、意識からその活動をコピーします。コピーする事により偽物が生み出されるには、先ず本物が存在しなくてはなりません。空想の際にこうした事が起こるので、充分注意する必要があります。本物の印象とコピーの印象の違いを区別出来る人は殆んどいません。発明家や芸術家はこの方法を駆使し思いがけない新しい発明をします。この様に本物の印象とは常に可能性を帯びているのです。

スペース・ピープルが地球人と異なる進歩の道を歩んで来たとしても、人間が宇宙を旅する可能性を示してくれました。従って我々もいずれ意識から伝えられる印象に従う事によって宇宙旅行が出来る様になります。故に人間が到達しなければならないゴールとは、

意識にマインドを融合（一体化）させる事なのです。

この観点の基に推理すると、印象の片方は風変わりな創作を導き出し破壊的であり、他方は惜しみなく建設的です。そこで、建設的な論理の方を、真実の評価を得る為に用いなくてはなりません。そして、何事も真実を知ろうとするのであれば、個人的な意見に囚（とら）われてはいけません。これは、日常生活において他人と共に生活する場合に大変賢明な方法です。

それでは、第一段階へ進む事にしましょう。先ず、あなたはマインドをリラックスさせなくてはなりません。これは、唯一、マインドが本来の目的の為に自分への関心を失った（消した時）に行なう事が出来ます。ある少年が野球に夢中になっているとします。もし野球の他に学びたいものがあれば、野球に対する興味を完全にマインドから消さなくてはなりません。そして学ぼうとするものに充分な注意を払う必要があります。

眼を開けたままでこれを行なうのは難しい場合もあります。見えるものに注意力が妨げられるからです。従って伝えられる印象や映像に充分注意を集中する為に目を閉じて行なうと良いでしょう。初めは五分ないし十分以上は行なうべきではありません。又、初めから結果を期待し過ぎないで下さい。

知識を得ようとする時にマインドを失望させてはいけません。手に注意を集中してじっと見つめる方法も効果的な練習だと思えます。こうする事で、手が如何にあなたの役に立つか、生活においてどんな価値を持つかが分かります。手から充分に重要な印象を受けた後、眼を閉じてどんな印象がやって来るか待つのです。これをマインドが推測する事なく正しく行なうならば、あなたの手は活発に活動する無数の細胞から構成され、絶えず活動している様子が分かります。爪や関節などを構成するタイプの分子からも知識を感じます。そして如何なる機械装置を用いて見るよりも精密に、手の構造やエネルギーの動きを見る事が出来るでしょう。身体が如何に機能するかを知りたい時、この方法は人体の如何なる部分にも応用出来ます。

こうした研究から、今まで経験した事のない程、進歩に対してあなたは自信を持つ事になり、正しい方法で学んでいる事が分かるでしょう。あなたは視覚で見る事が出来ないものを見、言葉にされない言葉を聞く事が出来るからです。そして、マインドからは独立していながら、全てのものと関連しているあなたの身体とその機能を理解し始めるでしょう。

この段階から、我々は望遠鏡を用いる場合と同様に、生命からなる意識の海に気づく状態へマインドを拡張出来ます。更に、万物を培養する孵卵器である宇宙空間へとマインドを拡張する事も出来ます。そして、不可視の宇宙空間に興味を持てば持つほど、眼では見る事の出来ない印象を、意識はより多くマインドに伝えます。何も存在しないと考えられた宇宙空間には、マインドが想像出来るより

も遙かに多くの活動が起こっているのです。

かつて全く経験した事のない様な印象や映像を受ける場合もあります。手を用いた実験で印象を受ける事が出来る様に、宇宙空間における活動やこれから起ころうとする出来事の印象を感受出来ます。

あなたの感受する印象がどの様なものかをここで詳しく述べる事は出来ません。自分の印象を受ける代わりに私の話した事に影響される場合があるからです。しかし、この方法で練習された後、私宛に結果を伝えて頂くとあなたが研究を正しく進めているかどうか判断出来ます。

あなたは練習する為に、外に出て行く事も空を見上げる事も必要ありません。室内で行なう事が出来るのです。何度か試して上手く行かないからといって失望しない事です。良い結果を得るには、取り除かなくてはならない世俗的（習慣的）な障害が沢山あります。この講座であなたが学んだ意識とマインドに関する知識を持たずに学んだ為、私も習得するのに何年も掛かりました。

常に記憶すべき事はひとつ、意識とは、全てを包括するパワーであり英知であるという事です。意識は万物の孵卵器であり創造主です。そして、マインドとは意識の指令を遂行する為に創造されました。（※訳注1）

意識は全てを知る存在ですが、マインドは知りません。故に、マインドは意識の生徒であるべきです。マインドが過ちを避けたいならば、意識による指令に従う事を学ばなくてはなりません。（※訳注2）

以上で、我々は、次の講座で宇宙空間の探査に進む為の確かな基盤を作りました。そこで、如何に宇宙旅行の準備が整い、共に真実と直面出来るか調べる事にしましょう。

（※訳注1・マインド（心）は意識の指令を遂行する為に創造されている）

（※訳注2・意識とは宇宙の英知の無限の表現である）

第十一課 宇宙空間を探索する

前課では、宇宙空間への探索旅行を約束しました。そこで本課では、あなたが論理的な手順を如何に的確に受け止められるか調べましょう。

かつて宇宙空間には何もないと考えられていました。肉眼では何も見えなかったからです。しかし、近年の機械装置の発達に伴い、宇宙空間は活動している事、又、不可視の構成分子が充満し、その構成分子からフォーム（創造物・万物）が作り出されている事が分かっています。この事を意識は我々のマインド（心）に伝えようとして来ましたが、不可視な現象は目で見る事が出来ない為にマインドは受け入れようとしませんでした。そして、機械装置を用い現象を認識して初めて意識の正しさが立証されたのです。天体・惑星は皆、宇宙空間に存在する構成分子から生れます。その構成分子は感覚器官である視覚では見えなくても意識（フィードバック）で見る事が（認識する事が）出来ます。

肉眼は窓ガラスの様なもので、それを通して意識が対象を見る事は前課で述べました。そこで引き続き、意識を通して見る方法について話を進めます。物質の構成分子は大小様々で、種々のガス層に砂嵐が混合した様な凄まじいスピードで宇宙空間を移動しています。微粒子が結合する時には電磁気と呼ばれる引力によって更に他の微粒子を集めます。惑星が形成される時にはこの引力が持続され、質量が増す事で中央に向かい巨大な圧力が加わり、後に惑星となる球の中心部が燃焼し始め、球は熱を帯びて来ます。この熱が構成分子を徐々に固体に変え、惑星を構成する微粒子の中に眠っていた植物の種子の誕生を促します。そして、植物・昆虫類など我々が知る全ての物を惑星が生み出します。我々の住む地球も宇宙空間から生まれ、およそ時速1100マイル（1769.9 km/h）のスピードで宇宙空間を移動しています。従って、他の惑星も全て同様だと考えるのは理に適っています。当然、惑星の大きさは様々で鉱物類が他の惑星よりも多量に存在する惑星もあるでしょう。ちょうど地球においても地域差があるのと同じです。しかし、惑星は皆、宇宙空間に存在する共通の物質によつて構成されているのです。こうした活動の過程が分かれますか。そして、惑星がどの様に創造され、今も創造されているか分かれますか。また、宇宙空間の物質、即ち構成分子が樹木の様に惑星上で見る事の出来る万物を創造する能力を持つ事が分かれますか。意識が伝えるこうした物事をあなたのセンス・マインドが感受出来るのであれば、あなたは進歩している事になります。

前述の通り、宇宙空間、即ち意識には始めも終わりもなく、天体・他のフォーム、即ち太陽・彗星等の地球と同様の固体も無数に存在します。地球上で見る事が出来るものを地球が生み出したのであれば、他の惑星も地球と同じです。意識はこうした印象を我々に伝えてきます。我々の地球が年月を経てきた様

に、他の惑星も皆、年月に応じて状況に違いがあるかもしれません。地球上の文明でさえ栄枯盛衰を繰返し三十億ほどの人々が存在した時期もあるのです。また、地球において人間のマインドの発達に地域差がある様に、惑星によっても違いがあるでしょう。しかし、地理的な形態は地球上のそれと大差はありません。

他の惑星へ旅行に出る前に、白日夢・白昼夢 (day dreaming) と呼ばれる状態を取り上げてみましょう。この状態が起こると、マインドはそのとき置かれている状態に関心を失って、いわゆる夢に関心を奪われます。知覚状態にある意識はマインドの注意を引き寄せ、マインドは夢に完全に集中するので、人が前を通つても気づかないほどです。つまり、テレビ放送の回路が接続された様な状態が意識とマインドの間に設定され、意識が伝える映像にマインドが興味を惹かれると時間と距離は何の意味も持たなくなるのです。Inside The Space Ships (『第二惑星からの地球訪問者・アダムスキー全集第一巻・久保田八郎訳・中央アート出版社』) を読んで多くの人が私と体験を共にしました。私が目撃した光景や伝えられた知恵の言葉を記述する時に、胸中に強烈に沸き起こる感情も共に感じました。これこそまさにあなたが自分をその中に置くべき状態——マインドと意識が一体化した状態です。何故なら、マインドも意識も共に等しく実在するものだからです。

それでは土星旅行を試みましょう。我々は今地球と大差のない惑星の上にあります。但し、地球よりも大きさが七倍であるという環境の違いはあります。初めにマインドが注意を惹かれるものは、土星の空が地球の空と僅かに違う事です。空の青がオパールのような乳白色を帯びているのです。これは土星の輪が空中に光を反射する為です。その光景は息を呑むほど美しく、まるで神の目前にいないかと感じるほど素晴らしい光景です。ピルの多くは白く、乳白色を帯びた青色の空を反射して輝き、雪に覆われた山々も同様に輝いています。巨大な氷河地帯もあり空の色を鏡のように強烈に反射しています。この色の周波数が身体を貫くように思われて、今までの自分とは違う存在になったかの様に感じます。あなたは創造主の住まい、即ち探し求めていた天国にいる様に意識によって気づき始めます。初めにこの様な印象を意識はマインドに伝えてきます。全てがあまりに美しいので、現実の風景かどうかマインドは疑問を持ちますが、確かに堅い地面を歩いている事が分ります。

また、人々と交流すると奇妙な感じがします。誰もがまるで自分の一部の様に感じます。それは、土星の人々が我々の想念を見透かして何を考えているかを知っている様に感じるからです。そして、自分がここにいるのはふさわしくないのではないかと自分達をどう思うだろうかと動揺するかも知れませんが、これはマインドの習慣的な反応によるものです。土星の人々が我々を他人としてではなく兄弟姉妹として受け入れていると分かると、間もなく気楽に感じる様になるでしょう。土星の人々には嫉妬・羨望・差別等の感情は全く見られません。そして、彼らの家庭に招かれると、あらゆるものを平等に分け合っていることに気づきます。これはとくに女性間で顕著に見られ、ちょうど子供に対し母親が持つ感情に似た思いで尊敬し合っています。この感覚は姉妹間に見ら

れる尊敬の念よりも高尚なものです。又、全てのものに対する土星人の関わり方は、互いが必要であるという事に基盤を置いています。女性に対しては人間を産み出す母体として、地球人が聖母に抱く感情と同じ思いで男性は女性を尊敬しています。女性も男性を宇宙の原理を現わすもの・意識の男性部分・崇高な存在として等しく尊敬しています。男性も女性も共に各人の内部にある意識を宇宙の神聖な部分として認識しています。土星の人々の前にいると、まるで自分が新しく生まれ変わった様に感じるの、家も環境も洗練され土星に存在する全ての物と同様に住人の意識を反映している為です。土星はこの太陽系におけるバランス・調整を象徴する惑星です。

以上、要点だけをお伝えし、あなたが望むだろうと思われる詳細については述べませんでした。あなたが自分の意識によって土星に行く事に成功すれば詳細を知る事が出来ます。私は土星へ実際に宇宙船で行きましたので、あなたの印象の正確さや如何に的確に意識による探査が出来たか分かります。イエスは一人の思いのある所には本人もいるだろうと言いました。これは一人の意識のある所には本人もいると言えるでしょう。

さて、同じ方法で金星を観察しますと、金星は土星よりも小さな惑星で、通常は雲に覆われていますので、違いが見られます。雲の切れ間から太陽光線が差し込む場合もあり、空気は湿潤ですが重苦しさはありません。金星も形態は他の惑星とよく似て、氷雪地帯もあり、気候の変化に富んでいます。地理的環境からも、金星人は地球人や他の惑星人と大変良く似ています。又、金星の人々は物事に対し広い視野で興味を持ち、環境は土星に酷似しています。人間の諸問題を担当する多数の協力者からなる最高府が一つ設置されています。人々が互いに尊敬感を持つ点も土星と酷似しています。

惑星は各々に人間性の一つの面を象徴していますが、金星は万物を一体化させる宇宙的な愛を象徴する惑星です。農業及び必要な物資の製造は全て、使用目的でのみ生産する事を基本としています。又、個人の持つ才能は全て発達させ表現する為のチャンスが与えられています。表現されるものは皆、大変芸術的で、鑑賞すると精神的に高められます。これは金星人が表現するもの全てに愛を表現する為です。以上、基本的な情報を提示しましたので、あなたが意識によって金星を観察した事をこれに補うと良いでしょう。

それでは次に、火星に行く事にしますが、私はまだ実際に火星に行った事はありません。しかし、意識を通してみると、粗雑な印象を受け、商業と工業が盛んな点は地球にとてもよく似ています。農業は二次的に居住地域には水が不足し、主に乾地農法が行なわれています。水を供給する為に極冠や氷結地帯の水を溶かして水路で運んでいます。塩水が豊富で、最近では地球上でも地域によっては行なわれている様に真水に変換しています。塩水の運河があり、内陸部の都市へ船が運行されていますが、その都市でも塩水は真水に変換され利用されています。昔は塩水一に対し真水二の割合で混合が試みられました。しかし、真水の量が不十分であり、この混合水は農業には適しませんでした。火星においても人口の急増がみられます。来年には火星旅行が約束されていますので、実際に行つて意識から与えられた印象を私が如何に的確に感受出来たか分かると思います。

前述の通り、この様に意識が伝える事をマインドが信頼するならば、意識により宇宙を旅する事が出来ます。意識による旅行の方法を知らない人でも、無意識に何度も宇宙を旅している場合があります。これが睡眠中に起こると、目覚めた時にマインドに鮮やかな印象を与える夢として現れる場合があります。特にマインドが夢として思い出すには不可能なほど奇妙な場所の夢を見る事もあります。

意識とはフォームの如何に関わらず、万物がその中に生きている生命の海であるという事を忘れてはなりません。意識の外には生命は存在しません。マインドが意識の海の中で生き、生命そのものである意識の海に従わなくてはならないと気づく事によって、生命の海における活動の様々な段階にある、又、表現されるフォームの様々なタイプに関する新しい知識をマインドは感受し始めます。これは、海中を伝わって来る異変について海中の魚が感知出来るほど敏感であるのに似ています。宇宙のあらゆる場から印象を受ける能力をマインドが持つと気づくならば、生命の満ちた意識の海の中でこれと同じ敏感さを人間も持つ事が出来ます。この状態を理解し応用すると、距離に関係なく望む場所の何処へでも行く事が出来ます。真実のあなたとは意識である事を忘れてはいけません。マインドと身体はあなたの利用する道具です。

1930年代の始め頃に教室での講義中に頻繁に起きた事ですが、生徒が病気で授業を欠席したにもかかわらず、次の週にその生徒がクラスに出席した際、自分は欠席したが授業は受けたと言いました。つまり、私は欠席者のそばで講義をしていたのです。勿論、教室での講義を止めたものではありません。私はマインドと身体を通じて講義をする為にクラスの生徒の前にいました。同時に私の意識は病気の生徒のそばにもいたのです。この状態を例えると、一つのマイクロフォンに装備された二つのスピーカーを通して放送する様なものです。意識によって身体の中に存在するマインドへ伝えられた内容を、生徒達にも伝えていました。そして、一つの場所では身体として存在し、別の場所では想念体として存在していました。

ここで想念体について説明しましょう。人間とは意識を通じて想念を表現したものです。ちょうど影がフォームの存在を現わしているのと同じです。講義中の教室においては身体として、また病気の生徒のそばでは私のフォームの影として現われていたのです。想念体はどんなに遠い場所へ行く事も感受する事も出来ますが、身体は出来ません。

この現象は教室の外でも頻繁に起こりました。パサデナでの講義中に病気の友人を助けて欲しいと依頼されました。そこで、いつものように講義をしながら同時に病人の傍に行こうとしました。本人の居所や名前を知る必要はありませんでした。意識によって私は同時に二ヶ所にいたからです。その後、援助を願った婦人に会った時には、友人は直ぐに快方に向かい、短時間で病床から起き現在回復中であると言って大変喜んでいました。病気に限らず他のトラブルから人々を救出した経験もあります。この現象は睡眠中ではなく、覚醒時に仕事をしている最中に起こりました。従って、意識による旅行によって体験した事です。

しかし、私がUFO問題に関心を持つ様になると、これらの体験はなくなりました。これはイエスが言う様に、何れかをおろそかにせずに二人の主人に仕える事は出来ないからです。しかし、再びこうして教え始めましたので本来の奉仕する立場に戻ります。

こうした経験を述べるのは、人間の内奥の能力は本人の意識によって引き出されるのであり、神秘主義とは無関係である事をはっきりする為です。むしろそれは宇宙の法則を理解する事——人間の半身である意識の部分を理解する事なのです。人類の99%は意識の持つ能力、即ち意識を知覚する事に気づかず、生命の半身であるマインド（心）の部分だけで生きています。意識によってあなたは自由に宇宙の何処へでも行く事が出来ます。しかし、マインドに依存すれば一ヶ所に拘束されたままです。

私は講義を行なっている教室に身体的には拘束されていましたが、意識によって必要とされた場所に行きました。以上の法則は、マインドにおいて真実である様に意識においても真実です。意識は生命の永続する部分であり、一方マインドは生命の変化する部分です。マインド（心）は学びの途上にある為、常に変化しています。一方、意識は既に全てを知っているのです。

ところで、トランス状態とは何を意味するのでしょうか。一般に容認されているこの考え方は、前述の通り、霊的な指導者が導くと信じる事によって事実が誤って伝えられたものです。あなたの進歩の途上においてこの様な印象や映像を感じ受けても動揺しないで下さい。あなたの意識が意識の他の部分を見る時、このフーリング（印象）を感じる場合があるのです。全てを包容する意識をあなたのマインドはすぐには受け入れないという事を忘れてはいけません。従って、マインドが意識との関係において確実に進歩するまでは、印象は分割された状態、或いは異なる状態で伝えられます。

内径一インチ（2・54^{cm}）のホースは内径一インチ分の水を通しますが、一度ノズルから飛び出すと水は何百もの様々な大きさの形の水滴に分離します。そして、水滴はそれぞれ我々の尺度で特定され、大小に分類されます。しかし、水滴は植物の上に落ちて水分を補わせ、生命を与えて水と接触するものに物質としての形を保たせます。

水滴の本質は總体的に見ると他の全ての水滴と一体です。様々な水滴に分離した後、ホースの中で一体化している状態と本質的に違いはありません。そして、宇宙の意識の流れはこのホースの中の水と同じなのです。

意識が存在しなければ生きる事の出来ない低次元現象に奉仕し、役立つ為に常に意識は分割されています。言い換えれば、宇宙の父母は創造したものを決して見捨てる事はないのです。マインドがこのプロセスを理解しない場合は、神秘主義者が行なうて来た様に未知の現象を様々な分類しようとしています。そこで、マインドが理解出来ない物事を如何に分類するか示しましょう。それには変貌の山におけるイエスの体験を例に挙げる事が出来ます。

その時、イエスのマインドは意識によってトランス状態にありました。つまりイエスは意識の声に耳を傾け観察する為に、マインド（心）の意思を意識の

意思に完全に従わせていました。すると、イエスの容貌は多くの別々のフォーム（人物）を表わしながら変化したのです。それはイエスのマインドと意識がかつて実際に表現していたものでした。イエスは自分に何が起きているのか十分気づいていました。弟子たちはイエスを見守っていましたが、顔の表情が何度変わるのを観察し、モーセやその他の人々が現れたとイエスに伝えました。それを聞いたイエスは弟子たちに「私の生命はその多くの人々の生命である」と答えました。言い換えれば、イエスは生命のこれら全ての段階を経て生きてきたのであり、意識がマインドのスクリーン上にその状態を現したのです。故に、弟子達が観察している間にイエスの内なる生命の記憶が現在の段階にもたらされたのです。

こうしたイエスの体験は、あなたが自分の誕生した日まで記憶を蘇らせる場合に、マインドがトランス状態になり、あなたの現在に至る迄の成長過程を辿る事に関心を集中するのと同じです。あなたの意識は成長の様々な段階と体験して来た物事をマインドに伝え、それに伴ってあなたの顔の表情に変化が生じるでしょう。これがそのときのイエスに起こった事であり、弟子達が観察している間に実現したのでした。これこそ唯一の真のトランス状態であり、ここにおいてはマインドと意識が一体となって働く宇宙の原理が存在します。

一般に言われているトランス状態とは、皆、幻影・希望に基づく想念・自己催眠などに過ぎません。霊的指導者や高度に進歩した霊からの印象をマインドが受ける場合は特にそうです。こうした霊的指導者、いわゆる指導霊からのフィードバックを感じたときは用心しなくてははいけません。

あなたが信頼出来るものは唯一、意識——即ちあなたの半身です。だからこそ聖書には「私の前に偽りの神を持つな」と書いてあるのです。人間であれ他のいかなる生命体であれ、万物は多くの経験と変化を経てきました。我々が生命を永遠のものとして受け入れるのであれば、未来同様過去においてもまさしく同様に、我々は永遠です。故に、イエスは自分がこの世界のものなら闘うが私はこの世界の者ではないと述べているのです。

イエスが他の場所からこの世界に来たとすると、我々も皆どこか他の場所からここへ来たと考える事は不合理ではありません。イエスはこれを簡潔に「父の家には多くの住まいがある」と述べています。しかし、結果である人間のマインドが記録を持つ意識に従わない限り、これを理解する事は出来ないでしょう。意識に従ってこそ意識からの印象が伝えられるのです。

これは、映像による印象の感受や意識による旅行だけではなくいわゆるテレパシー現象も含まれます。従って、映像の形で意識から伝えられる印象を受け取るだけでなく、想念からの印象やそれが表現するものについてもあなたは感受する事が出来ます。

我々が常に高尚な気質を持っていたわけではないという事を忘れてはいけません。従って、感受する場面や印象によっては現在の我々の理解力では認め難く不快に感じる場合もあります。しかし、それも我々の発達の一部・生命の一部分です。その人達は皆、あなた自身ですから、自分の歴史の一部として受け入れて拒絶しない様にするべきです。もっと長生き出来るなら違う事が出来るのに——我々は何度も言ってきたではありませんか。我々は過去の行為に改良を加える事によって崇高な方向へと成長するのです。

※ 人間とは意識を通じて（意識の）想念を表現したものです。

※ 我々は過去の行為に改良を加える事によって崇高な方向へ成長するのです。

第十二課 要約 絶え間ない進歩のもたらすもの

第十一課では、意識からもたらされる印象は過去のあなたの一部であり、如何なるものでも除外してはならないと述べました。

これは極めて重要です。何故なら、生命とはジグソーパズルの様なもので、絵を完成させる為には如何なるパーツも欠かす事が出来ないからです。あるパーツを好まないからと言って他のパーツと入れ替えると、絵は完成しないでしょう。人間は好き嫌いによる生活を続けてきた為、こうした傾向は現在もありますが、生命の真実の絵を得る為にはこれを克服しなくてはなりません。何故なら、好まないからと言って他の何かと交換するのなら、神秘を作り出す事になるからです。そして、我々は真実・事実を求めているのです。

善・悪・無関心などは理解力の不足による法則の誤用に過ぎない事を忘れてはいけません。これらも全て宇宙の王国の中で起きているのです。決してその外で起きているではありません。例えばあなたが家の中で過ちを犯した子供であるとしても、過ちを通して物事の正しい方法を学ぶ事が出来るのです。生命を理解するには生命のあらゆる面に直面しなくてはなりません。

本講座の始めに述べた様に、あなたには物事を理解する為に分析する権利はありますが、批判・非難する権利はありません。批判は分析によく似ている為、批判や裁きと受け取られる場合もあります。しかし、あなたの動機が過ちを防いでくれます。あなたの動機が理解の為に目的を持つ高尚なものであれば、他人が何を言っても気にする必要はありません。そして、分析の際に過ちを犯した場合はそれを認めるのです。これがあなたの目的が高尚である証となります。社会的生活を長期にわたって続けて来た為、習慣が人間のマインドを支配する様になりました。そして、この支配力は世代毎に強まって来ました。従って、前述の通り、習慣から脱する事は簡単な事ではありません。しかし、我々はこの課題に熱心に取り組み、古い習慣を新しい知識に変えなくてはなりません。これがあなたの半身である意識を見つけ理解する方法です。

第一課では、生命を分析し因（意識・四次元）に気づくことについて述べました。更に因（意識・四次元）と結果（三次元）を同時に気づく事の重要性についても述べました。

あなたは心を観察し、又は意識から伝えられる印象によってあなたの感知力を増加させる様に努力を続けなさい。

第二課では、マインド（心）とその構成部分について解説しました。

マインド（心）が外部の知覚対象に完全に支配されない様にマインド（心）を観察しなさい。そして、身体の構成部分とその目的に気づく際、あなたのマインド（心）が公平に関心を払う様にしなさい。更に、身体の各部分、及び他のあらゆるフォーム（創造物・万物）の驚異的な働きに気づきなさい。

第三課では、宇宙の法則の応用について述べました。

少なくともこの法則がある程度生活の中心となる迄、あなたは日常生活においてこの法則を応用しなさい。万物の中でこの法則が働いている事を観察しなさい。何故なら、この法則が万物を動かしているからです。

第四課では、想像し得る最大から最小の現象に至る迄、あらゆる創造物の関連性について述べました。

万物が分離する事なく互いに依存（調和・奉仕）している様子を観察しなさい。

第五課では、あらゆる生命の英知とパワーは意識からもたらされる事を述べました。又、万物を通して如何に意識が表現されているかについて述べました。

第六課では、新鮮さについて述べました。

身体を若返らせる為には、先ずマインド（心）を若返らせる必要があります。進歩するあらゆる新しい物事にマインド（心）が興味を持つ時、身体は若返ります。

第七課では、宇宙的な記憶について、また過去の経験を活かす為の記憶の重要性について述べました。

記憶が永遠に存在する意識と融合（一体化）しない限り、マインド（心）は十分な記憶を保つ事は出来ません。

第八課では、宇宙の一体性について、また知識の欠乏によって人間が他人、及び他のフォーム（創造物・万物）との分離感を起こすかについて述べました。

イエスは弟子に対し―あなたが他人を傷つけるならばそれが誰であれ私を傷つける事と同じだ―と語りました。全体性の中には不和・分離はありません。マインド（心）の支配を万物の創造主である意識に代えるならば、孤独感や分離感は消え、創造主、即ち我々の宇宙的半身に対する親密感に置き換えられるでしょう。

第九課では、宇宙的な細胞と世俗的（習慣的）な細胞の活動について述べました。これは、ちょうど人間に役立つ様に自然界の資材を用いて物を作る事に似ています。マインド（心）の習慣によって我々は世俗的（習慣的）な細胞を作ります。何故なら、マインド（心）は父（意識）の可能性を持つ息子の様なものだからです。マインド（心）が父（意識）を信頼しない場合、マインドは自分勝手に働きます。そして、この宇宙の法則の誤用によって、宇宙の創造主とマインド（心）の作り手の間に分離が生まれます。故に、父（意識）と子（マインド・心）は一体となつて働かなくてはならないのです。イエスは―私と父（意識）は一体である。私であるマインド（心）と意識は一体である。そうでなければ私は何事もなし得ない。しかし、私を通して父（意識）が全てをなし給う―と言いました。これは、私であるマインド（心）は意識なくしては何事もなし得ず、意識がマインド（心）を通してあらゆる物事を行なう事を意味しています。従つて、意識のないマインド（心）は死んでいるのです。

第十課では、宇宙を旅する事について述べました。イエスは「人の思いのある所には本人もいる」と語っています。これは人が意識によっていると気づいているならどこでも、本人もそこに居ることを述べているのです。

第十一課では、宇宙空間の探査、及び意識としての宇宙を説明しました。

そして、意識にマインド（心）を融合（一体化）させる事によって、宇宙空間のあらゆる領域を探査する方法についても述べました。繰り返しますと、人の思いのある所には本人も居るのですが、これを分析してみましよう。

ある人がビルの中に入り、そこにある特定のものに興味を惹かれると、他のものを見落とします。この覚醒している状態を説明する為に次の例をあげましよう。

二人の男性が居酒屋に入っていきます。一人は観察力があり、大きな美しい絵がある事や魅力的な女性が一人で座っている事など、マインドに多くの事を記憶させます。くつろいだ後、二人は居酒屋を立ち去ります。そこで、観察力豊かな一人が、素晴らしい絵の事や魅力的な女性が一人で居た事などを話し始めます。ところが他の一人は、飲む事だけに関心があり、他に何も見ませんでした。しかし、話を聞くと関心を持ち、自分も見たいので店に戻ろうと言い出しました。以上は、二人の人間が意識による旅をしたとしても、ある人は他の人よりも多くのものを見る場合がある事を示す例です。

第十二課は、言うまでもなく、本講座全ての要約です。

受講者全員が生命を理解する為に誠実に努力し、本講座を自分の一部とする事を望みます。しかし、これは、与えられた多くのポイントを繰り返し学ぶ為の単なる入口に過ぎず、あなたは宇宙の自己を更に拡大・成長させる事になるでしょう。あなたに必要なものは他に何一つありません。何故なら、あなたの成長に必要な道具（※自分自身の肉体・半身）は全て備わっているからです。

世の中は進歩しますので、時おり新しい知識をスペース・プラザーズから得る事が出来るでしょう。情報を得る必要があれば、リストにあなたの名前を加えるので知らせて下さい。（アダムスキーは1965年に他界）本講座によってあなたがどのような効果を得たか・又、講座に関する疑問を知らせて下さい。おそらく個人的に質問に答える事は出来ませんが、適切な時期に質疑応答のパンフレットを作成しましょう。

本講座を学ぶ事によって、あなたの方のうちのどれほどの人が研究グループを組織するに十分なほど成長したか、スペース・プラザーズは知りたいと望んでいます。そしてこの方法によって自分を知り、同様に他人を助け、より良い社会にする事が出来るでしょう。

あなたが学んできた本講座は、個人の目的を達成する為のものとしてスペース・プラザーズにより慎んで捧げられたものです。進歩の為の永遠の道が包まれた個人宛ての贈り物として、我々はこの講座を慎んで受けるべきです。

言うまでもなく、マインドは与えられるもの全ての分野を記憶する事は出来ず、マインドを進歩させる為には何度か繰返して読まなくてはなりません。一日に少なくともある講座の二ページを読み、そこに述べてある事を意識しながら生活する事は大変有益です。すると、初めに比べて多くの物事(知識)を吸収している事を知りあなたは驚くでしょう。

本講座は二十年後に読んでも現在と全く変わらぬ素晴らしい価値があるでしょう。本講座が伝える内容に終わりは無いからです。

本講座はあなたの生活のバランスを得る為の道標となるでしょう。あなたの方の多くが人生を充実させたいと望んでいる事は良く理解しています。そして、本講座の中で得た知識を応用する事によって充実した人生を得られると私は確信しています。緩慢(かんまん・ゆっくり)な進歩に失望しないで下さい。緩慢な進歩は堅実な成長です。しかし、多くの習慣を変化させなくてはならない為、初めは簡単ではありません。良質なものや最も価値ある金鉱等は地表には存在しません。困難な仕事であっても我々は掘り出さなくてはならないのです。そして、あなたの本体である真珠を見つけるには、深く掘り下げなくてはなりません。それには勇気と決意が必要ですが、忍耐強くこれを成し遂げた人は永遠の幸福を見つめます。

私は自分の意識から決してあなたを除外しません。プラザーズも同様です。進歩への旅の途上であなたを援助しましょう。創造主の思いと意識があなたの意識の中に現れますように。あなたが宇宙の英知と共に歩み語りますように。

見聞きせずに信じる事の出来る人は幸いです。見聞き出来ないものが宇宙なのです。即ち、不可視(目に見えないもの・耳に聞こえないもの)なものがパワー・英知であり、それによつて我々は見聞き出来るのです。従つて、あなたのマインド(心)を信じる様にあなたの意識(半身)を信じる事です。そうすれば、あなたは直ぐにこれまでずっと別れていたあなたの半身である宇宙的自己と共に歩き始める事になります。生命の真のエッセンスの満ちた盃が今あなたの前に置かれています。日々これを飲めばあなたは決して渴く事はありません。

宇宙の意識は噴水に例える事が出来ます。噴水の水は空へと勢いよく噴き出し、無数の小さな水滴となつてあらゆる方向へ降り注ぎ、再び池の水と一体化します。この様に、知識は人間の内奥に包含され、人間が自己の本体と一体化する事によつて開かれ、応用される為に存在しています。そして、その永遠性の中で、絶え間なく理解力を増しながら立つその時々、の頂点から、生命を眺める事が出来るのです。

人間は空を飛ぶ鳥の喜びを共に感じる事も、草花が成長し花開く複雑な繊細さを深く味わう事も出来ます。更に、宇宙の秩序整然たる様子に驚異の念を抱く事も出来ます。そして、観察するにつれて、人間も又その様に完全な計画の一部である事に、謙虚さと感謝の念を抱き始めます。

宇宙の意識を感じられる様になると生命を理解する事になり、あらゆる結果を因なる意識の現れと見なします。忍耐と熱意を持つて学びなさい。そうすれば、あなたは真の自分とあらゆる生命が一体である事が分かります。相互に関連する宇宙の絵画が織りなす美の現実、一つ一つの体験と同じ様にあなたの生活

の一部となり始めます。

《 要約 》

寄せられた様々な報告によると、本講座の受講者は意識を知覚する事を応用して実際に奇跡を起こしています。地球・他の惑星に関わりなく、意識とは、創造物を通して永久不変に表現されているという事を忘れてはいけません。何故なら、意識の中でアイデアは生まれ、それは無限であるからです。聖書には「神は今も昔も永遠に存在し、その創造物から自然の中に見られる様々なフォームが育まれる」と書かれています。こうしたアイデアは様々な目的のための青写真、即ちパターンとして分類されます。しかし、ただ単にアイデアとして心に抱くだけでは何の価値もありません。何故なら、実行する事が現象を生み出す為には必要だからです。

ここで注目すべきは、神と呼ばれる創造主は意識の中のアイデアに気づいていた事です。しかし、アイデアを実現する為には宇宙に存在する構成分子を様々な組み合わせによりフォーム（創造物・万物）とする為に応用する必要がありました。しかし、構成分子そのものはいかなるフォーム（創造物・万物）を造り出すべきかを理解するだけの知識を持ちませんでした。それで固有の表現を形作る為に、構成分子を望ましいパターンに導く指令が、言葉、即ち周波数（バイブレーション）により与えられました。とはいえ、与えられた命令を受ける事が出来るほど十分な英知を少なくとも構成分子は持っていた事になります。

旧約聖書の創世記には「最初に創造されたものは虚空でありフォームは無であつた。二度目の創造でフォームが現れはじめた」と書かれています。しかし、ここで注目すべきは、創造主はパワー・精霊に指令を与えた事です。つまり、構成分子の中に僅かに存在する英知に対して、遂行する様に命令が与えられたのでした。そして、構成分子の中には指令を遂行する為に必要な英知が存在する必要がありました。

聖書には人間としてのフォーム（創造物）が如何に創造されたか、万物についてと同様に明確に書かれています。創造主の意識の中にはフォームの現象化に対する疑惑は皆無でした。現象化するという絶対的な確信があつたからです。そして、命令は繰返されなかつた事に注目すべきです。命令は只一度与えられただけでした。これこそ我々が内奥で克服する必要がある確信であり、如何なるアイデアを望むにしろ、それが実現する事を知らねばなりません。言い換えれば、我々の持つアイデアがどの様なものであれ、自分に対し十分な信頼（信念・確信）を持つべきであり、アイデアを実現する為には僅かでも疑惑を挟んではならないのです。

何を行なうにしてもこの様な信頼（信念・確信）を持つと、創造主を信頼する事になります。そして、創造主と共に行なうのであれば不可能な事は何一つありません。

それでは、本講座を復習します。

はじめに、意識の中でアイディアが生み出される事を考察しましょう。アイディアを生み出した意識の能力に対して十分な信念と信頼を持ち、現象化するものの意識的な青写真を持ちます。

次に、青写真中のアイディアを逃さない様にして現象をイメージし、結果に対する十分な信頼を持ちながら言葉による命令を与えます。

意識とはアイディアを孵卵し創造するものであることに注目しなさい。霊・精霊とはパワーと英知です。そして、息子とは、意識に酷似し意識が既に持っていたイメージにおいて表現されたものであり、これら三者が三位一体を成します。この様に、万物において初めに意識があり―次に宗教的に言われてきた霊、即ち精霊があります。そしてそこに現象としての息子が存在するのです。

宇宙の数学、即ち創造的な数学においては、 $1+1=2$ ではありません。3になります。何故なら二つの原理が正確にプラスされると、常にある現象が生まれ、これが数字の3に相当するからです。そして、この三者は再び一体化し一つの完全な現象となります。電球が光る為にはプラス・マイナス両方の原理によるパワーを必要とします。また男性・女性共に子孫を生み出す為に不可欠です。これが絶え間なく続くフォーム再生の為の永久不変の活動です。この法則によれば不可能な事は何もありません。

マインド（心）と意識を等しく調和（融合・一体化）させて組み合わせると、人間は身体を完全な健康体に再建する事が出来ます。そして、この法則を理解しさえすれば必ず成功する事が出来ます。

重要な教示

本講座から良い効果を得る為に、鉛筆と手頃な紙を一枚用意して下さい。そして、各ページ・各段落を読む際に感受した印象を書き留めなさい。一度に多くを学び過ぎてはいけません。一ページを読み終える度に受けた印象を書き出す様にすると良い効果が得られるでしょう。

全講座を学んだならば再び学びなさい。すると、感受する印象が新しく変化している事に気づくでしょう。そして、新しい印象は初めの印象と混和されるでしょう。これが更に自分を成長させるプロセスです。

本講座は何度も繰り返し学びなさい。その度に感受する印象を書き取りなさい。学ぶ度にあなたは新しい印象を受けるでしょう。これは、本講座を学ぶ事によって徐々に高いレベルへとあなたが成長している事を示しているのです。この方法により、あなたは自分を指導する師となるのです。常に印象を書き留める事を忘れてはいけません。その記録を時々読み返し、如何に一つの印象が他の印象と混和されたか観察しなさい。本講座から新しい印象を受ける事が無くなる迄これを続けなさい。しかし、『生命の科学講座』は宇宙的な感知力（知覚力）を発達させる為のものであり学ばず事にはありません。従って、学び続けている間は本講座を復習する度に新しい印象を感受するでしょう。

この方法が続けると、やがて印象を書き留めたあなたの本が出来ます。成長し続ける為にあなたが書き続けた記録と同じプロセスに従いなさい。この方法によってあなたの生命ある限り、如何なるそれ以上の助けも必要とせずにあなたは進歩する事が出来ます。あなたは『真の自分』を現在の自分の師とするのです。この方法を用いるのであれば、生命のあらゆる分野を学ぶ事に終わりはありません。

ジョージ・アダムスキー